

**A8V-E**

*Deluxe*

**ASUS**<sup>®</sup>

**Motherboard**

J1781

第一版

2005年 1月

**Copyright© 2005 ASUSTeK COMPUTER INC. All Rights Reserved.**

購入者がバックアップの目的で利用する場合を除き、本書中に示されるハードウェア・ソフトウェアを含む、本マニュアルのいかなる部分も、ASUSTeK COMPUTER INC. (ASUS)の文書による明示的な許諾なく、再構成したり、転載・引用・放送・複写、検索システムへの登録、他言語への翻訳などを行うことはできません。

以下の場合、製品の保証やサービスを受けることができません：(1)ASUSが明記していない方法で、修理、改造、交換した場合。(2)製品のシリアル番号が傷つけられていたり、失われていた場合。

ASUSは、明示および暗示を問わず、いかなる保証もなく現状のものとして本書を提供します。ただし、市場の状況や特定の目的のための変更を除きます。ASUSの責任者、従業員、代理人は、本書の記述や本製品から生じるいかなる間接的、直接的、偶発的、二次的な損害（利益の損失、ビジネスチャンスの遺失、データの損失、業務の中断などを含む）に対して、その可能性を事前に指摘したかどうかに関りなく、責任を負うことはありません。

本書の仕様や情報は、個人の使用目的のためにのみ供給されます。予告なしに内容が変更されることがあります。しかし、この変更はASUSの義務ではありません。本書およびハードウェア、ソフトウェアの間違い・不正確さについて、ASUSは対応義務も責任もありません。

本書中の製品名や企業名は登録商標や著作物の場合があります。本書では、識別、説明、およびユーザーの便宜をはかる目的にのみ使用しており、権利を侵害する目的はありません。

# もくじ

ご注意 .....	vii
安全上の注意 .....	viii
本ガイドについて .....	ix
書体 .....	x
A8V-E Deluxe 仕様のまとめ .....	xi
<b>第 1 章: 製品の概要</b>	
1.1 ようこそ! .....	1-1
1.2 パッケージの内容 .....	1-1
1.3 仕様 .....	1-2
1.3.1 製品ハイライト .....	1-2
1.3.2 ASUS Proactive機能 .....	1-4
1.3.3 革新的なASUS機能 .....	1-5
<b>第 2 章: ハードウェアの取り付け</b>	
2.1 組み立ての前に .....	2-1
2.2 マザーボードの概要 .....	2-2
2.2.1 設置方向 .....	2-2
2.2.2 ネジ穴 .....	2-2
2.2.3 マザーボードのレイアウト .....	2-3
2.2.4 レイアウトの内容 .....	2-4
2.3 中央処理装置 (CPU) .....	2-6
2.3.1 概要 .....	2-6
2.3.2 CPUを取り付ける .....	2-6
2.3.3 ヒートシンクとファンを取り付ける .....	2-8
2.4 システムメモリ .....	2-10
2.4.1 概要 .....	2-10
2.4.2 メモリ構成 .....	2-11
2.4.3 DIMMを取り付ける .....	2-13
2.4.4 DIMMを取り外す .....	2-13
2.5 拡張スロット .....	2-14
2.5.1 拡張カードを取り付ける .....	2-14
2.5.2 拡張カードを構成する .....	2-14
2.5.3 割り込み割り当て .....	2-15

# もくじ

2.5.4	PCI スロット .....	2-16
2.5.5	PCI Express x16 スロット .....	2-16
2.5.6	PCI Express x1 スロット .....	2-16
2.6	ジャンパ .....	2-17
2.7	コネクタ .....	2-20
2.7.1	背面パネルコネクタ .....	2-20
2.7.2	内部コネクタ .....	2-22
<b>第 3 章: 電源をオンにする</b>		
3.1	初めて起動する .....	3-1
3.2	コンピュータの電源をオフにする .....	3-2
3.2.1	OSシャットダウン機能を使用する .....	3-2
3.2.2	電源スイッチのデュアル機能を使用する .....	3-2
3.3	ASUS POST Reporter™ .....	3-3
3.3.1	音声POSTメッセージ .....	3-3
3.3.2	Winbond Voice Editor .....	3-5
<b>第 4 章: BIOS セットアップ</b>		
4.1	BIOS の管理更新 .....	4-1
4.1.1	起動可能なフロッピーディスクを作成する .....	4-1
4.1.2	BIOSを更新する .....	4-2
4.1.3	現在のBIOSファイルを保存する .....	4-4
4.1.4	ASUS CrashFree BIOS 2 ユーティリティ .....	4-5
4.1.5	ASUS EZ Flashユーティリティ .....	4-7
4.1.6	ASUS Update ユーティリティ .....	4-8
4.2	BIOS 設定プログラム .....	4-11
4.2.1	BIOSメニュースクリーン .....	4-12
4.2.2	メニューバー .....	4-12
4.2.3	凡例バー .....	4-13
4.2.4	メニューアイテム .....	4-13
4.2.5	サブメニューアイテム .....	4-13
4.2.6	構成フィールド .....	4-13
4.2.7	ポップアップウィンドウ .....	4-14
4.2.8	全般ヘルプ .....	4-14

## もくじ

4.3	メインメニュー .....	4-15
4.3.1	System Time .....	4-15
4.3.2	System Date .....	4-15
4.3.3	Language .....	4-15
4.3.4	Legacy Diskette A.....	4-15
4.3.5	プライマリおよびセカンダリ IDE マスター/ スレーブ .....	4-16
4.3.6	HDD SMART モニタリング .....	4-17
4.3.7	取り付けられたメモリ .....	4-17
4.4	拡張メニュー .....	4-18
4.4.1	CPU 構成.....	4-18
4.4.2	チップセット .....	4-19
4.4.3	PCI PnP .....	4-21
4.4.4	オンボードデバイス構成 .....	4-23
4.4.5	USB Configuration .....	4-25
4.4.6	JumperFree 構成 .....	4-26
4.4.7	LAN ケーブルステータス .....	4-30
4.4.8	PEG リンクモード .....	4-30
4.4.9	スピーチ構成.....	4-31
4.4.10	インスタントミュージック構成 .....	4-32
4.5	電源メニュー .....	4-33
4.5.1	ACPI Suspend Type .....	4-33
4.5.2	ACPI APIC Support .....	4-33
4.5.3	APM 構成.....	4-34
4.5.4	ハードウェアモニタ .....	4-36
4.6	起動メニュー .....	4-37
4.6.1	起動デバイスの優先順位 .....	4-38
4.6.2	リムーバブルドライブ .....	4-38
4.6.3	ハードディスクドライブ .....	4-39
4.6.4	CDROM ドライブ .....	4-39
4.6.5	起動設定構成.....	4-40
4.6.6	セキュリティ .....	4-42
4.7	終了メニュー .....	4-44

# もくじ

## 第 5 章: ソフトウェアのサポート

5.1	オペレーティングシステムをインストールする .....	5-1
5.2	サポートCD情報.....	5-1
5.2.1	サポートCDを実行する .....	5-1
5.2.2	ドライバメニュー .....	5-2
5.2.3	ユーティリティメニュー .....	5-4
5.2.4	連絡先情報 .....	5-6
5.2.5	その他の情報 .....	5-6
5.3	ソフトウェア情報 .....	5-9
5.3.1	ASUS MyLogo2™ .....	5-9
5.3.2	AI NET 2 .....	5-11
5.3.3	オーディオの構成 .....	5-12
5.4	RAID 構成 .....	5-18
5.4.1	ハードディスクを取り付ける .....	5-18
5.4.2	VIA RAID構成 .....	5-19
5.5	RAIDドライバディスクの作成 .....	5-26
5.6	Cool 'n' Quiet!™テクノロジー.....	5-27
5.6.1	Cool 'n' Quiet!™テクノロジーを有効する .....	5-27
5.6.2	Cool 'n' Quiet!™ソフトウェアを起動する .....	5-28

## ご注意

### Federal Communications Commission Statement

This device complies with Part 15 of the FCC Rules. Operation is subject to the following two conditions:

- This device may not cause harmful interference, and
- This device must accept any interference received including interference that may cause undesired operation.

This equipment has been tested and found to comply with the limits for a Class B digital device, pursuant to Part 15 of the FCC Rules. These limits are designed to provide reasonable protection against harmful interference in a residential installation. This equipment generates, uses and can radiate radio frequency energy and, if not installed and used in accordance with manufacturer's instructions, may cause harmful interference to radio communications. However, there is no guarantee that interference will not occur in a particular installation. If this equipment does cause harmful interference to radio or television reception, which can be determined by turning the equipment off and on, the user is encouraged to try to correct the interference by one or more of the following measures:

- Reorient or relocate the receiving antenna.
- Increase the separation between the equipment and receiver.
- Connect the equipment to an outlet on a circuit different from that to which the receiver is connected.
- Consult the dealer or an experienced radio/TV technician for help.



---

The use of shielded cables for connection of the monitor to the graphics card is required to assure compliance with FCC regulations. Changes or modifications to this unit not expressly approved by the party responsible for compliance could void the user's authority to operate this equipment.

---

### FCC RF Radiation Exposure Statement

This equipment complies with the FCC RF radiation exposure limits set forth for an uncontrolled environment. This equipment should be installed and operated with a minimum distance of 20 cm between the radiator and your body.

### Canadian Department of Communications Statement

This digital apparatus does not exceed the Class B limits for radio noise emissions from digital apparatus set out in the Radio Interference Regulations of the Canadian Department of Communications.

**This class B digital apparatus complies with Canadian ICES-003.**

# 安全上の注意

## 電氣的安全性について

- ・ 本製品について作業を行う場合は、感電防止のため、電源コードをコンセントから抜いてから行ってください。
- ・ 本製品に周辺機器を接続する場合は、本製品および周辺機器の電源コードをコンセントから抜いてから行ってください。可能ならば、関係するすべての機器の電源コードをコンセントから抜いてから行ってください。
- ・ 本製品にケーブルを接続する場合は、電源コードをコンセントから抜いてから行ってください。
- ・ 電源延長コードや特殊なアダプタを用いる場合は専門家に相談してください。これらは、短絡事故の原因になる場合があります。
- ・ 電源装置が故障していないか、正しい電圧を出力しているか確認してください。電源装置に異常がある場合は、電源装置のメーカーにご相談ください。
- ・ 電源装置は、ご自分で修理しようとししないでください。修理はメーカーまたは専門家に依頼してください。

## 操作上の注意

- ・ 作業を行う前に、本製品に付属しているすべてのマニュアル・ドキュメントをお読みください。
- ・ 電源を入れる前に、ケーブルの接続を確認してください。また電源コードに損傷がないことを確認してください。
- ・ マザーボード上にクリップやネジなどの金属を落とさないようにしてください。短絡事故の原因になります。
- ・ 埃・湿気・高低温を避けてください。湿気のある場所で本製品を使用しないでください。
- ・ 本製品は安定した場所に設置してください。
- ・ 本製品を修理する場合は、代理店などの専門家に依頼してください。



# 本ガイドについて

本書は、マザーボードを使用する場合に必要な情報について説明したユーザーガイドです。

## 本ガイドの構成

本書は、以下の章から構成されています。

- ・ 第 1 章: 製品の概要  
本章では、マザーボードの機能とサポートする新機能について説明します。
- ・ 第 2 章: ハードウェアの取り付け  
本章では、システムの組み立てにおける、ハードウェアのセットアップ手順をリストアップします。また、マザーボードのジャンパやコネクタに関する説明も含まれます。
- ・ 第 3 章: 電源をオンにする  
本章では、電源をオンにする順序、音声によるPOSTメッセージ、システムの電源をオフにする方法について説明します。
- ・ 第 4 章: BIOS セットアップ  
本章では、BIOSセットアップメニューを通してシステム設定を変更する方法について説明します。BIOSパラメータの詳細についても説明しています。
- ・ 第 5 章: ソフトウェアのサポート  
本章では、マザーボードパッケージに付属するサポートCDの内容を説明いたします。

## 詳細情報

本書に記載できなかった最新の情報は以下で入手できます。また、BIOSや添付ソフトウェアの最新版があります。ASUS連絡先情報を参照してください。

1. ASUS ウェブサイト  
ASUSのハードウェア・ソフトウェア製品に関する最新情報があります。各国や地域に対応したサイトがありますので、ASUSサポート情報を参照してください。
2. 追加ドキュメント  
パッケージ内容によっては、追加のドキュメントが同梱されている場合があります。注意事項や購入店・販売店が追加した最新情報などです。これらは、本書がサポートする範囲には含まれていません。

## 本ガイドの表記について

本書では重要な注意事項について、以下の記号(アイコン)を用いています。表示内容をよく理解して必ずお守りください。



**危険/警告:** 感電やけがなどの人身事故を防ぐために必ず守らないといけない注意事項です。



**注意:** 装置や部品の故障や破損を防ぐために必ず守らないといけない注意事項です。



**重要:** 作業を正しく完了するために必ず守らないといけない注意事項です。



**注:** 作業を正しく完了するために必要なヒントと情報です。

## 書体

ボールド体テキスト

メニューまたは選択するアイテムを示します。

イタリック体

言葉または熟語を強調するために使用されます。

<キー>

< >に囲まれたキーは、囲まれたキーを押さなければならないことを示します。

例: <Enter> は、EnterまたはReturnキーを押さなければならないことを示します。

<Key1+Key2+Key3>

2つ以上のキーを同時に押さなければならない場合、キー名はプラス記号(+)で結びつけられています。

例: <Ctrl+Alt+D>

コマンド

示されたとおりにコマンドを入力し、括弧内に表示された適切な値を供給する必要があることを意味します。

例: DOSプロンプトで次のコマンドラインを入力します:

```
afudos /i[filename]
```

```
afudos /iA8V-E.ROM
```

## A8V-E Deluxe 仕様のまとめ

CPU	ソケット 939 対応のAMD Athlon™ 64FX / AMD Athlon™ 64 プロセッサ 32ビットおよび64ビットコンピューティングを同時に有効にするAMD 64アーキテクチャ AMD Cool 'n' Quiet! テクノロジをサポート
チップセット	ノースブリッジ: VIA® K8T890 サウスブリッジ: VIA® VT8237R
フロントサイドバス	2000 MT/秒
メモリ	デュアルチャンネルメモリアーキテクチャ バッファなし非 ECC 400/333/266 MHz DDRメモリモジュール向け 4 x 184 ピン DIMM ソケット 最大 4GB のシステムメモリをサポート
拡張スロット	1 x PCI Express x16 個別グラフィックスカード用スロット 2 x PCI Express x1 スロット 3 x PCI スロット
記憶装置	VIA® VT8237R サウスブリッジにより以下をサポート - 2 x Ultra DMA 133/100/66/33 - 2 x シリアル ATA (RAID 0、RAID 1搭載)
AI オーディオ	Realtek® ALC850 8 チャンネル CODEC 1 x 同軸 S/PDIF 出力ポート 1 x 光学 S/PDIF 出力ポート オーディオ感知および列挙テクノロジをサポート
LAN	Marvell® 88E8053 PCI Express™ Gigabit LANコントローラ Marvell® Virtual Cable Tester テクノロジをサポート POST ネットワーク診断プログラムをサポート
IEEE 1394	T1 TSB43AB22A 1394a コントローラが以下をサポート: - 1 x IEEE 1394 内部コネクタ - 1 x IEEE 1394 ポート
USB	最大 8 USB 2.0 ポートをサポート

(次ページに続く)

## A8V-E Deluxe 仕様のまとめ

AI オーバークロッキング	ASUS AI オーバークロッキング ASUS C.P.R. (CPUパラメータリコール) ASUS JumperFree 調整可能な CPU、メモリ、チップセット電圧 SFS システムバスを200 ~400 MHzまで1MHz単位で選択可能
特殊機能	ASUS Post Reporter™ ASUS Q-Fan 2 ASUS CrashFree BIOS 2 ASUS Multi-language BIOS ASUS MyLogo 2 ASUS Instant Music
BIOS 機能	4 Mb Flash ROM、Phoenix-Award BIOS、PnP、DMI2.0、WfM2.0、SM BIOS 2.3
リアパネル	1 x パラレルポート 1 x IEEE 1394 ポート 1 x LAN (RJ-45) ポート 4 x USB 2.0 ポート 1 x 光学 S/PDIF 出力ポート 1 x 同軸 S/PDIF 出力ポート 1 x PS/2 キーボードポート 1 x PS/2 マウスポート 8 チャンネルオーディオポート
内部コネクタ	1 x フロッピーディスクドライブコネクタ 2 x IDE コネクタ 2 x シリアル ATA コネクタ 1 x CPU ファンコネクタ 1 x 電源ファンコネクタ 2 x シャーシファンコネクタ 1 x シリアルポートコネクタ (COM ポート) 1 x 24 ピン ATX 電源コネクタ 1 x 4 ピン ATX 12V 電源コネクタ 2 x USB 2.0 コネクタ (4つの追加USB 2.0 ポート用) 1 x 内部オーディオコネクタ 1 x IEEE 1394 コネクタ 1 x GAME/MIDI ポートコネクタ 1 x シャーシ侵入コネクタ 1 x 前面パネルオーディオコネクタ システムパネルコネクタ

(次ページに続く)

## A8V-E Deluxe 仕様のまとめ

電源条件	ATX 電源装置 (24ピンと4ピンの12Vプラグ付き) ATX 12V 2.0規格
フォームファクタ	ATX フォームファクタ: 30.5 cm x 24.4 cm
サポートCDの内容	デバイスドライバ ASUS PC Probe ASUS Live update Utility アンチウイルス ソフトウェア(OEMバージョン)

\* 仕様は、将来予告なしに変更することがあります。

---

---

---

---

---

---

---

---

---

---

---

---

---

---

---

---

---

---

---

---

---

---

---

---

---

---

本章では、マザーボードの機能とサポートする新機能について説明します。

# 製品の概要

## 章のまとめ



1.1	ようこそ! .....	1-1
1.2	パッケージの内容 .....	1-1
1.3	仕様 .....	1-2



## 1.1 ようこそ!

ASUS® A8V-E Deluxe マザーボードをお買い上げいただき有難うございます!

このマザーボードは多くの新機能と最新のテクノロジーを提供し、伝統のASUS高品質マザーボードのひとつになります。

マザーボードとハードウェアデバイスの取り付けを開始する前に、パッケージに以下に一覧するアイテムが揃っていることを確認してください。

## 1.2 パッケージの内容

マザーボードパッケージに次のアイテムがあることを確認してください。

マザーボード	ASUS A8V-E Deluxe マザーボード
I/Oモジュール	IEEE1394 (1ポート) モジュール シリアルポートモジュール (COM ポート) USB 2.0 (2ポート)とGAME (1ポート)モジュール
ケーブル	2 x シリアル ATA 信号ケーブル 1 x シリアル ATA 電源ケーブル (デュアルプラグ) 2 x Ultra DMA/133 ケーブル 40 コンダクタ IDE ケーブル フロッピーディスクドライブケーブル
アクセサリ	I/Oシールド
アプリケーションCD	ASUS マザーボードサポートCD InterVideo® WinDVD Suite®
マニュアル	ユーザーガイド



上のアイテムがどれかが足りないときや破損しているときは、販売店にご連絡ください。

## 1.3 仕様

### 1.3.1 製品ハイライト

最新のプロセッサテクノロジー



AMD Athlon™ 64FXとAthlon™ 64 デスクトッププロセッサはAMDの64ビットと32ビットアーキテクチャをベースとして、業界で初めてx86-64テクノロジーを導入した製品です。このプロセッサは互換性、性能、投資保護、所有と開発に関わる総費用の削減において驚くほどのメリットを提供しています。2-6ページをご覧ください。

HyperTransport™テクノロジー



HyperTransport™テクノロジーは高速、低レイテンシ、ポイントツーポイントリンクで、コンピュータ、サーバー、埋め込み式システムの集積回路、ネットワーク、電気通信装置の間で、既存テクノロジーより最大48倍まで通信速度を上げるために設計されています。

AMD Cool 'n' Quiet!™テクノロジー



本マザーボードはAMD® Cool 'n' Quiet!™ テクノロジーをサポートし、CPUが実行するタスクに応じてCPU速度、電圧、電力量をダイナミックかつ自動的に変更します。4-18、5-27 ページをご覧ください。

デュアルチャネル DDRメモリのサポート



デュアルチャネルDDRメモリアーキテクチャを採用したこのマザーボードは、システムメモリのバンド幅を2倍にするソリューションを実現して、システム性能を高めています。また、DDR 400/333/266 非ECC DDR DIMMを使用して4GBまでのシステムメモリをサポートしながら、最新の3Dグラフィックスやマルチメディア、インターネットアプリケーションに対して最大6.4GB/秒のデータ転送速度を提供します。2-10 ページをご覧ください。

シリアル ATA テクノロジー



マザーボードは、シリアルATAインターフェイスを通して、シリアルATAテクノロジーをサポートします。SATA仕様により、少ないピン数と低電圧動作、薄くてしなやかなケーブル、そして最大150MB/秒のデータ転送速度を実現します。VIA VT8237R RAIDコントローラをオンボードで組み込んだマザーボードは、シリアルATAハードディスクドライブを使用するRAID 0 と RAID 1をサポートします。詳細については、2-23 および 5-18 ページをご覧ください。

## PCI Express™ インターフェイス

マザーボードは最新の I/O インターコネクトテクノロジーである PCI Express をサポートし、PCI バスのスピードアップを図っています。PCI Express は各デバイス間でポイントトゥポイントシリアル相互接続を提供し、パケットにデータを転送することによって、より高いクロック速度を実現しています。この高速インターフェイスは既存の PCI 仕様とソフトウェア互換性があります。詳細は 2-16 ページをご覧ください。

## AIオーディオテクノロジー

マザーボードは PC マルチメディアシステム用に設計された 16 ビット DAC、ステレオ 16 ビット ADC、AC97 2.3 互換マルチチャンネルオーディオを搭載した、オンボード ALC850 CODEC を通して、8 チャンネルオーディオをサポートしています。Jack-Sensing 機能、S/PDIF アウトのサポート、割り込み機能を提供し、Realtek® proprietary UAJ® (ユニバーサルオーディオジャック) テクノロジーも組み込んでいます。2-20、2-21 および 5-12 ページをご覧ください。

## S/PDIF デジタルサウンドレディー

本マザーボードは背面パネルおよびボード上の S/PDIF インターフェイスを通して、S/PDIF 出力機能をサポートします。S/PDIF テクノロジーは、お使いのコンピュータを、パワフルなオーディオおよびスピーカーシステムにデジタル接続できる高性能エンターテインメントシステムに変えます。詳細は 2-21 ページをご覧ください。

## IEEE 1394a のサポート

ボード上の IEEE 1394a インターフェイスは、IEEE 1394a に準拠する幅広い範囲の周辺装置やデバイスに、高速かつ柔軟性に富む PC 接続性を提供しています。IEEE 1394a により、コンピュータ、周辺装置、ビデオカメラ、VCR、プリンタ、TV、デジタルカメラなどの家庭用電化製品の間でインターフェイスを取る、簡単で、低コスト、高いバンド幅の非同期 (リアルタイム) データを通して 400Mbps までの転送速度を可能にします。詳細は 2-20 および 2-28 ページをご覧ください。

## USB 2.0 テクノロジー

本マザーボードはユニバーサルシリアルバス (USB) 2.0 仕様を実装して、接続速度を USB 1.1 の 12 Mbps バンド幅から USB 2.0 の高速 480 Mbps に大幅に高めています。USB 2.0 は USB 1.1 と下位互換性があります。詳細は 2-21、2-25 および 4-25 ページをご覧ください。

## 温度、ファン、電圧監視

CPU 温度は ASIC (Winbond Super I/O に統合)により監視され、過熱と損傷を防いでいます。障害の検出のためにシステムファンの回転数 (RPM) を監視します。ASIC は電圧レベルを監視して、重要なコンポーネントに安定した電流を供給します。詳細は 4-36 ページの「4.5.4 ハードウェアモニタ」をご覧ください。

### 1.3.2 ASUS Proactive機能



#### AI NOS™ (非遅延オーバークロックシステム)



ASUS Non-delay Overclocking System™ (非遅延オーバークロックシステム)(NOS)は、CPUの負荷を自動検知し、必要な時にだけCPU速度を大幅にオーバークロックする技術です。詳細は 4-26 ページをご覧ください。

#### AI NET 2



AI NET 2 は BIOS ベースの診断ツールで、イーサネットケーブルの障害とショートを検出して報告します。このユーティリティを使用して、LAN (RJ-45)ポートに接続されたイーサネットケーブルの状態を簡単に監視できます。起動プロセスの間に、AI NET 2 は LAN ケーブルを直ちに検出して、100 メートルまでのショートと障害を1メートルの精度で報告します。詳細は 4-30 および 5-11 ページをご覧ください。

### 1.3.3 革新的なASUS機能

#### Precision Tweaker

オーバークロック愛好者用に設計されたこの機能により、CPUとメモリ電圧を増加して最大のシステム性能を上げることができます。

#### PEG Linkモード

この機能により、システム構成に従ってPCI Express グラフィックス周波数を調整し、最適化されたグラフィックス性能を達成することができます。

#### CrashFree BIOS 2

この機能は、BIOS コードとデータが破壊した場合にサポートCDからオリジナルの BIOS データを復元します。この保護により、交換用 ROMチップを購入する必要がありません。詳細は 4-5 ページをご覧ください。

#### ASUS Q-Fan 2 テクノロジ

ASUS Q-Fan 2テクノロジーはシステムの負荷に従ってファン速度を素早く調整し、静寂性を保ちながら、必要な冷却も実現します。詳細は 4-36 ページをご覧ください。

#### ASUS POST Reporter™

本マザーボードは ASUS POST Reporter™ と呼ばれる新しい、面白い機能を搭載して、Power-on Self-Tests (Post)の間、親切な音声メッセージと警告を与え、システムの起動状態と起動エラーが発生したときはその原因を通知します。バンドルされた Winbond 音声エディタソフトウェアにより、異なる言語で音声メッセージをカスタマイズできます。詳細は 3-3 ページをご覧ください。

#### ASUS 多言語BIOS

多言語BIOSにより、利用可能なオプションから希望する言語を選択できます。ローカライズされたBIOSメニューでは、簡単かつ素早く構成することを可能にしています。4-15ページをご覧ください。

## ASUS MyLogo2™

マザーボードに搭載されたこの新機能は、システムに新しいスタイルを追加し、自分好みにカスタマイズしたブートロゴを表示します。詳細は 5-9 ページをご覧ください。

## ASUS インスタントミュージック

この独特な機能により、オペレーティングシステムに入らなくてもオーディオファイルを再生することができます。ASUS インスタントミュージックの特殊機能キーを押すだけで、音楽をお楽しみいただけます！ 4-32 ページをご覧ください。

本章では、システムの組み立てにおける、ハードウェアのセットアップ手順をリストアップします。また、マザーボードのジャンパやコネクタに関する説明も含まれます。

# ハードウェアの 取り付け

2.1	組み立ての前に .....	2-1
2.2	マザーボードの概要 .....	2-2
2.3	中央処理装置 (CPU) .....	2-6
2.4	システムメモリ .....	2-10
2.5	拡張スロット .....	2-14
2.6	ジャンパ .....	2-17
2.7	コネクタ .....	2-20



## 2.1 組み立ての前に

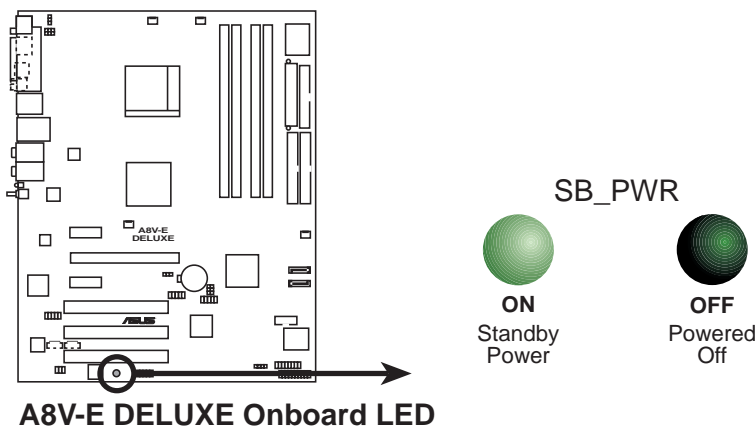
マザーボードに各パーツを取り付ける前やマザーボードの設定を変更する前に、次の事項に注意してください。



- ・ 各パーツに触れる前に、コンセントから電源コードを抜きます。
- ・ 静電気による損傷を防ぐために、各パーツに触れる前に、アースされたリストストラップを使用するか、電源装置のケースなど、安全にアースされた物体または金属物体に触れてください。
- ・ ICに触れないように、各パーツは両手で端を持つようにしてください。
- ・ 各パーツを取り外すときは、必ずアースされた静電防止パッドの上に置くか、コンポーネントに付属する袋に入れてください。
- ・ パーツの取り付け、取り外しを行う前に、ATX電源ユニットのスイッチがオフの位置にあるか、もしくは電源コードが電源ユニットから抜かれていることを確認してください。そうしないと感電したり、マザーボードや各パーツの故障の原因になります。

### オンボードLED

マザーボードにはスタンバイLEDが搭載されています。LEDが点灯している時は、システムがオン、スリープモード、ソフトオフモードになっていることを示します。これは、マザーボードに各パーツを取り付けたり、取り外したりする前に、システムを遮断し、電源ケーブルを抜く必要があることを意味しています。下のイラストは、オンボードLEDの場所を示しています。



## 2.2 マザーボードの概要

マザーボードを取り付ける前に、シャーシの構成を調べて、マザーボードがシャーシにフィットしていることを確認します。



マザーボードの取り付け、取り外しを行う前には、必ず電源コードを抜いてください。そうしないと感電したり、マザーボードや各パーツの故障の原因になります。

### 2.2.1 設置方向

マザーボードを取り付けるとき、シャーシを正しい方向に設置していることを確認してください。外部ポートのある端を、下の図に示すようにシャーシの背面部分に合わせます。

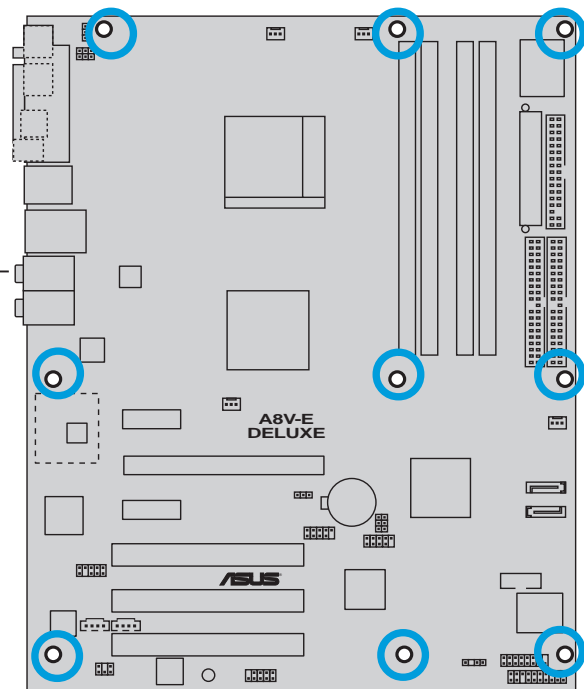
### 2.2.2 ネジ穴

9本のネジを円で示した穴に取り付け、マザーボードをシャーシに固定します。

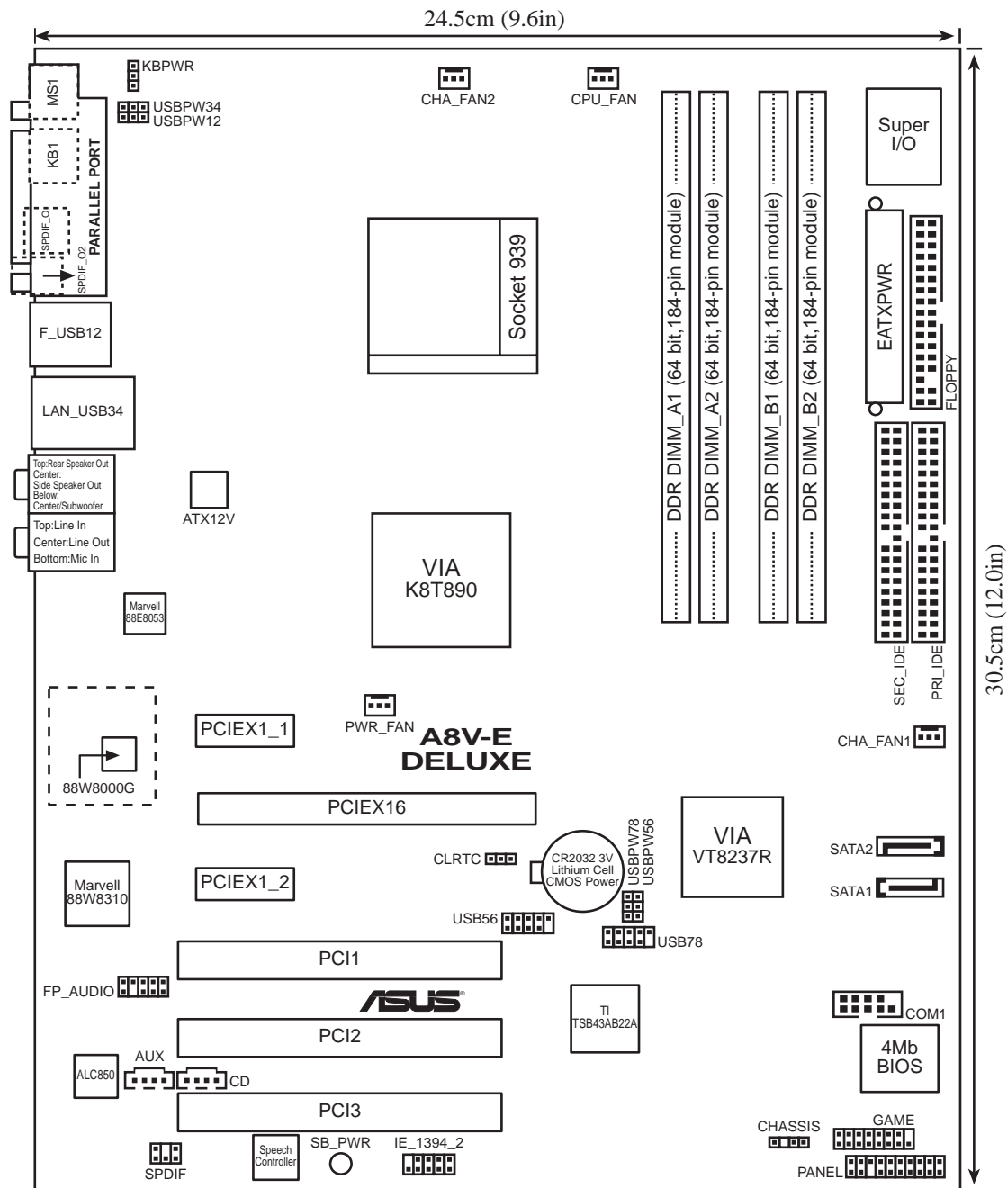


ネジをきつく締めすぎないでください! 締め過ぎるとマザーボードが破損する原因となります。

この面をシャーシの背面に  
合わせます



## 2.2.3 マザーボードのレイアウト



## 2.2.4 レイアウトの内容

スロット	ページ
1. DDR DIMMスロット	2-11
2. PCI スロット	2-16
3. PCI Express x16 スロット	2-16
4. PCI Express x1 スロット	2-16

ジャンパ	ページ
1. Clear RTC RAM (3ピン CLRTC)	2-17
2. USB デバイスウェイクアップ (3ピン USBPW12、USBPW34、USBPW56、USBPW78)	2-18
3. キーボード電源 (3ピン KBPWR)	2-19

背面パネルコネクタ	ページ
1. パラレルポート	2-20
2. IEEE 1394 ポート	2-20
3. RJ-45 ポート	2-20
4. リアスピーカー出力ポート(グレー)	2-20
5. 側面スピーカー出力ポート(黒)	2-20
6. ライン入力ポート(ライトブルー)	2-20
7. ライン出力ポート(ライム)	2-20
8. マイクポート(ピンク)	2-21
9. センター/サブウーファポート(イエローオレンジ)	2-21
10. USB 2.0 ポート3 および 4	2-21
11. USB 2.0 ポート1 および 2	2-21
12. 光学 S/PDIF出力ポート	2-21
13. 同軸 S/PDIF出力ポート	2-21
14. PS/2 キーボードポート(紫)	2-21
15. PS/2 マウスポート(緑)	2-21

内部コネクタ	ページ
1. フロッピーディスクドライブコネクタ(34-1ピン FLOPPY)	2-22
2. プライマリ IDE コネクタ (40-1ピン PRI_IDE)	2-22
3. セカンダリ IDE コネクタ (40-1ピン SEC_IDE)	2-22
4. シリアル ATA コネクタ (7ピン SATA1、SATA2)	2-23
5. CPU ファンコネクタ (4ピン CPU_FAN)	2-24
6. 電源 ファンコネクタ (3ピン PWR_FAN)	2-24
7. シャーシファン コネクタ (3ピン CHA_FAN1)	2-24
8. シャーシファン2 コネクタ (3ピン CHA_FAN2)	2-24
9. シリアルポートコネクタ (10-1ピン COM1)	2-25
10. USB ヘッダー (10-1ピン USB56、USB78)	2-25
11. ATX 電源コネクタ (24ピン EATXPWR)	2-26
12. ATX 12V 電源コネクタ (4ピン ATX12V)	2-26
13. 内部オーディオコネクタ (4ピン CD、AUX)	2-27
14. GAME/MIDI ポートコネクタ (16-1ピン GAME)	2-27
15. シャーシ侵入コネクタ (4-1ピン CHASSIS)	2-28
16. IEEE 1394 コネクタ (10-1ピン IE1394_2)	2-28
17. 前面パネルオーディオコネクタ (10-1ピン F_PANEL)	2-29
18. デジタルオーディオコネクタ (4ピン SPDIF)	2-29
19. システムパネルコネクタ (20-1ピン PANEL)	2-30
- システム電源 LED (緑3ピン PLED)	
- ハードディスクドライブアクティビティLED (赤い 2ピン IDE_LED)	
- システム警告スピーカー (オレンジ4ピン SPEAKER)	
- 電源ボタン/ソフトオフボタン (黄色2ピン PWR)	
- リセットボタン (青2ピン RESET)	

## 2.3 中央処理装置(CPU)

### 2.3.1 概要

マザーボードには、AMD Athlon™ 64FX、または Athlon™ 64 プロセッサ用に設計された表面実装 939 ピンゼロインサクションフォース(ZIF)ソケットが付属しています。

これらのプロセッサの128ビット幅のデータパスでは、32ビットまたは64ビット幅のデータパスしか持たないプロセッサよりずっと高速にアプリケーションを実行できます。

CPU のマークされた隅(金色の三角形付き)に注意してください。取り付けを正しく行うには、このマークがソケットの特定の隅に合わせる必要があります。

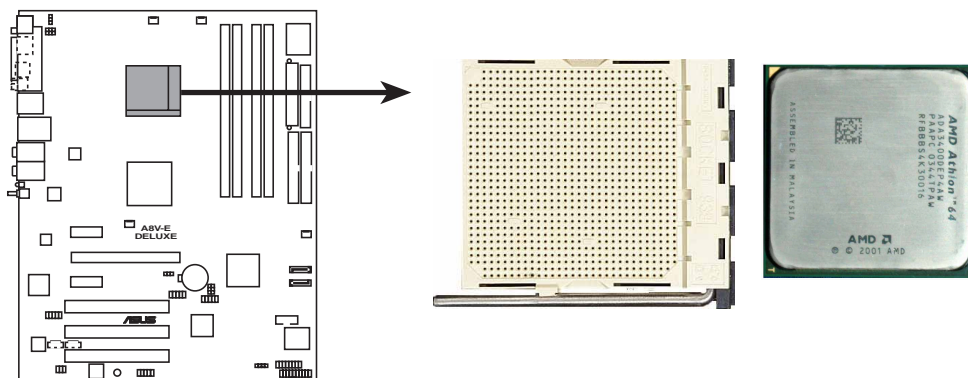


金色の三角形

### 2.3.2 CPUを取り付ける

CPU を取り付けるには、次の手順に従います:

1. マザーボードの CPU ソケットを確認します。

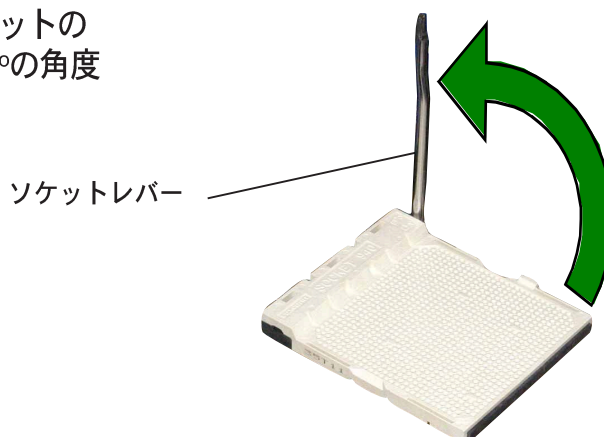


A8V-E DELUXE CPU Socket 939



CPUを取り付ける前にCPUソケットを手前に向け、ロードレバーが向かって左側にあることを確認してください。

2. レバーを横側に押し、ソケットのロックを解除し、90°-100°の角度まで持ち上げます。



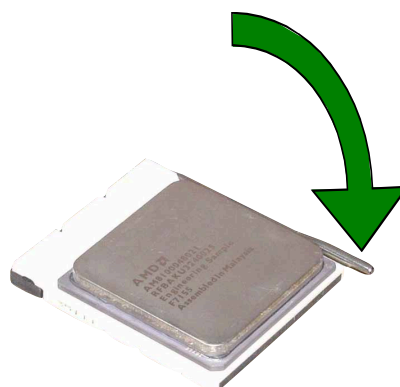
ソケットレバーが90°-100°の角度に持ち上げられていることを確認してください。そうでないと、CPUは完全にフィットしません。

3. CPUの金色の三角形のある隅がソケットの小さな三角形がある隅に合うように、CPUをソケットの上に置きます。
4. CPUが適切な位置にフィットするまで、ソケットにそっと差し込みます。



CPUは1つの方向にしか正しくフィットしません。CPUをソケットに差し込むときに無理に力を入れないでください。ピンが曲がったり、CPUが損傷する原因となります。

5. CPUを適切な場所に取り付けたら、ソケットレバーを押し下げてCPUを固定します。レバーがサイドタブでカチッと鳴ると、ロックされたことを示します。



### 2.3.3 ヒートシンクとファンを取り付ける

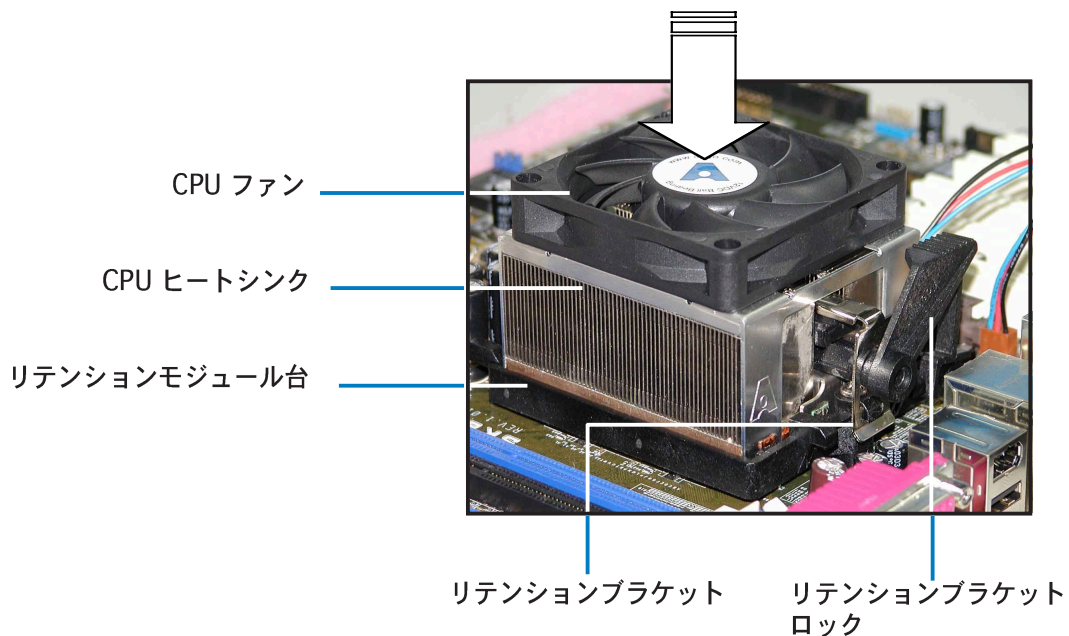
AMD Athlon™ 64FX、またはAMD Athlon 64™プロセッサは、最適の熱状態と性能を確実にするには、特別に設計されたヒートシンクとファンアセンブリを必要とします。

以下の手順に従って、CPUヒートシンクとファンを取り付けてください。

1. 取り付けたCPUの上部に、ヒートシンクがリテンションモジュール台に正しくフィットしていることを確認しながら、ヒートシンクを配置します。



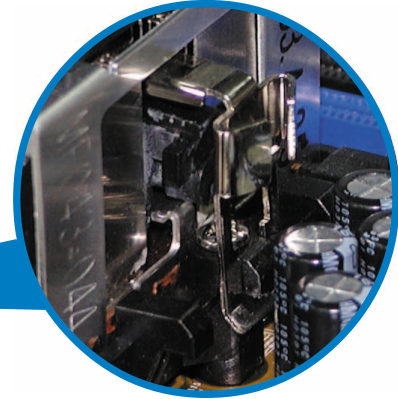
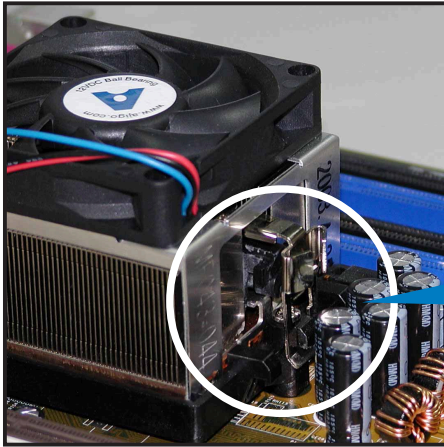
- ・ リテンションモジュール台は、購入されたマザーボードにすでに取り付けられています。
- ・ CPUまたはマザーボードコンポーネントを取り付けるとき、リテンションモジュール台を取り外す必要はありません。
- ・ CPUヒートシンクとファンアセンブリを個別にお買い求めになった場合、ヒートシンクとファンアセンブリを取り付ける前に、感熱糊がCPUヒートシンクやCPUに正しく塗布されていることを確認してください。



箱入りCPU ヒートシンクとファンアセンブリにはCPU、ヒートシンク、リテンションメカニズム用のインストール説明書が付属しています。本項の説明がCPUの説明と一致しないときは、CPUの説明に従ってください。



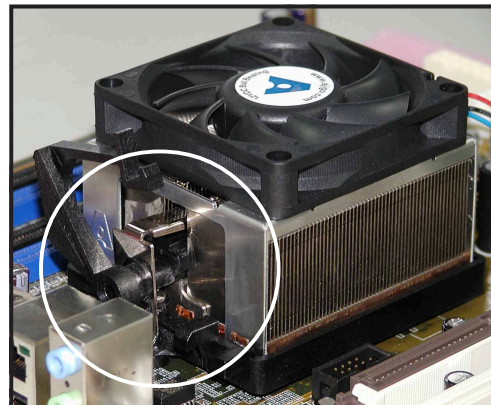
- リテンションブラケットの一方の端をリテンションモジュールベースに取り付けます。



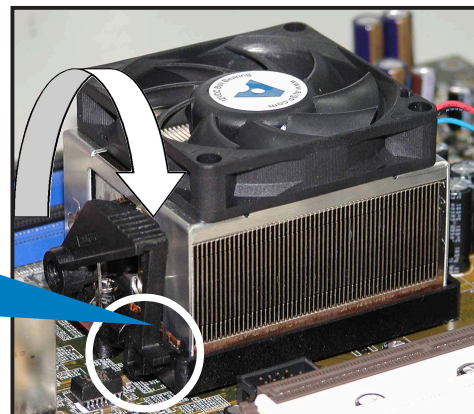
- リテンションブラケットのもう一方の端（リテンションブラケットロックの傍）をリテンションモジュールベースに一直線に揃えます。クリック音がすると、リテンションブラケットは正しい位置に取り付けられたことを示します。



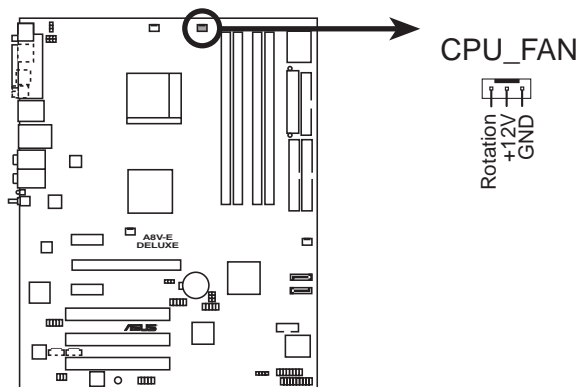
ファンとヒートシンクアセンブリが、リテンションメカニズムモジュールベースにフィットしていることを確認してください。そうでないと、リテンションブラケットを正しい位置に取り付けられません。



- リテンションブラケットロックをリテンションメカニズムに押し下げ、ヒートシンクとファンをモジュールベースに固定します。



5. ファン、ヒートシンク、リテンションメカニズムを適切な位置に取り付けたら、CPUファンケーブルをCPU\_FANとラベルされたマザーボードのコネクタに接続します。



**A8V-E DELUXE CPU\_Fan connector**



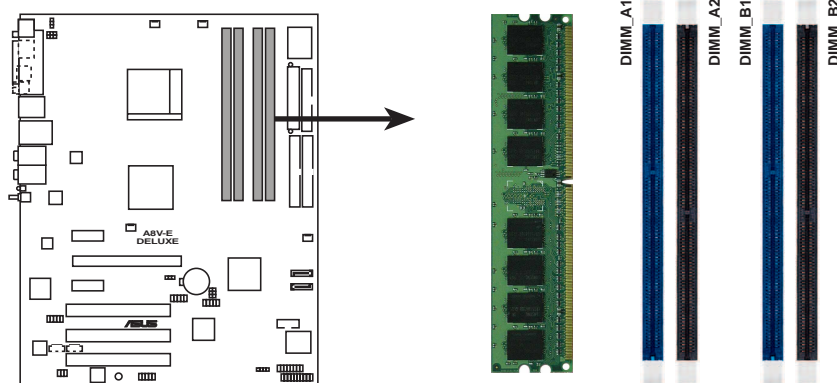
CPUファンコネクタの接続を忘れないでください! このコネクタを接続しないと、ハードウェア監視エラーとCPUの過熱が発生する可能性があります。

## 2.4 システムメモリ

### 2.4.1 概要

マザーボードには、4つの184ピンダブルデータレート (DDR) デュアルインラインメモリモジュール(DIMM)ソケットが搭載されています。

次の図は、DDR DIMMソケットの場所を示しています。



**A8V-E DELUXE 184-pin DDR DIMM sockets**

チャンネル	ソケット
チャンネル A	DIMM_A1 と DIMM_A1
チャンネル B	DIMM_B1 と DIMM_B2

## 2.4.2 メモリ構成

本項のメモリ構成を使用して、256MB、512MB、1GB バッファなし非 ECC DDR DIMM を DIMMソケットに取り付けることができます。



- デュアルチャンネル構成の場合、チャンネルあたり取り付けられているメモリモジュールの合計サイズは同じでなければなりません(DIMM\_A1 + DIMM\_A2 = DIMM\_B1 + DIMM\_B2)。
- 常に同じ CAS レイテンシを持つ DIMM を取り付けてください。最適の互換性を得るために、同じベンダーからメモリモジュールをお求めになることをお勧めします。次ページのASUS 公認のDDR 400 ベンダーリストをご覧ください。
- チップセットリソース割り当てにより、4つの 1 GB DDR メモリモジュールを取り付けているとき、全容量はシステムメモリーとして検出することはできません。
- このマザーボードは 128Mbit または両面 x16 メモリモジュールをサポートしていません。
- CPU制限により、単一チャンネルメモリ構成に対してはチャンネルBスロットに取り付けてください。

## DDR 400 QVL

サイズ	ベンダー	モデル	ブランド	サイド	コンポーネント	DIMM サポート		
						A	B	C
256MB	KINGSTON	KVR400X64C3A/256	Hynix	SS	HY5DU56822BT-D43	•	•	•
512MB	KINGSTON	KVR400X64C3A/512	Hynix	DS	HY5DU56822BT-D43	•	•	
256MB	KINGSTON	KVR400X72C3A/256	Mosel	SS	V58C2256804SAT5(ECC)	•	•	
512MB	KINGSTON	KVR400X72C3A/512	Mosel	DS	V58C2256804SAT5(ECC)	•	•	
256MB	KINGSTON	KVR400X64C3A/256	Infineon	SS	HYB25D256800BT-5B	•	•	•
512MB	KINGSTON	KVR400X64C3A/512	Infineon	DS	HYB25D256809BT-5B	•		
256MB	KINGSTON	KVR400X64C3A/256	KINGSTON	SS	D3208DL2T-5	•	•	•
512MB	KINGSTON	KVR400X64C3A/512	KINGSTON	DS	D328DIB-50	•		
1024MB	KINGSTON	HYB25D512800BE-5B	N/A	DS	KVR400X64C3A/1G	•		
256MB	SAMSUNG	M381L3223ETM-CCC	SAMSUNG	SS	K4H560838E-TCCC(ECC)	•	•	•
512MB	SAMSUNG	M381L6423ETM-CCC	SAMSUNG	DS	K4H560838E-TCCC(ECC)	•	•	•
256MB	SAMSUNG	M368L3223ETM-CCC	SAMSUNG	SS	K4H560838E-TCCC	•	•	•
256MB	SAMSUNG	M368L3223FTN-CCC	SAMSUNG	SS	K4H560838F-TCCC	•	•	•
512MB	SAMSUNG	M368L6423FTN-CCC	SAMSUNG	DS	K4H560838F-TCCC	•	•	
512MB	SAMSUNG	M368L6523BTM-CCC	SAMSUNG	SS	K4H510838B-TCCC	•	•	•
256MB	MICRON	MT8VDDT3264AG-40BCB	MICRON	SS	MT46V32M8TG-5BC	•	•	•
512MB	MICRON	MT16VDDT6464AG-40BCB	MICRON	DS	MT46V32M8TG-5BC	•	•	
256MB	Infineon	HYS64D32300HU-5-C	Infineon	SS	HYB25D256800CE-5C	•	•	•
512MB	Infineon	HYS64D64320HU-5-C	Infineon	DS	HYB25D256800CE-5C	•		
256MB	CORSAIR	CMX256A-3200C2PT	Winbond	SS	W942508BH-5	•		
512MB	CORSAIR	VS512MB400	VALUE seLecT	DS	VS32M8-5	•		
1024MB	CORSAIR	TWINX2048-3200C2	N/A	DS	N/A	•		
256MB	Hynix	HYMD232645D8J-D43	Hynix	SS	HY5DU56822DT-D43	•	•	•
512MB	Hynix	HYMD264646D8J-D43	Hynix	DS	HY5DU56822DT-D43	•	•	
256MB	GEIL	GE2563200B	GEIL	SS	GL3LC32688TG-5A	•	•	•
256MB	GEIL	GD3200-256V	GEIL	SS	GLIL DDR 32M8	•		
512MB	GEIL	GD3200-512V	GEIL	DS	GLIL DDR 32M8	•		

(次ページに続く)

サイズ	ベンダー	モデル	ブランド	サイド	コンポーネント	DIMM サポート		
						A	B	C
256MB	TwinMOS	M2G9I08AIATT9F081AADT	TwinMOS	SS	TMD7608F8E50D	•	•	•
256MB	TwinMOS	M2G9I08A8ATT9F081AADT	TwinMOS	SS	TMD7608F8E50D	•	•	•
512MB	TwinMOS	M2G9J16A8ATT9F081AADT	TwinMOS	DS	TMD7608F8E50D	•	•	•
256MB	Transcend	TS32MLD64V4F3	SAMSUNG	SS	K4H560838F-TCCC	•	•	•
512MB	Transcend	TS64MLD64V4F3	SAMSUNG	DS	K4H560838F-TCCC	•	•	•
1024MB	Transcend	TS128MLD64V4J	SAMSUNG	DS	K4H510838B-TCCC	•	•	•
512MB	Transcend	TS64MLD64V4F3	Mosel	DS	V58C2256804SAT5B	•	•	•
256MB	Transcend	TS32MLD64V4F3	SAMSUNG	SS	K4H560838E-TCCC	•	•	•
256MB	Apacer	77.10636.33G	Infineon	SS	HYB25D256800CE-5C	•	•	•
512MB	Apacer	77.10736.33G	Infineon	DS	HYB25D256800CE-5C	•	•	•
256MB	Apacer	77.10639.60G	ProMOS	SS	V58C2256804SCT5B	•	•	•
512MB	Apacer	77.10739.60G	ProMOS	DS	V58C2256804SCT5B	•	•	•
512MB	A DATA	MDOSS6F3H41Y0N1EOZ	SAMSUNG	DS	K4H560838F-TCCC	•	•	•
256MB	A DATA	MDOHY6F3G31Y0N1EOZ	Hynix	SS	HY5DU56822CT-D43	•	•	•
256MB	A DATA	MDOAD5F3G31Y0D1EO2	N/A	SS	ADD8608A8A-5B	•	•	•
512MB	A DATA	MDOAD5F3H41Y0D1EO2	N/A	DS	ADD8608A8A-5B	•	•	•
256MB	Winbond	W9425GCDB-5	Winbond	SS	W942508CH-5	•	•	•
512MB	Winbond	W9451GCDB-5	Winbond	DS	W942508CH-5	•	•	•
256MB	KINGMAX	MPXB62D-38KT3R	N/A	SS	KDL388P4LA-50	•	•	•
512MB	KINGMAX	MPXC22D-38KT3R	N/A	DS	KDL388P4LA-50	•	•	•
512MB	ATP	AG64L64T8SQC4S	SAMSUNG	DS	K4H560838D-TCC4	•	•	•
1024MB	ATP	AG28L64T8SMC4M	MICRON	DS	MT46V64M4TG-5BC	•	•	•
256MB	NANYA	NT256D64S88C0G-5T	N/A	SS	NT5DS32M8CT-5T	•	•	•
512MB	NANYA	NT512D64S8HC0G-5T	N/A	DS	NT5DS32M8CT-5T	•	•	•
256MB	BRAIN POWER	B6U808-256M-SAM-400	SAMSUNG	SS	K4H560838D-TCC4	•	•	•
256MB	ProMOS	V826632K24SCTG-D0	N/A	SS	V58C2256804SCT5B	•	•	•
512MB	ProMOS	V826664K24SCTG-D0	N/A	DS	V58C2256804SCT5B	•	•	•
256MB	Deutron	A8C53T-5B1T	PSC	SS	A2S56D30CTP	•	•	•
512MB	Deutron	AL6D8C53T-5B1T	PSC	DS	A2S56D30CTP	•	•	•
256MB	Novax	96M425653CE-40TB6	CEON	SS	C2S56D30TP-5	•	•	•
512MB	Novax	96M451253CE-40TB6	CEON	DS	C2S56D30TP-5	•	•	•

サイド: SS - 片面      DS - 両面

DIMM サポート:

- A - シングルチャンネルメモリ構成で、任意のスロットに差し込み、一つのモジュールをサポート。
- B - デュアルチャンネルメモリ構成の一つのペアとして、黄またはブラックのスロットに差し込み、一つのペアのモジュールをサポート。
- C - デュアルチャンネルメモリ構成の二つのペアとして、黄とブラックのスロットに差し込み、4枚のモジュールをサポート。



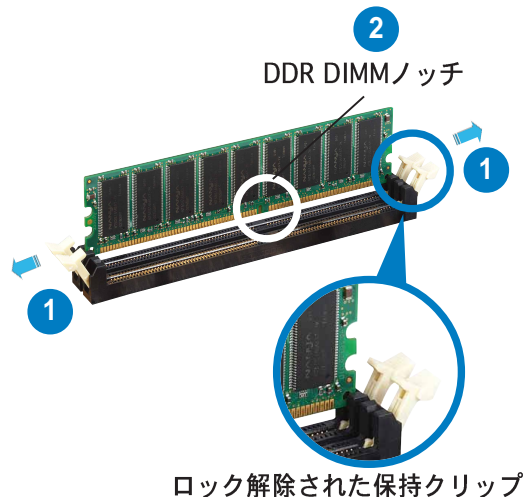
最新の DDR 400 QVL については、ASUS の Web サイト ([www.asus.com](http://www.asus.com)) にアクセスしてください。

## 2.4.3 DDR DIMMを取り付ける



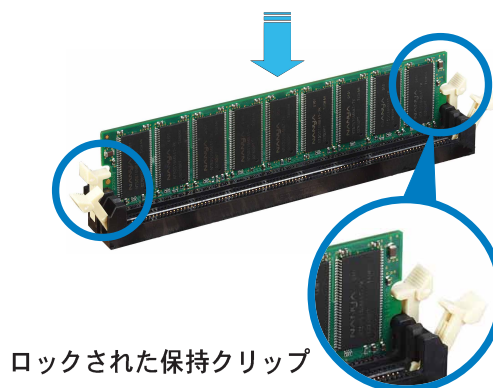
メモリの取り付け、取り外しを行う前には、必ず電源コードを抜いてください。そうしないと感電したり、マザーボードやメモリの故障の原因になります。

1. 保持クリップを外側に押し、DIMM ソケットのロックを解除します。
2. DIMMのノッチがソケットの切れ目に一致するように、DIMM をソケットに合わせます。



DDR DIMM は、一方向にしかフィットしないようにノッチに固定されます。DIMMを無理にソケットに差し込むと、DIMM が損傷する原因となります。

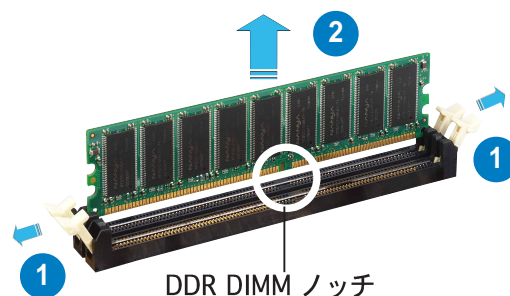
3. 保持クリップが所定の場所に戻り DIMM が正しく取り付けられるまで、DIMM をソケットにしっかり挿入します。



## 2.4.4 DDR DIMMを取り外す

以下のステップに従って DIMM を取り外してください。

1. 保持クリップを外側に同時に押し、DIMMのロック解除します。



保持クリップを押しているとき、指でDIMMを軽くサポートします。無理な力をかけて開けるとDIMMが破損する恐れがあります。

2. ソケットから DIMM を取り外します。

## 2.5 拡張スロット

将来、拡張カードを取り付ける必要が生じる場合があります。以下の項では、サポートされるスロットと拡張カードについて説明します。



拡張カードの取り付け、取り外しを行う前には、必ず電源コードを抜いてください。そうしないと感電したり、マザーボードや各パーツの故障の原因になります。

### 2.5.1 拡張カードを取り付ける

拡張カードを取り付けるには、次の手順に従います。

1. 拡張カードを取り付ける前に付属のマニュアルを読み、カードの必要なハードウェア設定を行ってください。
2. システム装置のカバーを取り外します(マザーボードがシャーシにすでに取り付けられている場合)。
3. カードを取り付けスロットに向き合ったブラケットを取り外します。ネジは後で使用するので、なくさないようにしてください。
4. カードコネクタをスロットに合わせ、カードがスロットに完全に固定されるまでしっかり押します。
5. カードをネジでシャーシに固定します。
6. システムカバーを元に戻します。

### 2.5.2 拡張カードを構成する

拡張カードを取り付けた後、ソフトウェア設定を調整してこれを構成します。

1. システムの電源をオンにし、必要であれば BIOS 設定を変更します。BIOS 設定に関する詳細は、第4章をご覧ください。
2. IRQ をカードに合わせます。次ページの表を参照してください。
3. 拡張カード用のソフトウェアドライバをインストールします。



## 2.5.3 割り込み割り当て 標準の割り込み割り当て

IRQ	優先順位	標準機能
0	1	システムタイマー
1	2	キーボードコントローラ
2	-	IRQ#9にリダイレクト
3	11	通信ポート(COM2)*
4	12	通信ポート(COM1)*
5	13	PCIステアリング用IRQホルダ*
6	14	フロッピーディスクコントローラ
7	15	プリンタポート(LPT1)*
8	3	システムCMOS/リアルタイムクロック
9	4	PCIステアリング用IRQホルダ*
10	5	PCIステアリング用IRQホルダ*
11	6	PCIステアリング用IRQホルダ*
12	7	PS/2互換マウスポート*
13	8	数値データプロセッサ
14	9	プライマリ IDE チャンネル
15	10	セカンダリー IDEチャンネル

\* 上の IRQ は通常、ISA または PCI デバイスで使用されています。

## 本マザーボード用IRQ割り当て

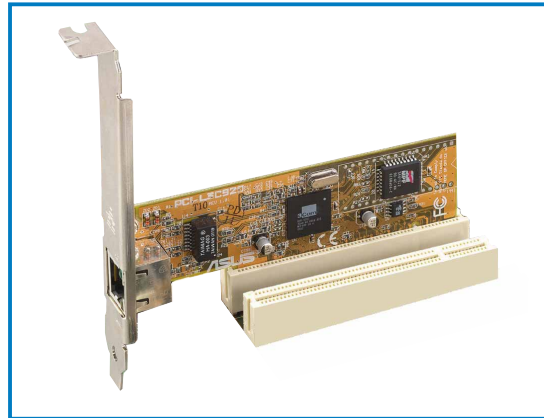
	A	B	C	D	E	F	G	H
PCI スロット1	共有	-	-	-	-	-	-	-
PCI スロット2	-	共有	-	-	-	-	-	-
PCI スロット3	-	-	共有	-	-	-	-	-
PCI E x1 スロット 1	共有	-	-	-	-	-	-	-
PCI E x1 スロット 2	共有	-	-	-	-	-	-	-
PCI E x16 スロット	共有	-	-	-	-	-	-	-
オンボード USB コントローラ 1	共有	-	-	-	-	-	-	-
オンボード USB コントローラ 2	共有	-	-	-	-	-	-	-
オンボード USB コントローラ 3	-	共有	-	-	-	-	-	-
オンボード USB コントローラ 4	-	共有	-	-	-	-	-	-
オンボード USB 2.0 コントローラ	-	-	共有	-	-	-	-	-
オンボード LAN	共有	-	-	-	-	-	-	-
オンボード 1394a	共有	-	-	-	-	-	-	-



共有スロットで PCI カードを使用しているとき、ドライバが「共有 IRQ」をサポートしていることを、またはカードが IRQ 割り当てを必要としないことを確認してください。確認しないと、2つの PCIグループ間で競合が発生し、システムが不安定になったり、カードが動作不能になります。詳細は次ページの表を参照してください。

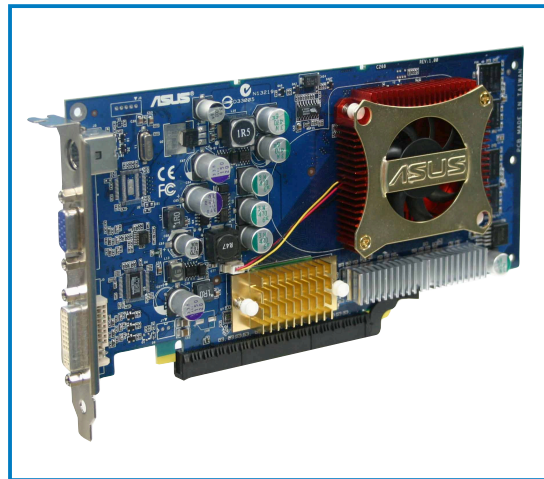
## 2.5.4 PCIスロット

PCIスロットはLANカード、SCSIカード、USBカード、およびPCI仕様に準拠するその他のカードなどのカードをサポートします。次の図はPCIスロットに取り付けられたLANカードを示しています。



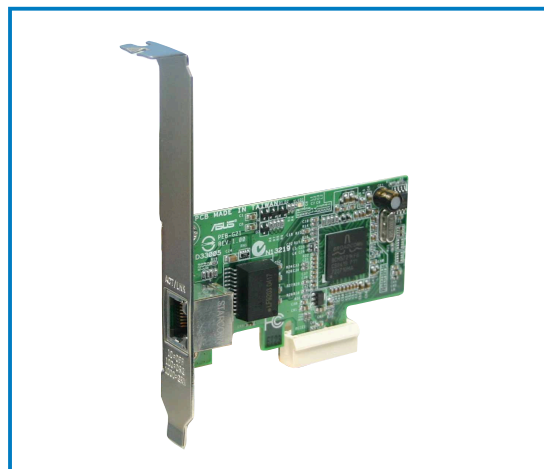
## 2.5.5 PCI Express x16スロット

本マザーボードはPCI Express仕様に準拠するPCI Express x16グラフィックカードをサポートします。次の図はPCI Express x16スロットに取り付けられたグラフィックスカードを示しています。



## 2.5.6 PCI Express x1スロット

本マザーボードはPCI Express x1ネットワークカード、SCSIカード、およびPCI Express仕様に準拠するその他のカードをサポートします。次の図は、PCI Express x1スロットに取り付けられたネットワークカードを示しています。





## 2.6 ジャンパ

### 1. RTC RAMの消去 (CLRTC)

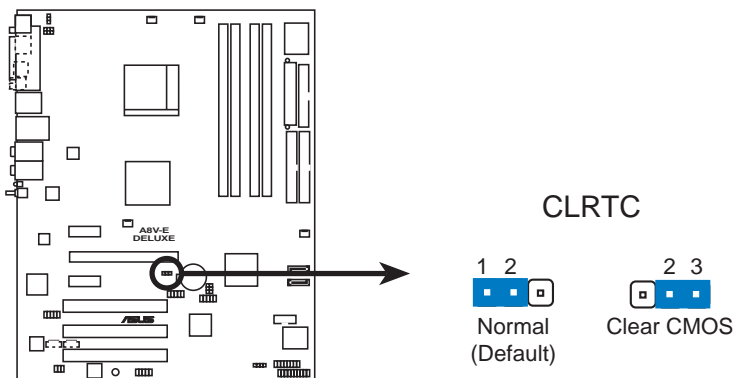
このジャンパは、CMOSのリアルタイムクロック(RTC) RAMをクリアします。CMOS RTC RAMデータを消去することにより、日、時、およびシステム設定パラメータのCMOSメモリをクリアできます。ボード上のボタン電池はシステムパスワードなどのシステム情報を含む CMOS RAM データの保持に使用されます。

RTC RAMを消去するには、次の手順に従います:

1. コンピュータの電源をオフにし、電源コードをコンセントから抜きます。
2. ボード上のボタン電池を取り外します。
3. CLRTCのピン1-2にあるジャンパキャップをピン2-3に移動させます。5~10秒間そのままにして、再びピン1-2にキャップを戻します。
4. 電池を再び取り付けます。
5. 電源コードを差し込み、コンピュータの電源をオンにします。
6. 起動プロセスの間<Del>キーを押し下げ、BIOS設定に入ったらデータを再入力します。



RTC RAM をクリアしている場合を除き、CLRTCジャンパのデフォルトの位置からキャップを取り外さないでください。キャップを取り外すと、システム起動エラーの原因となります。



**A8V-E DELUXE Clear RTC RAM**

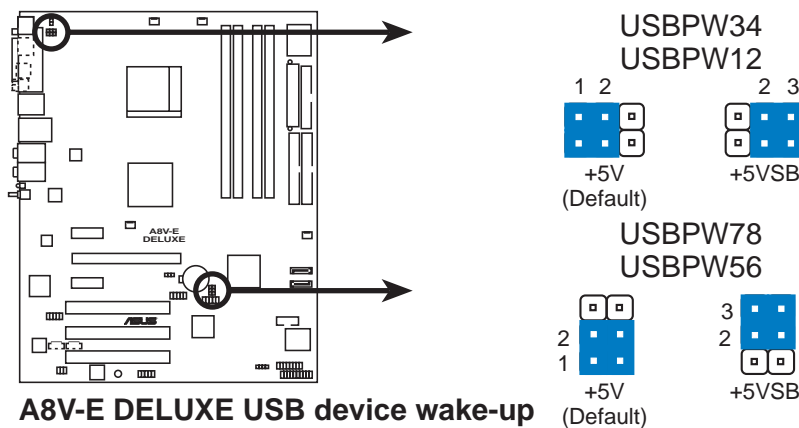


オーバークロッキングによりシステムがハングアップしているとき、RTC をクリアする必要はありません。オーバークロッキングによるシステムエラーの場合、C.P.R.(CPUパラメータリコール)機能を使用してください。システムを停止して再起動すると、BIOS はパラメータ設定をデフォルト値にリセットできます。

## 2. USBデバイスウェイクアップ (3ピン USBPW12、USBPW34、USBPW56、USBPW78)

これらのジャンパを+5V側に設定した場合、システムに接続したUSBデバイスを使用して、S1スリープモード（CPUは停止、メモリはリフレッシュ状態の低消費電力モード）から復帰することができます。また+5VSB側に設定すると、さらに低消費電力なS3（STR）、S4（休止状態）からの復帰ができます。

USBPW12とUSBPW34 ジャンパは背面USBポート用です。  
USBPW56とUSBPW78ジャンパは内部USBコネクタ用で、追加USBポートに接続できます。



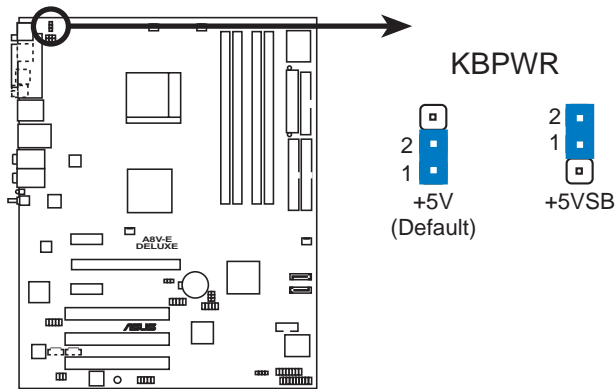
**A8V-E DELUXE USB device wake-up**



- USBデバイスのウェイクアップ機能は、それぞれのUSBポートに対して+5VSBリード線で500mAを提供できる電源装置を必要とします。それ以外の場合、システムの電源はオンになりません。
- 消費される総電流は、標準状態でもスリープモードに入っている場合でも、電源装置の容量(+5VSB)を超えることはできません。

### 3. キーボード電源 (3ピン KBPWR)

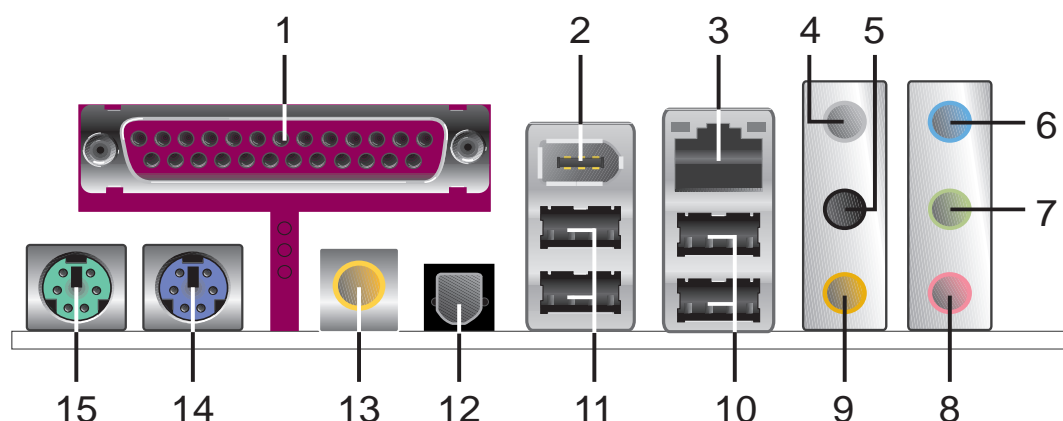
このジャンパは、キーボードのウェイクアップ機能の有効/無効を切り替えます。キーボードのキーを押しているときにコンピュータをウェイクアップしたい場合、このジャンパをピン2-3 (+5VSB)に設定します(デフォルトはスペースバーです)。この機能は、+5VSB リード線で少なくとも1Aを提供できる ATX 電源装置、および BIOS で対応する設定を必要とします。



**A8V-E DELUXE Keyboard power setting**

## 2.7 コネクタ

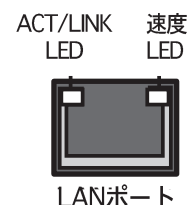
### 2.7.1 背面パネルコネクタ



1. 平行ポート。この25ピンポートは平行プリンタ、スキャナ、その他のデバイスを接続します。
2. IEEE 1394aポート。この6ピン IEEE 1394a ポートはオーディオ/ビデオデバイス、記憶装置、PC、ポータブルデバイスに対して高速接続性を提供します。
3. LAN RJ-45 ポート。このポートはネットワークハブを通して、ローカルエリアネットワーク (LAN)とギガビット接続ができます。LANポートLEDの表示については、下の表を参照してください。

#### LANポートLEDの表示

ACT/LINK LED		速度LED	
ステータス	説明	ステータス	説明
オフ	リンクなし	オフ	10 Mbps接続
緑	リンク確立	オレンジ	100 Mbps接続
点滅	データアクティビティ	緑	1 Gbps接続



4. リアスピーカー出力ポート(グレー)。このポートは4チャンネル、6チャンネル、8チャンネルオーディオ構成のリアスピーカーを接続します。
5. サイドスピーカー出力ポート(黒)。このポートは8チャンネルオーディオ構成でサイドスピーカーを接続します。
6. ライン入力ポート(ライトブルー)。このポートはテープ、CD、DVDプレーヤー、またはその他のオーディオソースを接続します。
7. ライン出力ポート(ライム)。このポートはヘッドフォンやスピーカーを接続します。4チャンネル、6チャンネル、8チャンネル出力設定の場合、このポートはフロントスピーカー出力になります。



2、4、6、8チャンネル構成のオーディオポートの機能については、次ページのオーディオ構成表を参照してください。

8. マイクポート(ピンク)。このポートはマイクを接続します。
9. センター/サブウーファポート(イエローオレンジ)。このポートはセンター/サブウーファスピーカーを接続します。

### オーディオ 2、4、6、8チャンネル構成

ポート	2チャンネル (ヘッドセット)	4チャンネル	6チャンネル	8チャンネル
ライトブルー	ライン入力	ライン入力	ライン入力	ライン入力
ライム	ライン出力	前面スピーカー出力	前面スピーカー出力	前面スピーカー出力
ピンク	マイク入力	マイク入力	マイク入力	マイク入力
グレー	-	リアスピーカー出力	リアスピーカー出力	リアスピーカー出力
黒	-	-	-	サイドスピーカー出力
イエローオレンジ	-	-	センター/サブウーファ	センター/サブウーファ

10. USB 2.0ポート3と4。これらの2つの4ピンユニバーサルシリアルバス(USB)ポートは、USB 2.0デバイスを接続するために使用できます。
11. USB 2.0ポート1と2。これらの2つの4ピンユニバーサルシリアルバス(USB)ポートは、USB 2.0デバイスを接続するために使用できます。
12. 光学 S/PDIF出力ポート。このポートは光学S/PDIFケーブルを介して外部オーディオ出力デバイスを接続します。
13. 同軸 S/PDIF出力ポート。このポートは同軸S/PDIFケーブルを介して外部オーディオ出力デバイスを接続します。
14. PS/2キーボードポート(紫)。このポートはPS/2キーボード用です。
15. PS/2マウスポート(緑)。このポートはPS/2マウス用です。

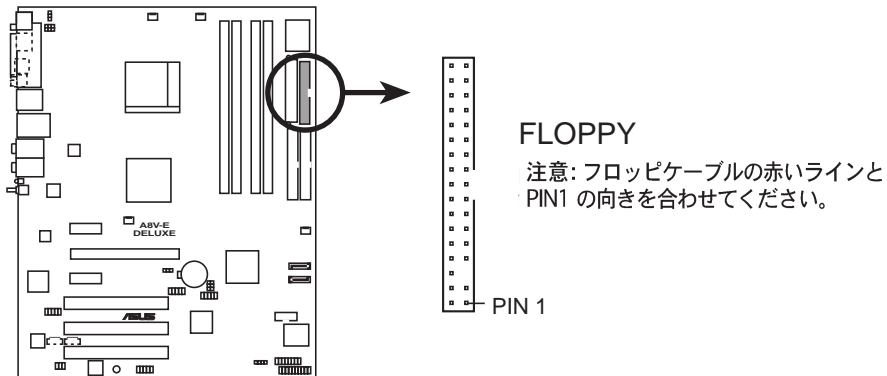
## 2.7.2 内部コネクタ

### 1. フロッピーディスクドライブコネクタ(34-1ピン FLOPPY)

このコネクタは、付属のフロッピーディスクドライブ(FDD)信号ケーブル用です。ケーブルの一方の端をこのコネクタに挿入し、もう一方の端をフロッピーディスクドライブ背面の信号ケーブルに接続します。



間違ったケーブル接続を防ぐため、コネクタのピン5は取り外されています。



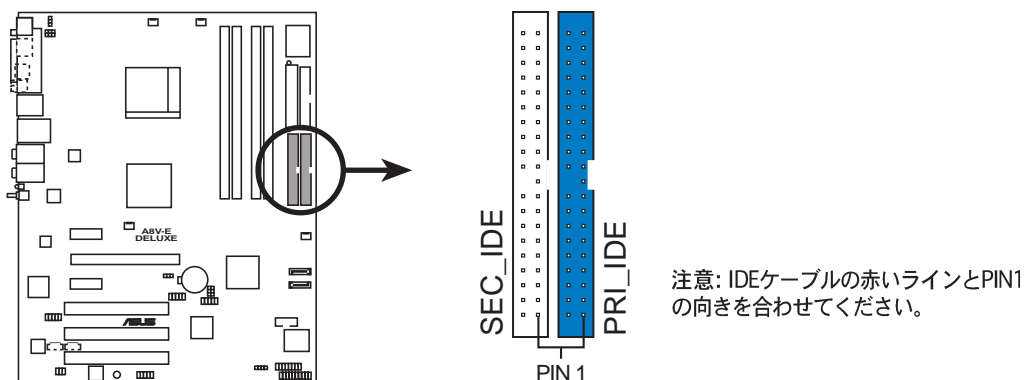
**A8V-E DELUXE Floppy disk drive connector**

### 2. IDEコネクタ(40-1ピン PRI\_IDE、SEC\_IDE)

このコネクタは Ultra DMA 133/100/66 信号ケーブル用です。Ultra DMA 133/100/66 信号ケーブルには次の3つのコネクタが付いています: マザーボードのプライマリ IDEコネクタ用の青いコネクタ、Ultra DMA 133/100/66 IDE スレーブ(光学ドライブ/ハードディスクドライブ)用の黒いコネクタ、および Ultra DMA 133/100/66 IDE マスタデバイス (ハードディスクドライブ) 用のグレーのコネクタ。2台のハードディスクドライブを取り付ける場合、そのジャンパを設定することによって、スレーブデバイスとして2番目のドライブを構成する必要があります。ジャンパ設定については、ハードディスクのマニュアルを参照してください。



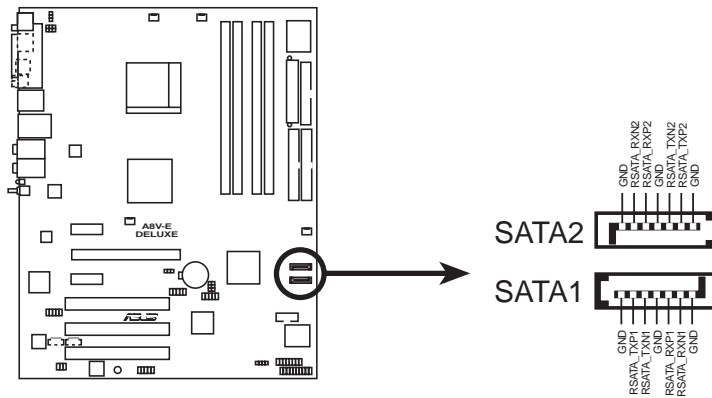
- 間違ったケーブル接続を防ぐため、コネクタのピン20は取り外されています。
- Ultra DMA 100/66 IDEデバイスの場合、80コンダクタIDEケーブルを使用します。



**A8V-E DELUXE IDE connectors**

### 3. シリアルATAコネクタ (7ピン SATA1、SATA2)

これらのコネクタは、シリアルATAハードディスクドライブのシリアルATA信号ケーブル用です。



**A8V-E DELUXE SATA connectors**



#### シリアルATAに関する重要な注意

- ・ シリアルATA RAID 機能(RAID 0、RAID 1)は、Windows® 2000/XPを使用している場合のみご利用になれます。
- ・ シリアルATAを使用しているとき、Windows® 2000 Service Pack 4またはWindows® XP Service Pack1をインストールしてください。

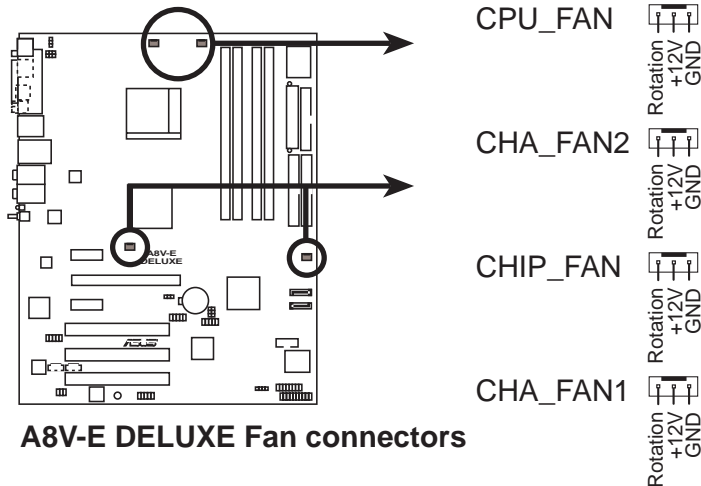
#### 4. CPU、シャーシ、電源ファンコネクタ

(3ピン CPU\_FAN、3ピン CHA\_FAN1、3ピン CHIP\_FAN、CHA\_FAN2)

ファンコネクタはそれぞれ350~2000mA (最大24W) 、もしくは合計で1~3.48A(最大41.76W)の冷却用のファンに対応します。各ケーブルの黒い線が、コネクタのグランドピンに一致することを確認し、ファンケーブルをマザーボードのコネクタに接続してください。



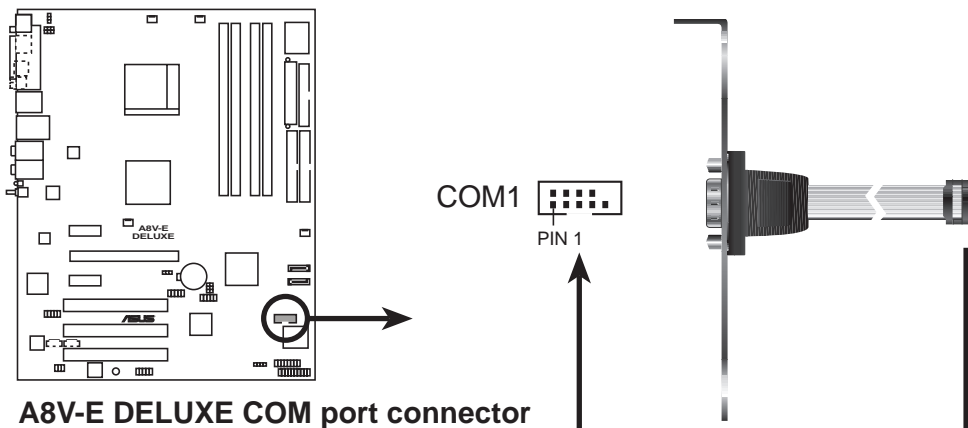
- ・ ファンケーブルをファンコネクタに接続することを忘れないでください。システム内に十分な空気の流れがないと、マザーボードコンポーネントが破損する恐れがあります。これはジャンパではありません。ファンコネクタにジャンパキャップを取り付けしないでください。
- ・ CPU ファン (CPU\_FAN) と シャーシファン 1 (CHA\_FAN1)コネクタのみが Q-Fan 2 機能をサポートしています。





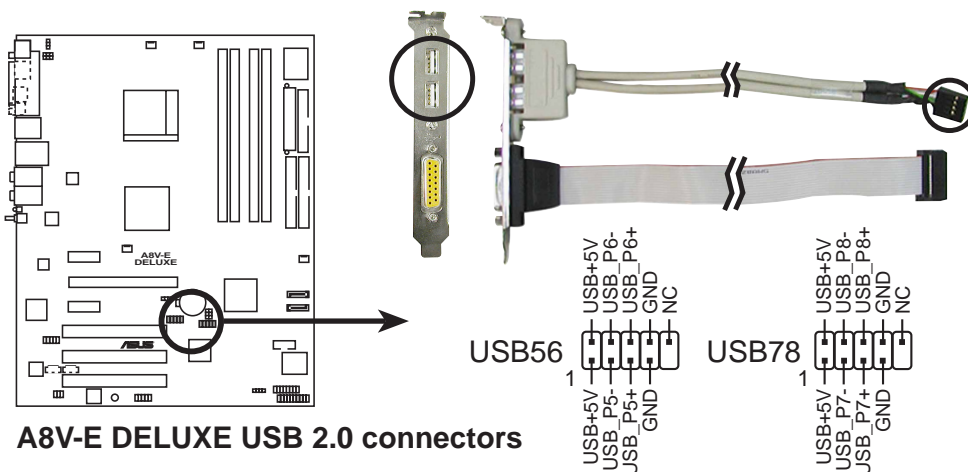
## 5. シリアルポートコネクタ(10-1ピン COM1)

このコネクタはシリアル(COM)ポート用です。シリアルポートのモジュールケーブルをこのコネクタに接続し、モジュールをシステムシャーシ背面のロット開口部に取り付けます。



## 6. USBコネクタ(10-1ピン USB56、USB78)

これらのコネクタはUSB 2.0 ポート用です。USB/GAME モジュールケーブルをこれらのコネクタのどれかに接続し、モジュールをシステムシャーシ背面のロット開口部に取り付けます。これらのUSB コネクタは最大 480 Mbps の接続速度を持つ USB 2.0 仕様に準拠しています。



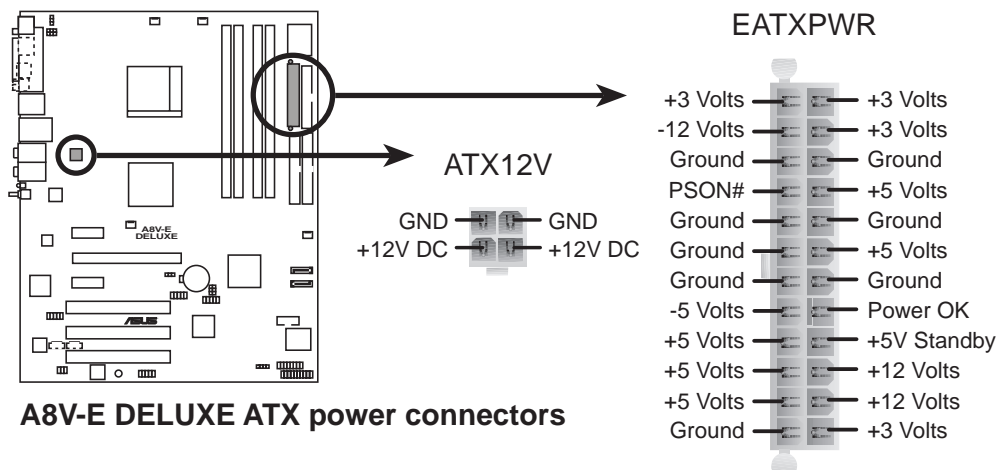
1394ケーブルをUSBコネクタに絶対に接続しないでください。接続すると、マザーボードが破損します。

## 7. ATX 電源コネクタ (24ピン EATXPWR、4ピン ATX12V)

これらのコネクタはATX電源装置用です。電源装置のプラグは一方向でのみこれらのコネクタにフィットするように設計されています。正しい方向を見つけ、コネクタが完全にフィットするまでしっかり押し込んでください。

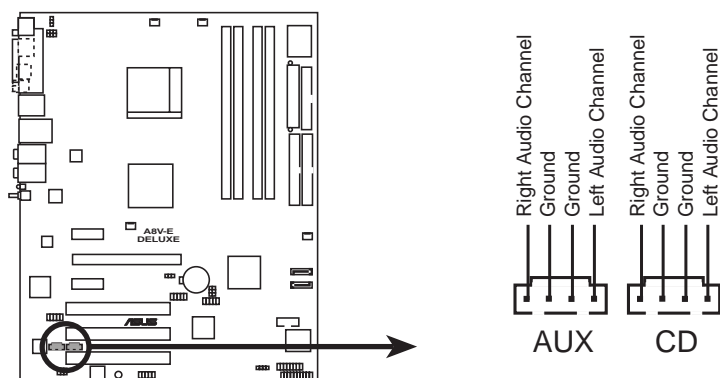


- 完全に構成されたシステムの場合、最低 350 W の電力を提供する ATX 12 V 仕様 2.0 準拠の電源ユニット (PSU) を使用するようにお勧めします。
- 4ピンATX+12V電源プラグの接続を忘れないでください。そうでないと、システムは起動できません。
- 電力を消費するデバイスでシステムを構成しているとき、高い出力を出す PSU をお使いになることをお勧めします。電源が不適切だと、システムは不安定になったり起動できないことがあります。
- 追加デバイスを取り付けようとする場合、高い出力定格を持つPSUを取り付ける必要があります。



## 8. 内部オーディオコネクタ (4ピン CD、AUX)

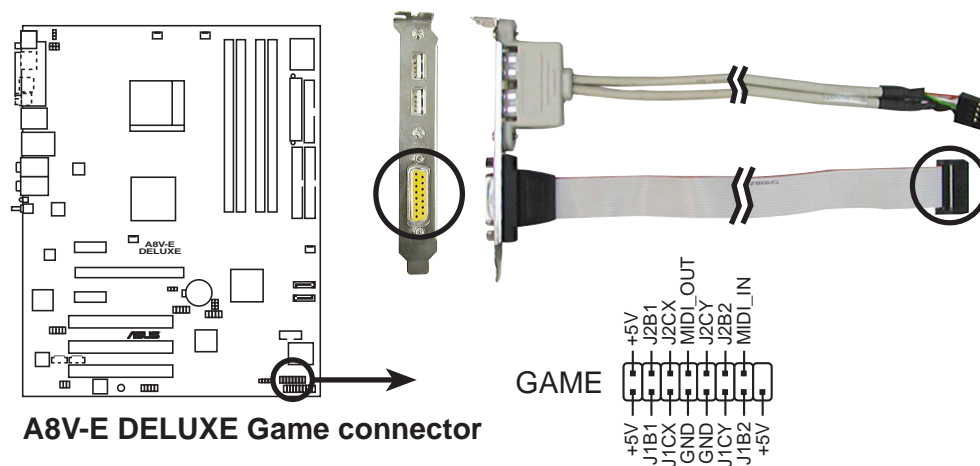
これらのコネクタは、CDROM、TVチューナー、MPEGカードなどの音源から、ステレオサウンドを入力できます。



**A8V-E DELUXE Internal audio connectors**

## 9. GAME/MIDI ポートコネクタ (16-1ピン GAME)

このコネクタは GAME/MIDI ポート用です。USB/GAME モジュールケーブルをこのコネクタに接続し、モジュールをシステムシャーシ背面のスロット開口部に取り付けます。GAME/MIDI ポートはゲームのプレーの場合はジョイスティックやゲームパッドを、オーディオをファイルの再生や編集の場合は MIDI デバイスを接続します。

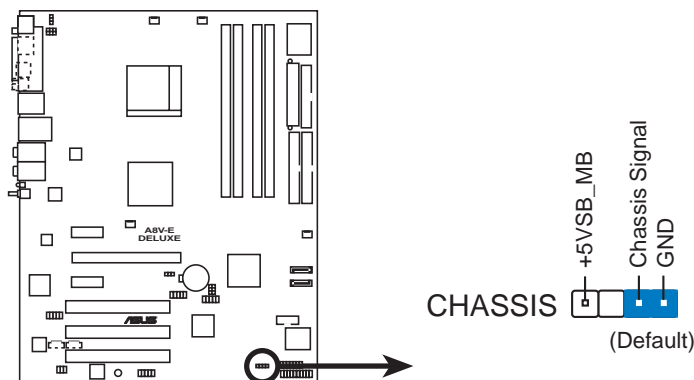


**A8V-E DELUXE Game connector**

## 10. シャーシ侵入コネクタ (4-1ピン CHASSIS)

このコネクタはシャーシ取付侵入検出センサーまたはスイッチ用です。シャーシ侵入センサーまたはスイッチをこのコネクタに接続してください。シャーシコンポーネントを取り外したり交換するとき、シャーシ侵入センサーまたはスイッチはこのコネクタに高レベルの信号を送信します。信号はその後、シャーシ侵入イベントとして生成されます。

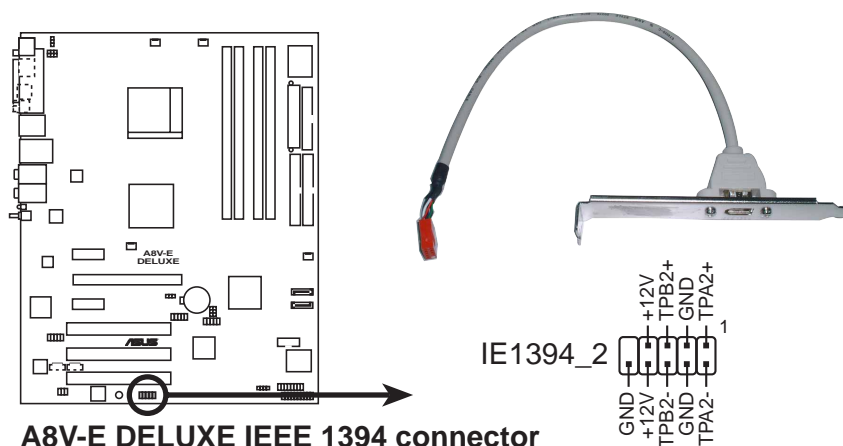
デフォルトでは、「Chassis Signal」と「GND」の間はジャンパーキャップにより、ショートされています。シャーシ侵入検出機能を使用する場合のみ、ジャンパを取り外してください。



**A8V-E DELUXE Chassis alarm lead**

## 11. IEEE 1394 コネクタ (10-1ピン IE1394\_2)

これらのコネクタはIEEE 1394aポート用です。IEEE 1394 モジュールケーブルをこのコネクタに接続し、モジュールをシステムシャーシ背面のスロット開口部に取り付けてください。



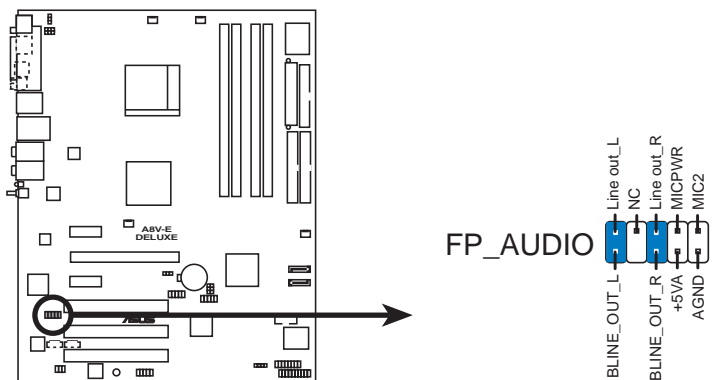
**A8V-E DELUXE IEEE 1394 connector**



USBケーブルをIEEE 1394a コネクタに絶対に接続しないでください。接続すると、マザーボードが破損します。

## 12. 前面パネルオーディオコネクタ (10-1ピン FP\_AUDIO)

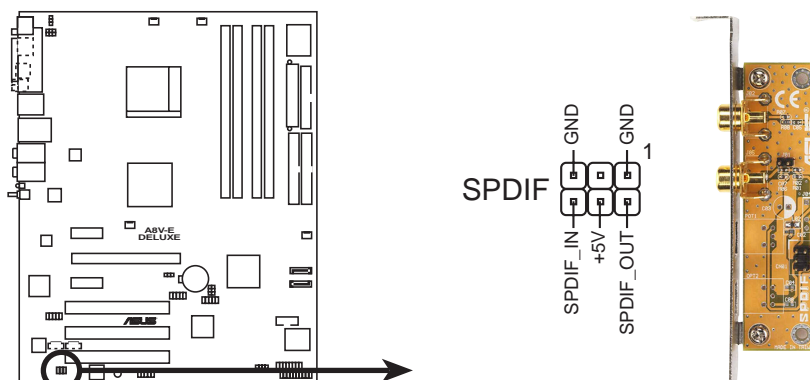
このコネクタはシャーシ取付前面パネルオーディオI/Oモジュール用で、AC' 97オーディオ標準をサポートしています。前面パネルオーディオI/Oモジュールの一方の端をこのコネクタに接続してください。



**A8V-E DELUXE Front panel audio connector**

## 13. デジタルオーディオコネクタ (4-1ピン SPDIF)

このコネクタは付加的な Sony/Philips デジタルインターフェイス(S/PDIF)ポート用です。S/PDIFモジュールケーブルをこのコネクタに接続し、モジュールをシステムシャーシ背面のスロット開口部に取り付けます。



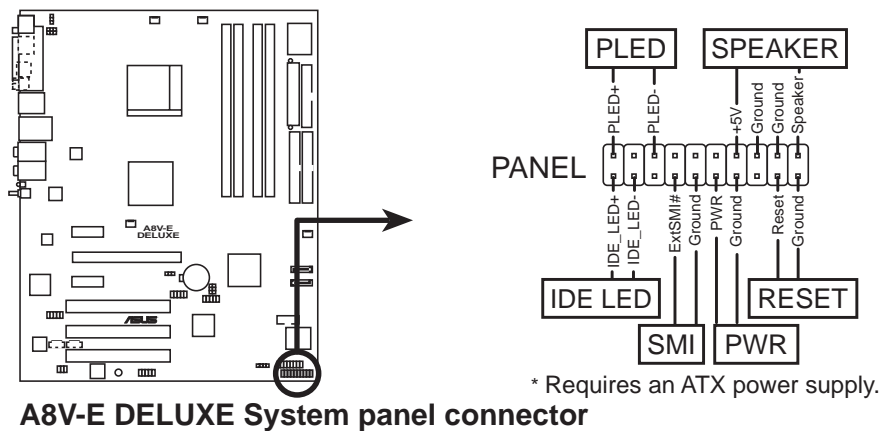
**A8V-E DELUXE Digital audio connector**



S/PDIFモジュールは、別途ご購入ください。

## 14. システムパネルコネクタ (20ピン PANEL)

このコネクタは、シャーシに取り付けられた複数の機能をサポートします。



システムパネルコネクタは簡単に接続できるように色分けされています。詳細は、以下のコネクタの説明を参照してください。

- ・ システム電源LED (緑の3ピン PLED)  
この3ピンコネクタはシステム電源LED用です。シャーシ電源LEDケーブルをこのコネクタに接続してください。システムの電源LEDはシステムの電源をオンにすると点灯し、システムがスリープモードに入ると点滅します。
- ・ システム警告スピーカー(オレンジ4ピン SPEAKER)  
この4ピンコネクタは、シャーシ取付システム警告スピーカー用です。スピーカーは、システムビープ音を鳴らして警告を発します。
- ・ ハードディスクドライブアクティビティLED (赤い2ピン IDE\_LED)  
この2ピンコネクタはHDDアクティビティLED用です。HDDアクティビティLEDケーブルをこのコネクタに接続してください。IDE LEDは、データがHDDと読み書きを行っているときに点灯するか点滅します。
- ・ 電源ボタン/ソフトオフボタン(黄色い2ピン PWR)  
このコネクタはシステムの電源ボタン用です。電源ボタンを押すと、システムがオンになったり、BIOS設定によってはシステムをスリープモードまたはソフトオフモードに入れます。システムがオンになっている間に電源スイッチを4秒以上押し続けると、システムの電源はオフになります。
- ・ リセットボタン(青の2ピン RESET)  
この2ピンコネクタはシャーシ取付リセットボタン用で、システムの電源をオフにせずにシステムを再起動します。

本章では、電源をオンにする順序、音声によるPOSTメッセージ、システムの電源をオフにする方法について説明します。

# 電源をオンにする



3.1	初めて起動する .....	3-1
3.2	コンピュータの電源をオフにする .....	3-2
3.3	ASUS POST Reporter™ .....	3-3



## 3.1 初めて起動する

1. すべての接続を行ったら、システムケースのカバーを元に戻してください。
2. すべてのスイッチがオフになっていることを確認してください。
3. 電源コードをシステムシャーシ背面の電源コネクタに接続します。
4. 電源コードをサージ保護機能を持つコンセントに接続します。
5. 次の順序でデバイスの電源をオンにします:
  - a. モニタ
  - b. 外部のSCSIデバイス（ディジーチェーンの最後のデバイスから）
  - c. システム電源
6. システムの電源をオンにすると、システム前面パネルケースのシステム電源LEDが点灯します。ATX電源装置を搭載したシステムの場合、ATX電源ボタンを押すとシステムLEDが点灯します。モニタが”グリーン”規格に準拠している場合や、電源スタンバイ機能を搭載している場合、システムの電源をオンにすると、モニタのLEDが点灯もしくはオレンジから緑に切り替わります。

次にシステムは、起動時の自己診断テスト (POST) を実行します。テストを実行している間、BIOSがビープ音を出すか（下の表のBIOSビープコードを参照）、スクリーンに追加メッセージが表示されます。電源をオンにしてから30秒以内に何も表示されなければ、システムは電源オンテストに失敗します。ジャンパ設定と接続をチェックするか、販売店に連絡してアドバイスを求めてください。
7. 電源オン時に、<Delete>キーを押してBIOS設定に入ります。第4章の指示に従ってください。

## 3.2 コンピュータの電源をオフにする

### 3.2.1 OSシャットダウン機能を使用する

Windows® 2000をご使用の場合:

1. スタートボタンを押し、シャットダウンをクリックします。
2. シャットダウンオプションボタンが選択されていることを確認し、OKボタンを押してコンピュータをシャットダウンします。
3. Windows®がシャットダウンした後、電源装置はオフになります。

Windows® XPをご使用の場合:

1. スタートボタンをクリックし、コンピュータをオフにするを選択します。
2. 電源オフにするボタンをクリックし、コンピュータをシャットダウンします。
3. Windows®がシャットダウンした後、電源装置がオフになります。

### 3.2.2 電源スイッチのデュアル機能を使用する

システムがオンになっている間、電源スイッチを押してから4秒以内に離すとシステムはBIOS設定によりスリープモードまたはソフトオフモードに入ります。電源スイッチを4秒以上押すと、BIOS設定には関わらず、システムはソフトオフモードに入ります。詳細は、第4章「4.5 電源メニュー」を参照してください。

## 3.3 ASUS POST Reporter™

本マザーボードはWinbondスピーチコントローラを組み込んで、ASUS POST Reporter™ と呼ばれる特殊機能をサポートしています。この機能により、POST中にシステムイベントと起動ステータスに警告する声によるメッセージが出されず、起動に失敗した場合、問題の特定原因が音声により通知されます。

これらのPOSTメッセージは、パッケージに付属するWinbond Voice Editor ソフトウェアによりカスタマイズ可能です。自分のメッセージを録音してデフォルトのメッセージと差し替えることができます。

### 3.3.1 音声POSTメッセージ

次はデフォルトのPOSTメッセージとそれに対して取れる対応策のリストです。

POSTメッセージ	対応策
CPU が取り付けられていません	<ul style="list-style-type: none"><li>• CPUソケットにサポートされるプロセッサを取り付けます。詳細は「2.3中央演算処理装置(CPU)」をご覧ください。</li></ul>
システムが CPU テストに失敗しました	<ul style="list-style-type: none"><li>• CPUが正しく取り付けられているかチェックします。</li><li>• ASUS技術サポートに電話を掛けてアドバイスを求めてください。本ユーザーガイドの裏表紙にあるASUS連絡先情報をご覧ください。</li></ul>
システムがメモリテストに失敗しました	<ul style="list-style-type: none"><li>• サポートされるDDR2 DIMMをメモリソケットに取り付けます。</li><li>• DIMMのDIMMソケットが正しく取り付けられているかチェックします。</li><li>• DIMMに欠陥がないか確認します。</li><li>• DIMMを取り付ける方法については、「2.4 システムメモリ」を参照してください。</li></ul>
システムが VGA テストに失敗しました	<ul style="list-style-type: none"><li>• PCIグラフィックスカードをPCIスロットの1つに取り付けます、またはPCI Express AGPカードをPCI Express x16スロットに取り付けます。</li><li>• グラフィックスカードに欠陥がないことを確認してください。</li></ul>
システムが CPU のために失敗しました	<ul style="list-style-type: none"><li>• BIOS設定でCPUオーバークロック設定をチェックし、デフォルトのCPUパラメータを復元します。</li></ul>
キーボードが検出されません	<ul style="list-style-type: none"><li>• キーボードが背面パネルの紫のPS/2コネクタに正しく接続されているかチェックしてください。</li><li>• コネクタの場所については、「2.7.1 背面パネルコネクタ」をご覧ください。</li></ul>
IDE ハードディスクを検出できません	<ul style="list-style-type: none"><li>• IDEハードディスクドライブをマザーボードのIDEコネクタの1つに接続されていることを確認してください。</li></ul>

POSTメッセージ	対応策
CPU 温度が高すぎます	<ul style="list-style-type: none"> <li>• CPUファンが正しく動作しているかチェックします。</li> </ul>
CPU ファンが機能しません	<ul style="list-style-type: none"> <li>• システムの電源をオンにした後、CPUファンをチェックし、回転しているかチェックしてください。</li> <li>• CPUファンが、ファン速度検出機能をサポートしているか確認してください。</li> </ul>
CPU 電圧が範囲外です	<ul style="list-style-type: none"> <li>• 電源装置をチェックし、欠陥がないか確認してください。</li> <li>• ASUS技術サポートに電話を掛けて、アドバイスを求めてください。本ユーザーガイドの裏表紙にあるASUS連絡先情報をご覧ください。</li> </ul>
コンピュータはオペレーティングシステムから起動しています。	<ul style="list-style-type: none"> <li>• 対応策は必要ありません</li> </ul>



BIOS設定のスピーチ構成オプションで、ASUS POST Reporter™の有効/無効を切り替えることができます。詳細は、4.4.9をご覧ください。

### 3.3.2 Winbond Voice Editor

Winbond Voice Editorソフトウェアは音声POSTメッセージをカスタマイズします。このアプリケーションは、サポートCDからインストールできます。



競合を避けるには、アプリケーションを実行している間、Winbond Voice Editorを実行しないでください。

#### Voice Editorを起動する

スタート > すべてのプログラム > Winbond Voice Editor > Voice Editorをクリックすることによって、Windows® デスクトップからプログラムを起動できます。

Winbond Voice Editorスクリーンが表示されます。

	Voice1	Voice2	Voice3	Voice4	Voice5
CPU installation	nocpu				
NO CPU instruction	cpufail				
Memory Detection	memfail				
VGA Detection	vgafail				
Over Clocking	overclock				
PS2 Keyboard Detection	nokb				
FDD Detection	nofdd				
IDE HDD Detection	nohdd				
CPU Over temperature	overheat				
CPU Voltage Fail	voltage				
CPU FAN Fail	fanfail				
System Check OK	postok				
Start Booting	bootqs				

POSTイベント      デフォルトのメッセージ

#### デフォルトのwaveファイルを再生する

デフォルトのwaveファイルを再生するには、スクリーン左側のPOSTイベントをクリックし、[再生]ボタンをクリックします。



デフォルトの言語設定は英語です。

## デフォルトの言語を変更する

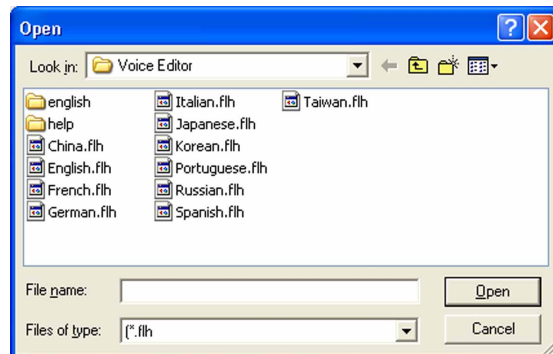
デフォルトの言語を変更するには、次の手順に従います:

1. Voice Editorのメインウィンドウからロードボタンをクリックします。使用可能な言語が表示されません。



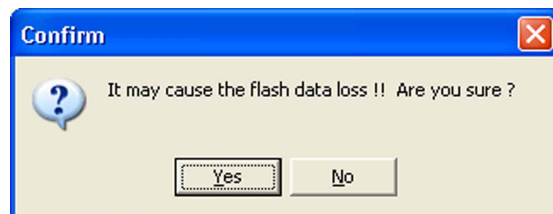
2. 希望する言語を選択し、open をクリックします。

選択した言語に対するイベントメッセージが、Voice Editorのメインウィンドウに表示されます。



一部の言語では、ファイルサイズの制約により、すべてのイベントが対応するメッセージをもっているわけではないことにご注意ください。

3. Voice Editorのメインウィンドウから書き込みボタンをクリックして、EEPROMをクリックします。
4. はいをクリックして続行します。



コンピュータを次回起動するとき、ASUS Post Reporterは選択した言語でメッセージを示します。

## POSTメッセージをカスタマイズする

Voice Editorアプリケーションは、自分の言語がサポートされていない場合、またはプリインストールされたwaveファイルを元に戻したくない場合、独自のPOSTメッセージを記録します。

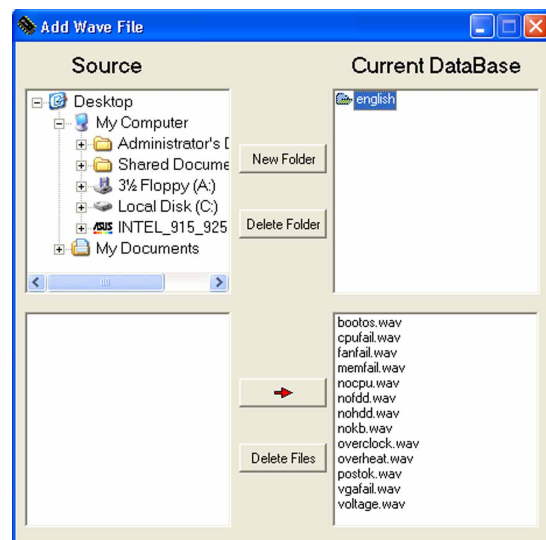
独自のPOSTメッセージをカスタマイズするには、次の手順に従います。

1. Voice Editorアプリケーションを起動し、スクリーン左端の列のPOSTイベントに注意します。
2. 各イベントに対して独自のメッセージを準備します。
3. 記録用ソフトウェア（例えば、Windows® Recorderなど）を使用してメッセージを録音し、waveファイル(.WAV)としてメッセージを保存します。

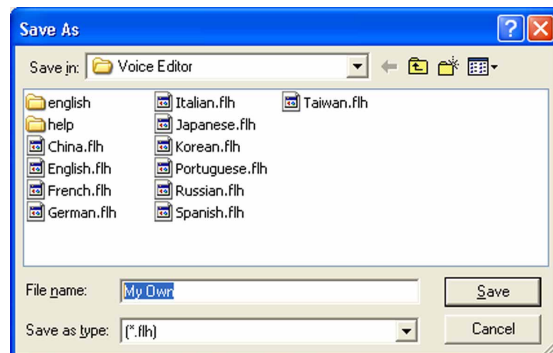


- ・ すべてのwaveファイルの総圧縮サイズは1Mビットを超えることはできないため、メッセージはできるだけ短くしてください。
- ・ ファイルサイズを小さくするには、低音質でファイルを保存します。例えば、8ビット・サンプリングレート22KHz・モノラルを使用します。
- ・ 個別フォルダを作成してwaveファイルを保存すると、ファイルを簡単に見つけることができます。

4. Voice Editorスクリーンから、追加ボタンをクリックして、Waveファイルの追加ウィンドウを開きます。
5. データベースに録音したwaveファイルをコピーし、完了したらウィンドウを閉じます。



6. Voice EditorメインウィンドウでPOSTイベントを選択し、編集ボタンをクリックします。Event Sound Editorウィンドウが表示されます。
7. イベント用のwaveファイルを検索して選択し、Voice1の反対側にある矢印をクリックします。選択したファイルがその隣のスペースに表示されます。
8. OKをクリックしてVoice Editorメインウィンドウに戻ります。
9. 他のイベントに対してステップ6から8を繰り返します。
10. 完了したら、保存をクリックします。構成の保存を促すウィンドウが表示されます。
11. .flh拡張子の付いたファイル名を入力し、保存をクリックします。
12. 書き込みボタンをクリックしてファイルを圧縮し、EEPROMにコピーします。
13. 表示された確認ウィンドウではいいをクリックします。



ファイルが許容されたサイズを超えていることを示すエラーメッセージが表示されたら、次のどれかまたはすべての操作を行ってください。

- メッセージを短くする。
- 低い音質でwaveファイルを保存する。
- FDD Detection、IDE HDD Detectionなどのめったに使用しないイベントを含めない。



本章では、BIOSセットアップメニューを通してシステム設定を変更する方法について説明します。BIOSパラメータの詳細についても説明しています。

# BIOS セットアップ

4.1	BIOSの管理更新 .....	4-1
4.2	BIOS 設定プログラム .....	4-11
4.3	メインメニュー .....	4-15
4.4	拡張メニュー .....	4-18
4.5	電源メニュー .....	4-33
4.6	起動メニュー .....	4-37
4.7	終了メニュー .....	4-44

## 4.1 BIOS の管理更新

次のユーティリティを使って、マザーボードのベーシックインプット/アウトプットシステム (BIOS) の管理更新を行います。

1. AwardBIOS Flash Utility (起動可能なフロッピーディスクを使用して、DOSモードでBIOSを更新)
2. ASUS CrashFree BIOS 2 (BIOSファイルがエラーを起こしたり破損したとき、起動可能なフロッピーディスクまたはマザーボードサポートCDを使用して、BIOSを更新)
3. ASUS EZ Flash (フロッピーディスクまたはマザーボードサポートCDを使用して、DOSモードでBIOSを更新)
4. ASUS Update (Windows® 環境でBIOSを更新)

これらのユーティリティの詳細については、対応する項を参照してください。



将来 BIOS を復元する場合に備えて、オリジナルのマザーボード BIOS ファイルのコピーを起動可能なフロッピーディスクに保存します。ASUS Update または AFUDOS ユーティリティを使用して、マザーボード BIOS をコピーしてください。

### 4.1.1 起動可能なフロッピーディスクを作成する

1. 次のどれかを実行して、起動可能なフロッピーディスクを作成します。

#### DOS 環境

- a. ドライブに1.44MBフロッピーディスクを挿入します。
- b. DOSプロンプトで、`format A: /s`を入力し、<Enter>を押します。

#### Windows® XP 環境

- a. 1.44 MBフロッピーディスクをフロッピーディスクドライブに挿入します。
- b. Windows®デスクトップからスタートをクリックし、マイコンピュータを選択します。
- c. 3.5 インチフロッピードライブアイコンを選択します。
- d. ファイルフォーマットメニューをクリックし、フォーマットを選択します。3.5 インチフロッピーディスクのフォーマットウィンドウが表示されます。
- e. フォーマットオプションフィールドから、MS-DOS起動ディスクの作成を選択し、スタートをクリックします。

#### Windows® 2000 環境

Windows® 2000に対して、1組の起動ディスクを作成するには、次の手順に従います。

- a. フォーマット済みの、高密度1.44 MBフロッピーディスクをドライブに挿入します。
- b. Windows® 2000 CDを光学ドライブに挿入します。

- c. スタートをクリックし、ファイル名を指定して実行を選択します。
  - d. 開くフィールドで、D:\bootdisk\makeboot a:を入力します。  
ここで、Dは光学ドライブ文字です。
  - e. <Enter>を押し、スクリーンの指示に従って続行します。
2. 元のまたは最新のマザーボードBIOSファイルを起動可能フロッピーディスクにコピーします。

## 4.1.2 BIOSを更新する

基本入出力システム(BIOS)はAwardBIOSフラッシュユーティリティを使用して更新することができます。これらの指示に従い、このユーティリティを使用してBIOSを更新してください。

1. ASUS Web サイトから最新のBIOS ファイルをダウンロードしてください。ファイルをA8V-E.BINに変更し、フロッピーディスクに保存してください。



フロッピーディスクに更新されたBIOSファイルのみを保存し、正しくないBIOSファイルをローディングすることは避けてください。

2. サポートCDのソフトウェアフォルダからAwardBIOSフラッシュユーティリティ(awdfash.exe)を、最新BIOSを組み込んだフロッピーディスクにコピーします。
3. すでに作成した起動可能なフロッピーディスクを使用し、DOSモードでシステムを起動します。
4. A:>が表示されたら、起動可能なフロッピーディスクを出して新しいBIOSファイルとAward BIOS Flashユーティリティを含む新しいフロッピーディスクを挿入します。
5. プロンプトで、awdfashを入力し、<Enter>を押します。Award BIOSフラッシュユーティリティが表示されます。

```
AwardBIOS Flash Utility for ASUS V1.01
(C) Phoenix Technologies Ltd. All Rights Reserved

For K8T890-8237-A8V-E-00      DATE: 09/10/2004
Flash Type - PMC Pm49FL004T LPC/FWH

File Name to Program: 

Message: Please input File Name!
```

6. ファイル名対プログラムフィールドにBIOSファイル名を入力し、<Enter>を押します。

```

AwardBIOS Flash Utility for ASUS V1.01
(C) Phoenix Technologies Ltd. All Rights Reserved

For K8T890-8237-A8V-E-00      DATE: 09/10/2004
Flash Type - PMC Pm49FL004T LPC/FWH

File Name to Program: A8V-E.BIN

Message: Do You Want To Save Bios (Y/N)

```

7. ユーティリティが現在のBIOSファイルを保存するように促したら、<N>を押します。次の画面が表示されます。
8. ユーティリティがフロッピーディスクのBIOSファイルを確認すると、BIOSファイルの点滅が始まります。

```

AwardBIOS Flash Utility for ASUS V1.01
(C) Phoenix Technologies Ltd. All Rights Reserved

For K8T890-8237-A8V-E-00      DATE: 09/10/2004
Flash Type - PMC Pm49FL004T LPC/FWH

File Name to Program: A8V-E.BIN

Program Flashing Memory - OFE00 OK

Write OK    No Update    Write Fail

Warning: Don't Turn Off Power Or Reset System!

```



BIOS を更新している間、システムの電源をオフにしたり、リセットしないでください。

9. ユーティリティはフラッシュが完了しましたというメッセージを表示し、BIOSファイルが正常にフラッシュされたことを示します。フロッピーディスクを取り出し、<F1>を押してシステムを再起動します。

```

AwardBIOS Flash Utility for ASUS V1.01
(C) Phoenix Technologies Ltd. All Rights Reserved

For K8T890-8237-A8V-E-00      DATE: 09/10/2004
Flash Type - PMC Pm49FL004T LPC/FWH

File Name to Program: A8V-E.BIN

Flashing Complete
Press <F1> to Continue

Write OK    No Update    Write Fail

F1 Reset

```

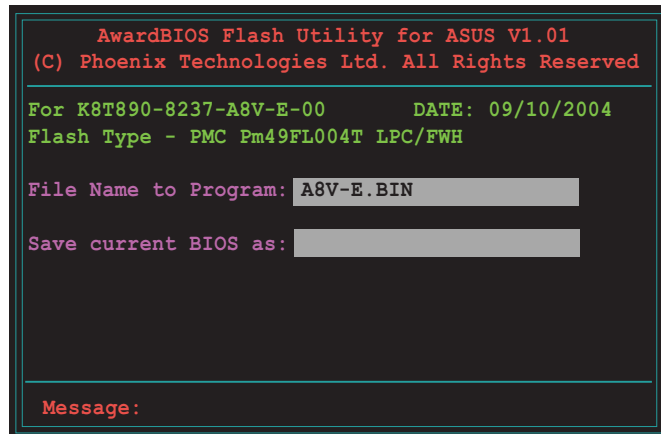
### 4.1.3 現在のBIOSファイルを保存する

AwardBIOS フラッシュユーティリティを使用して、現在のBIOSファイルを保存することができます。フラッシュ処理中にBIOSファイルが破損したら、現在のBIOSファイルをロードすることができます。

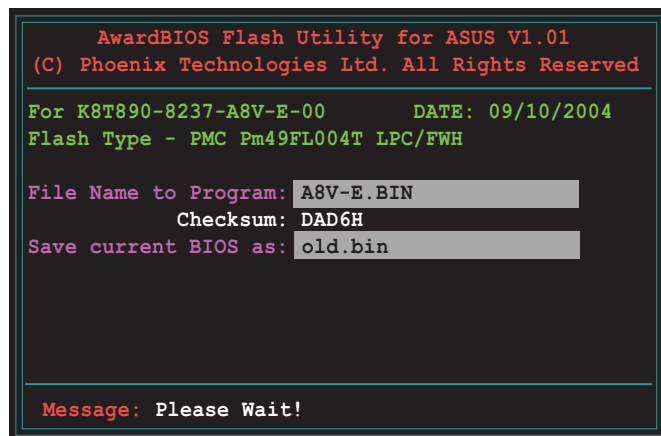
AwardBIOS フラッシュユーティリティを使用して、現在のBIOSファイルを保存するには、次の手順に従います:

1. 前項のステップ1から6に従います。

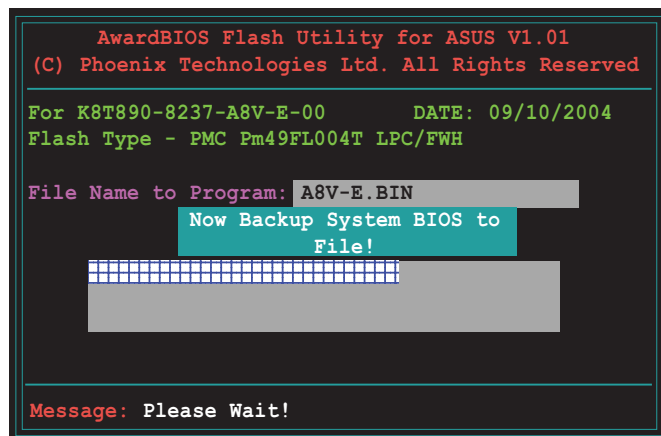
2. ユーティリティが現在のBIOSファイルを保存するように求めたら、<Y>を押します。次の画面が表示されます。



3. 現在のBIOSの名前をつけて保存フィールドに、現在のBIOSファイル名を入力し、<Enter>を押します。



4. ユーティリティがフロッピーディスクに現在のBIOSファイルを保存すると、BIOSフラッシュプロセッサに戻ります。



## 4.1.4 ASUS CrashFree BIOS 2 ユーティリティ

ASUS CrashFree BIOS 2 は自動復元ツールで、更新プロセスの間に障害を起こしたり破損した BIOS ファイルを復元します。破損した BIOS は、マザーボードサポートCD、または更新された BIOS ファイルを含むフロッピーディスクを使用して更新することができます。



このユーティリティを使用する前に、マザーボードサポートCDまたは更新されたマザーボード BIOS を含むフロッピーディスクを手元に用意してください。

### フロッピーディスクからBIOSを復元する

サポートCD から BIOS を復元するには、次の手順に従います。

1. システムの電源をオンにします。
2. 光学ドライブにマザーボードサポートCDを挿入します。
3. ユーティリティは次のメッセージを表示し、フロッピーディスクのオリジナルのまたは更新された BIOS ファイルをチェックします。

```
Award BootBlock BIOS v1.0
Copyright (c) 2000, Award Software, Inc.

BIOS ROM checksum error
Detecting IDE ATAPI device...
```

検出したら、ユーティリティは BIOS ファイルを読み取り、破損した BIOS ファイルのフラッシュを開始します。

```
Award BootBlock BIOS v1.0
Copyright (c) 2000, Award Software, Inc.

BIOS ROM checksum error
Detecting IDE ATAPI device...
Found CDRom, try to Boot from it... Pass
```



BIOS を更新している間に、システムをシャットダウンしたりリセットしないでください。システムの起動エラーの原因となります。

4. ユーティリティが更新プロセスを完了したら、システムを再起動します。

## サポートCDからBIOSを復元する

サポートCDからBIOSを復元するには、次の手順に従います。

1. フロッピーディスクドライブからフロッピーディスクを取り出し、システムの電源をオンにします。
2. サポートCDを光学ドライブに挿入します。
3. ユーティリティは次のメッセージを表示し、フロッピーディスクのオリジナルのまたは更新された BIOS ファイルを自動的にチェックします。

```
Award BootBlock BIOS v1.0
Copyright (c) 2000, Award Software, Inc.

BIOS ROM checksum error
Detecting IDE ATAPI device...
```

フロッピーディスクが検出されたら、ユーティリティは光ドライブのオリジナルのまたは更新された BIOS ファイルを自動的にチェックします。ユーティリティは破損した BIOS ファイルを更新します。

```
Award BootBlock BIOS v1.0
Copyright (c) 2000, Award Software, Inc.

BIOS ROM checksum error
Detecting IDE ATAPI device...
  Found CDROM, try to Boot from it... Fail

Detecting floppy drive A media...
```



BIOSを更新している間、システムをシャットダウンしたりリセットしないでください。システム起動エラーの原因となります。

4. ユーティリティが更新プロセスを完了したら、システムを再起動します。



復元された BIOS は、このマザーボードの最新の BIOS バージョンでないことがあります。最新の BIOS ファイルをダウンロードするには、ASUS web サイト([www.asus.com](http://www.asus.com))にアクセスしてください。



## 4.1.5 ASUS EZ Flash ユーティリティ

ASUS EZ Flash 機能は、フロッピーディスクからまたは DOS ベースユーティリティを使用して長い起動プロセスを経ることなしに、BIOS を更新します。EZ Flash ユーティリティは内蔵の BIOS チップで、起動時の自己診断テスト(POST)の間、<Alt> + <F2>を押すことによってアクセスできます。

EZ Flashを使用して BIOS を更新するには、次の手順に従います。

1. ASUS webサイト(www.asus.com)にアクセスして、マザーボード用の最新の BIOS ファイルをダウンロードします。
2. BIOS ファイルをフロッピーディスクに保存し、システムを再起動します。
3. POST の間に<Alt> + <F2>を押すと、次が表示されます。

```
Insert Disk then press Enter or ESC to continue POST
```

4. BIOS ファイルを含むフロッピーディスクをフロッピーディスクドライブに挿入して、<Enter>を押します。これで、次の画面が表示されます。

```
AwardBIOS Flash Utility for ASUS V1.01
(C) Phoenix Technologies Ltd. All Rights Reserved

For NF-KC804-A8N-SLI-00      DATE: 11/18/2004
Flash Type - SST 49LF004A/B /3.3V

File Name to Program: _____

Message: Please wait...
```

5. 正しい BIOS ファイルが検出されたら、EZ Flash は BIOS 更新プロセスを実行し、完了後にシステムを自動的に再起動します。



BIOS を更新中にシステムを遮断したりリセットしないでください。システム起動エラーの原因となります。

## 4.1.6 ASUS Update ユーティリティ

ASUS Update は、Windows® 環境でマザーボード BIOS を管理、保存、更新するユーティリティです。ASUS Update ユーティリティでは、以下を実行できます。

- ・ 正しいBIOSファイルを保存する
- ・ インターネットから最新のBIOS ファイルをダウンロードする
- ・ 更新されたBIOSファイルからBIOS を更新する
- ・ インターネットから直接BIOSを更新する
- ・ BIOSバージョン情報を表示する。

このユーティリティはマザーボードパッケージに付属するサポート CD で使用できます。



---

ASUS Update は、ネットワークまたはインターネットサービスプロバイダ (ISP)を通して、インターネット接続を要求します。

---

### ASUS Updateをインストールする

ASUS Update をインストールするには、次の手順に従います。

1. 光学ドライブにサポート CD をセットします。メニューが表示されます。
2. Utility タブをクリックし、ASUS Update VX.XX.XXのインストールをクリックします。ユーティリティのスクリーンメニューについては、5-4ページをごらんください。
3. ASUS Update ユーティリティがシステムにコピーされます。



---

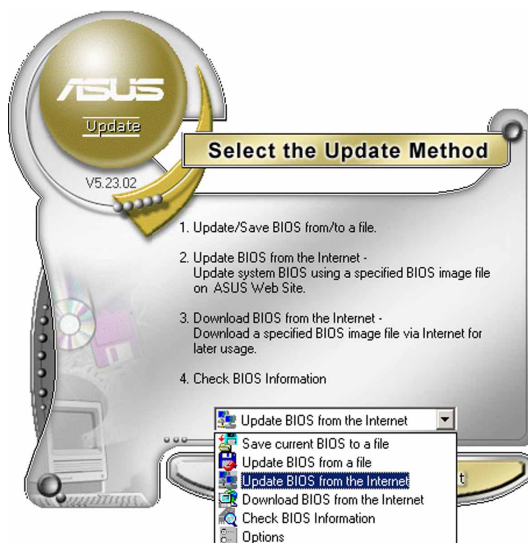
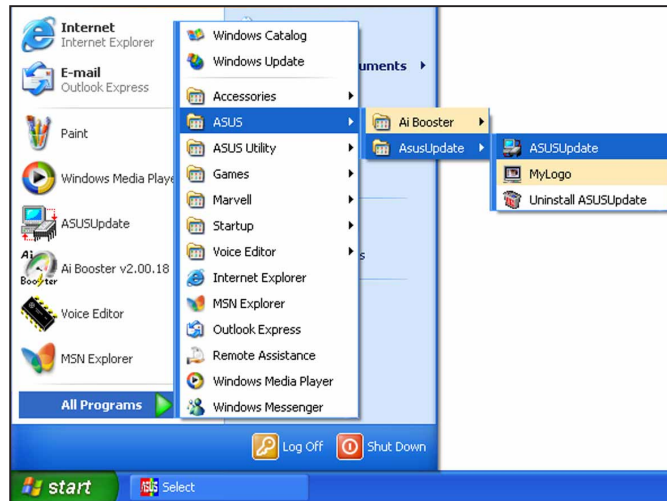
このユーティリティを使用して、BIOS を更新する前にすべての Windows® アプリケーションを終了してください。

---

## インターネットを通してBIOSを更新する

インターネットを通してBIOSを更新するには、次の手順に従います。

1. スタート > プログラム > ASUS > ASUSUpdate > ASUSUpdateをクリックして、Windows® デスクトップから ASUS Update ユーティリティを起動します。ASUS Update メインウィンドウが表示されます。



2. ドロップダウンメニューからインターネットからBIOSを更新オプションを選択し、次へをクリックします。
3. ネットワークの混雑を避けるために、もっとも近いASUS FTPサイトを選択するか、自動選択をクリックしてください。次へをクリックします。

4. FTP サイトから、ダウンロードしたい BIOS バージョンを選択します。次へをクリックします。
5. スクリーンの指示に従って、更新プロセスを完了します。



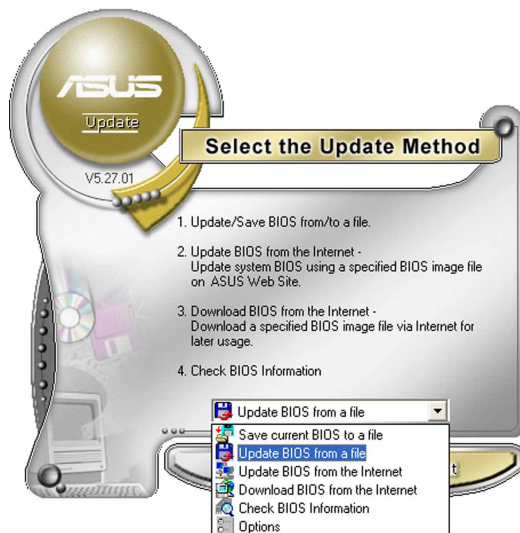
ASUS Update ユーティリティはインターネットを通してそれ自身を更新できます。そのすべての機能を利用できるように、常にユーティリティを更新してください。



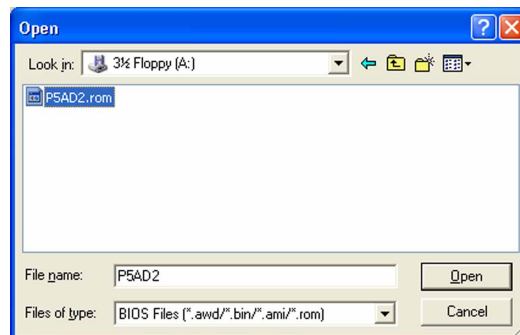
## BIOSファイルを通してBIOSを更新する

BIOSファイルからBIOSを更新するには、次の手順に従います。

1. スタート > プログラム > ASUS > ASUSUpdate > ASUSUpdate をクリックして、Windows® デスクトップから ASUS Update ユーティリティを起動します。ASUS Update メインウィンドウが表示されます。
2. ドロップダウンメニューからファイルから BIOS を更新オプションを選択し、次へをクリックします。



3. 開くウィンドウからBIOSファイルを検索し、保存をクリックします。
4. スクリーンの指示に従い、更新プロセスを完了します。



## 4.2 BIOS 設定プログラム

本マザーボードはプログラム可能な LPC (Low-Pin Count) チップをサポートし、「4.1 BIOS の管理更新」で説明した付属ユーティリティを使用して更新が可能です。

BIOSセットアッププログラムは、マザーボードの取り付けをしたときや、システムの再構成をした時、「Run Setup」を促された時に使用します。本項では、この機能を使用してシステムを構成する方法を説明します。

設定プログラムを使用するように指示されていない場合でも、コンピュータの構成を変更することができます。例えば、セキュリティパスワード機能を有効にしたり、電源管理設定を変更できます。このためには、コンピュータがこれらの変更を認識し、LPC チップの CMOS RAM に記録できるように、BIOS設定プログラムを使用してシステムを再構成する必要があります。

マザーボードの LPC チップは、設定ユーティリティを保管します。コンピュータを起動するとき、システムはこのプログラムを実行する機会を提供します。電源オン自己テスト(POST)の間に<Del>を押すと設定ユーティリティに入ります。<Del>を押さなければ、POST はそのテストルーチンを続行します。

POST後に設定に入るには、<Ctrl+Alt+Delete>を押して、またはシステムシャットダウンのリセットボタンを押してシステムを再起動します。システムをオフにし、それからまたオンにすることによって再起動することもできます。ただし、これは最初の2つの方法が失敗した場合、最後の手段として行ってください。

設定プログラムはできるだけ簡単に使用できるように設計されています。メニュー主導のプログラムとなることによって、ナビゲーションキーを使用してさまざまなサブメニューをスクロールしたり、使用可能なオプションから選択することができます。



- このマザーボードのデフォルトの BIOS 設定はほとんどの条件に適用されて、最適のパフォーマンスを実現しています。BIOS 設定を変更した後システムが不安定になったら、デフォルト設定をロードしてシステム互換性と安定性を確保してください。終了メニューの下のロードデフォルト設定を選択します。「4.7 終了メニュー」をご覧ください。
- 本項に表示された BIOS のセットアップスクリーンはあくまでも参照目的で、スクリーンに表示されるセットアップと異なることもあります。
- ASUS web サイト([www.asus.com](http://www.asus.com))にアクセスして、このマザーボードの最新の BIOS をダウンロードしてください。

## 4.2.1 BIOS メニュースクリーン

メニューアイテム    メニューバー    構成フィールド    全般ヘルプ

Phoenix-Award BIOS CMOS Setup Utility

Main    Advanced    Power    Boot    Exit

System Time  
System Date  
Language

Legacy Diskette A:

▶ Primary IDE Master  
▶ Primary IDE Slave  
▶ Secondary IDE Master  
▶ Secondary IDE Slave  
HDD SMART Monitoring

Installed Memory    256MB

15 : 30 : 36  
Wed, Sep 15 2004  
[English]

[1.44M, 3.5 in.]

[ST321122A]  
[ASUS CDS520/A]  
[None]  
[None]  
[Disabled]

Select Menu

Item Specific Help▶

Change the day, month,  
year and century.

F1: Help    ↓: Select Item    -/+: Change Value    F5: Setup Defaults  
ESC: Exit    →: Select Menu    Enter: Select Sub-menu    F10: Save and Exit

サブメニューアイテム    凡例バー

## 4.2.2 メニューバー

スクリーン上部のメニューバーには、次のメインアイテムがあります。

Main	基本システム構成の変更用
Advanced	拡張システム設定の変更用
Power	拡張電源管理(APM)構成の変更用
Boot	システム起動構成の変更用
Exit	終了オプションとロードデフォルト設定の選択用

メニューバーのアイテムを選択するには、希望するアイテムがハイライト表示されるまで、キーボードの右または左矢印キーを押します。



- 本章で示したBIOS設定画面は、参照のためだけのもので、実際の画面と異なることがあります。
- ASUS web サイト([www.asus.com](http://www.asus.com))にアクセスして、このマザーボードの最新のBIOSをダウンロードしてください。

### 4.2.3 凡例バー

設定画面の下部には、凡例バーがあります。凡例バーのキーにより、さまざまな設定メニューを移動することができます。次の表は、凡例バーとその対応する機能で見られるキーをリストアップしています。

移動キー	機能
<F1>	全般ヘルプ画面を表示
<F5>	設定初期値をロード
<Esc>	BIOS設定を終了、またはサブメニューからメインメニューに復帰
左または右矢印	左または右へのメニュー項目を選択
上または下矢印	ハイライトをフィールド間で上または下に移動
ページを下へまたは-(マイナス)	ハイライトされたフィールドに対する値を後方へスクロール
ページを上へまたは+(プラス)	ハイライトされたフィールドに対する値を前方へスクロール
<Enter>	ハイライトされたフィールドに対して選択メニューを表示
<F10>	変更を保存して終了

### 4.2.4 メニューアイテム

メニューバーのハイライト表示されたアイテムは、そのメニューの特定アイテムを表示します。例えば、メインを選択するとメインのメニューアイテムが表示されません。

メニューバーの他のアイテム(拡張、電源、終了)には、それぞれのメニューアイテムがあります。

### 4.2.5 サブメニューアイテム

メニュースクリーンの各アイテムの前の黒い三角形は、そのアイテムがサブメニューであることを意味しています。サブメニューを表示するには、そのアイテムを選択し <Enter> を押します。

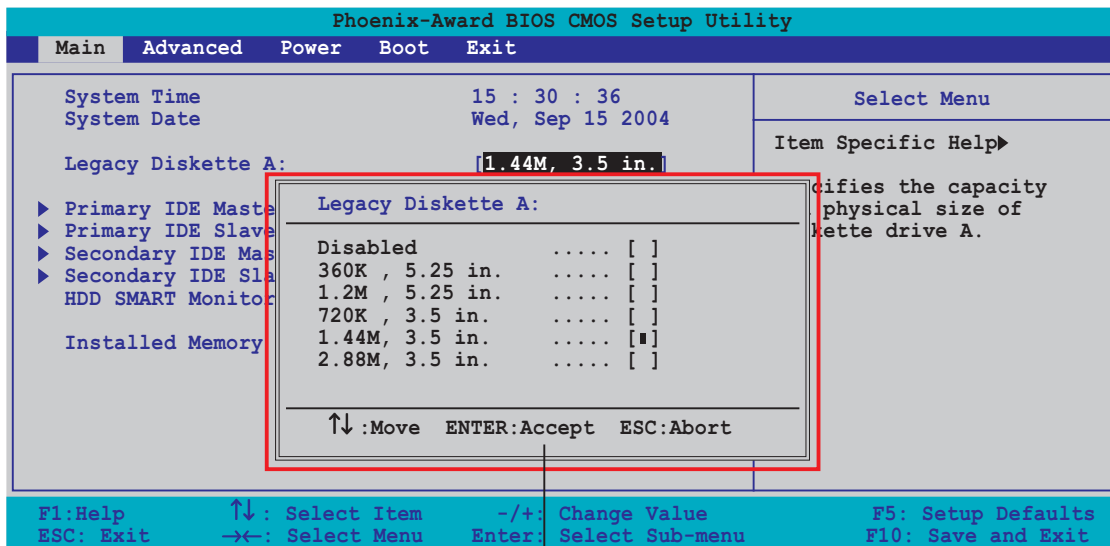
### 4.2.6 構成フィールド

これらのフィールドはメニューアイテムの値を示します。アイテムがユーザー構成可能であれば、そのアイテムの反対側にあるフィールドの値を変更できます。ユーザー構成可能でないアイテムを変更することはできません。

構成可能なフィールドはカッコで囲まれており、選択するとハイライト表示されません。フィールドの値を選択するには、それを選択し <Enter> を押してオプションのリストを表示します。「4.2.7 ポップアップウィンドウ」を参照してください。

## 4.2.7 ポップアップウィンドウ

アイテムを選択し <Enter> を押すと、そのアイテムの構成オプションと共にポップアップウィンドウが表示されます。



ポップアップメニュー

## 4.2.8 全般ヘルプ

メニュー画面の右上には、選択したアイテムの簡単な説明があります。

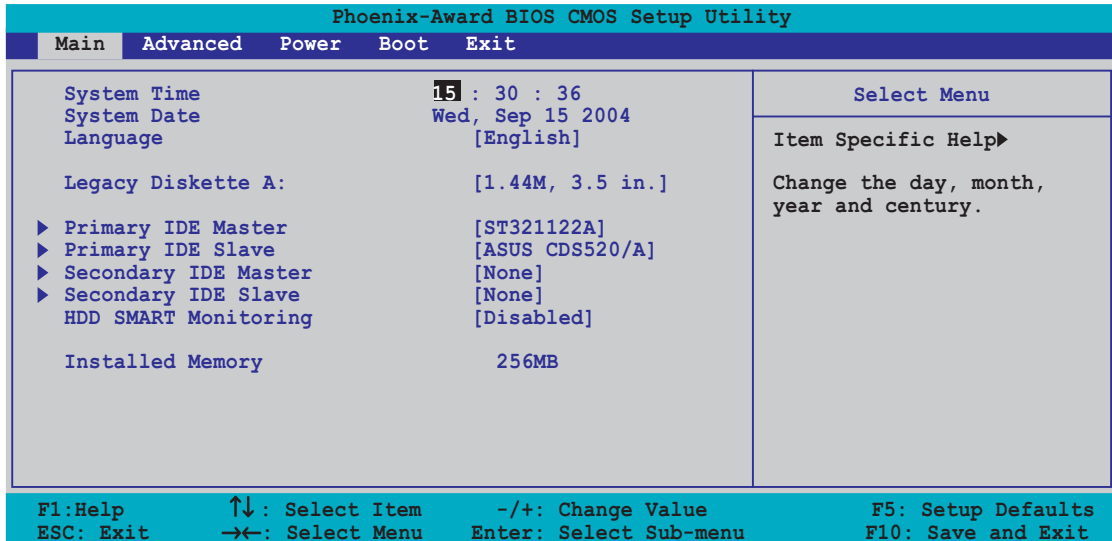


## 4.3 メインメニュー

BIOS 設定プログラムに入るとき、メインのメニュー画面が表示され、基本システム情報の概要を提供します。



メニュー画面アイテムの情報およびそれらのアイテムを移動する方法については、「4.2.1 BIOS メニュー画面」項を参照してください。



### 4.3.1 System Time [xx:xx:xxxx]

システム時間を設定します。

### 4.3.2 System Date [Day xx/xx/xxxx]

システム日付を設定します。

### 4.3.3 Language [English]

オプションから BIOS の言語バージョンを選択します。

構成オプション: [English] [French] [German]

### 4.3.4 Legacy Diskette A [1.44M, 3.5 in.]

取り付けられたフロッピードライブのタイプを設定します。

構成オプション: [Disabled] [360K, 5.25 in.] [1.2M, 5.25 in.] [720K, 3.5 in.] [1.44M, 3.5 in.] [2.88M, 3.5 in.]

### 4.3.5 プライマリおよびセカンダリIDE マスター/スレーブ

設定に入っている間、BIOSはIDEデバイスの存在を自動的に検出します。それぞれのIDEデバイスに対して別個のサブメニューがあります。デバイスアイテムを選択し、<Enter>を押すとIDEデバイス情報が表示されます。

Phoenix-Award BIOS CMOS Setup Utility		
Main		
Primary IDE Master	Select Menu	
Primary IDE Master	[Auto]	Item Specific Help▶▶
Access Mode	[Auto]	Press [Enter] to select
Capacity	13579 MB	
Cylinder	26310	
Head	16	
Sector	63	
PIO Mode	[Auto]	
UDMA Mode	[Auto]	
Transfer Mode	UDMA 4	

F1: Help      ↑↓: Select Item      -/+: Change Value      F5: Setup Defaults  
ESC: Exit      →←: Select Menu      Enter: Select Sub-menu      F10: Save and Exit

BIOSは薄く表示された項目 (Capacity、Cylinder、Head、Sector および Transfer Mode) を自動的に検出します。これらの項目はユーザーによって変更できません。また、システムに接続されていない場合これらの項目はN/Aと表示されず。

#### Primary/Secondary IDE Master/Slave [Auto]

[Auto]を選択するとIDEハードディスクドライブを自動的に検出されます。自動検出が正常に行われると、BIOSはこのサブメニューの残りのフィールドに対して正しい値が自動的に入力されます。以前にシステムでハードディスクがすでにフォーマットされていると、設定BIOSは正しくないパラメータを検出することがあります。[Manual]を選択すると、IDEハードディスクドライブのパラメータを手動で入力できます。ドライブが取り付けられていない場合は、[None]を選択してください。構成オプション: [None] [Auto] [Manual]

#### Access Mode [Auto]

既定値の[Auto]により、IDEハードディスクドライブが自動検出されます。IDEプライマリマスター/スレーブを[Manual]に設定している場合、この項目に対して[CHS]を選択してください。構成オプション: [CHS] [LBA] [Large] [Auto]



ハードディスクドライブの構成を試みる前に、ドライブメーカーが供給する正しい構成情報に従っていることを確認してください。設定を間違えると、システムが取り付けられたハードディスクを認識できない原因となります。

## Capacity

自動検出されたハードディスク容量を表示します。この項目は、設定できません。

## Cylinder

ハードディスクシリンダの番号を表示します。この項目は、設定できません。

## Head

ハードディスクドライブの読込/書込ヘッドの番号を表示します。この項目は、設定できません。

## Sector

トラックあたりのセクタ数を表示します。この項目は、設定できません。

## PIO Mode

PIOモードを選択します。

構成オプション: [Auto] [Mode 0] [Mode 1] [Mode 2] [Mode 3] [Mode 4]

## UDMA Mode

UDMAモードを無効または設定します。構成オプション: [Disabled] [Auto]

## Transfer Mode

転送モードを表示します。この項目は、設定できません。



---

IDEハードディスクドライブ情報をBIOSに入力した後、FDISKなどのディスクユーティリティを使用して、新しいIDEハードディスクドライブのパーティションを切りフォーマットしてください。この操作は、ハードディスクからデータの読込や書込みに必要となります。プライマリIDEハードディスクドライブのパーティションをアクティブに設定していることを確認してください。

---

### 4.3.6 HDD SMART モニタリング

HDDセルフモニタリング解析とレポートングテクノロジー(SMART)機能の有効/無効を切り替えます。

構成オプション: [Disabled] [Enabled]

### 4.3.7 取り付けられたメモリ

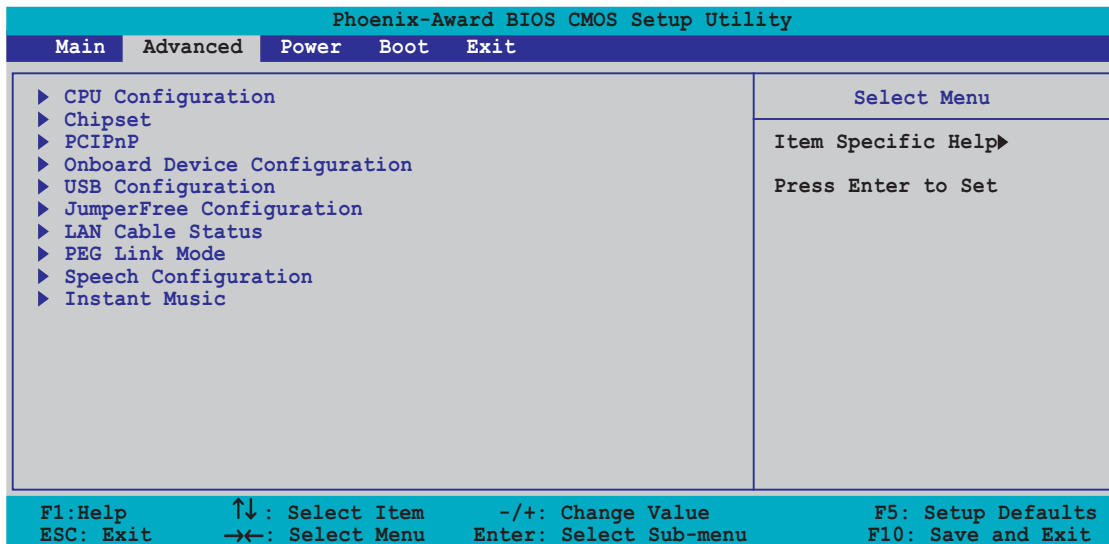
取り付けられたメモリのサイズを表示します。

## 4.4 拡張メニュー

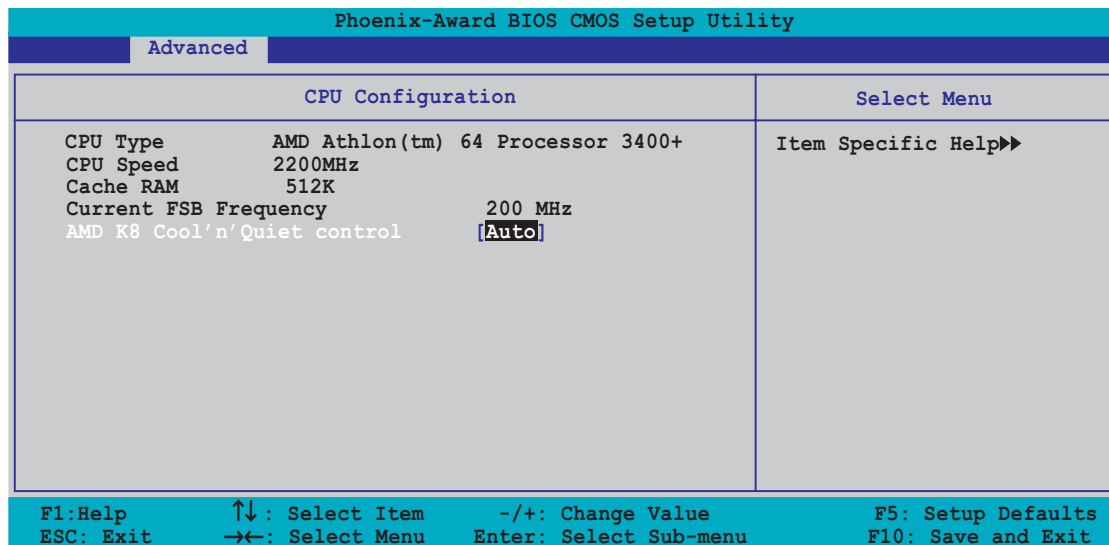
拡張メニューアイテムは、CPUとその他のシステムデバイスの設定を変更します。



拡張メニューアイテムの設定を変更するときは、注意してください。間違ったフィールド値は、システムの誤動作の原因となります。



### 4.4.1 CPU 構成



#### Cool N' Quiet [Auto]

このアイテムは、AMD Cool "n" Quiet!™の「クールアンドクワイエット」機能の無効/設定を切り替えます。構成オプション: [Auto] [Disabled]



- AMD CPU Cool "n" Quiet!™テクノロジー機能を使用する場合、上のアイテムをAutoに設定していることを確認してください。
- この機能は、AMD CPUヒートシンクとモニタチップを搭載したファンパッケージを要求します。ヒートシンクとファンパッケージを別個にお買い求めになった場合、ASUS Q-Fanテクノロジー機能を使用してシステムロードに従って、CPUファン速度を自動的に調整してください。

## 4.4.2 チップセット

Phoenix-Award BIOS CMOS Setup Utility			
Advanced			
Chipset		Select Menu	
▶ DRAM Configuration		Item Specific Help▶▶	
Upstream LDT Bus Width	[16 bit]	DRAM timing and control	
Downstream LDT Bus Width	[16 bit]		
LDT Bus Frequency	[Auto]		
VLink Mode Selection	[By Auto]		
PEG Data Scrambling	[Auto]		
PE0-PE3 Data Scrambling	[Enable]		
Init Display First	[PCI Slot]		
Chipset Vcore Adjustment	[+1.6 V]		

F1:Help      ↑↓: Select Item      -/+ : Change Value      F5: Setup Defaults  
ESC: Exit      →←: Select Menu      Enter: Select Sub-menu      F10: Save and Exit

### DRAM Configuration

このサブメニューの項目は、BIOSが自動検出したDRAM関連の情報を表示します。

Phoenix-Award BIOS CMOS Setup Utility			
Advanced			
DRAM Configuration		Select Menu	
Current DRAM Frequency		166 MHz	Item Specific Help▶▶▶
Max Memclock (MHz)		[Auto]	Place an artificial memory clock limit on the system. Memory is prevented from running faster than this frequency.
CAS# latency (Tcl)		[Auto]	
RAS# to CAS# delay (Trcd)		[Auto]	
Min RAS# active time(Tras)		[Auto]	
Row precharge Time (Trp)		[Auto]	
Master ECC Enable		[Enabled]	

F1:Help      ↑↓: Select Item      -/+ : Change Value      F5: Setup Defaults  
ESC: Exit      →←: Select Menu      Enter: Select Sub-menu      F10: Save and Exit

#### Current DRAM Frequency

転送モードを表示します。この項目は構成できません。

#### Max Memclock (MHz) [Auto]

最大オペレイティングメモリク拉克を設定します。

構成オプション: [Auto] [DDR200] [DDR266] [DDR333] [DDR400]

### CAS# latency (Tcl) [Auto]

SDRAM読み込みコマンドとデータが実際に利用できるようになる時間の間の待ち時間をコントロールします。

構成オプション: [Auto] [2.0] [2.5] [3.0]

### RAS# to CAS# delay (Trcd) [Auto]

DDR SDRAMアクティブコマンドと読み込み/書き込みコマンド間の待ち時間をコントロールします。

構成オプション: [Auto] [2] [3] [4] [5] [6] [7]

### Min RAS# active time (Tras) [Auto]

minimum RAS# active time を設定します。

構成オプション: [Auto] [5] [6] [7] [8] [9] [10] [11] [12] [13] [14] [15]

### Row precharge Time (Trp) [Auto]

Row precharge Timeを設定します。

構成オプション: [Auto] [2] [3] [4] [5] [6]

### Master ECC Enable [Disabled]

Master ECC 機能の有効/無効を切り替えます。

構成オプション: [Disabled] [Enabled]

## Upstream LDT Bus Width [16 bit]

アップストリームライトニングデータ移送(LDT)バス幅を設定します。

構成オプション: [ 8 bit] [16 bit]

## Downstream LDT Bus Width [16 bit]

ダウンストリームライトニングデータ移送(LDT)バス幅を設定します。

構成オプション: [ 8 bit] [16 bit]

## LDT Bus Frequency [Auto]

ライトニングデータ移送(LDT)バス周波数を設定します。

構成オプション: [Auto] [1 GHz] [800 MHz] [600 MHz] [400 MHz] [200 MHz]

## VLink Mode Selection [By Auto]

VLinkモードを設定します。構成オプション: [By Auto] [Mode 0] [Mode 1] [Mode 2] [Mode 3] [Mode 4]

## PEG Data Scrambling [Auto]

PCI Express™ グラフィックスデータスクランプリングの有効/無効を切り替えます。構成オプション: [Auto] [Disable] [Enable]

## PE0-PE3 Data Scrambling [Enable]

PCI Express™ 0 トゥ PCI Express™ 3 データスクランブリングの無効/有効を切り替えます。構成オプション: [Disable] [Enable]

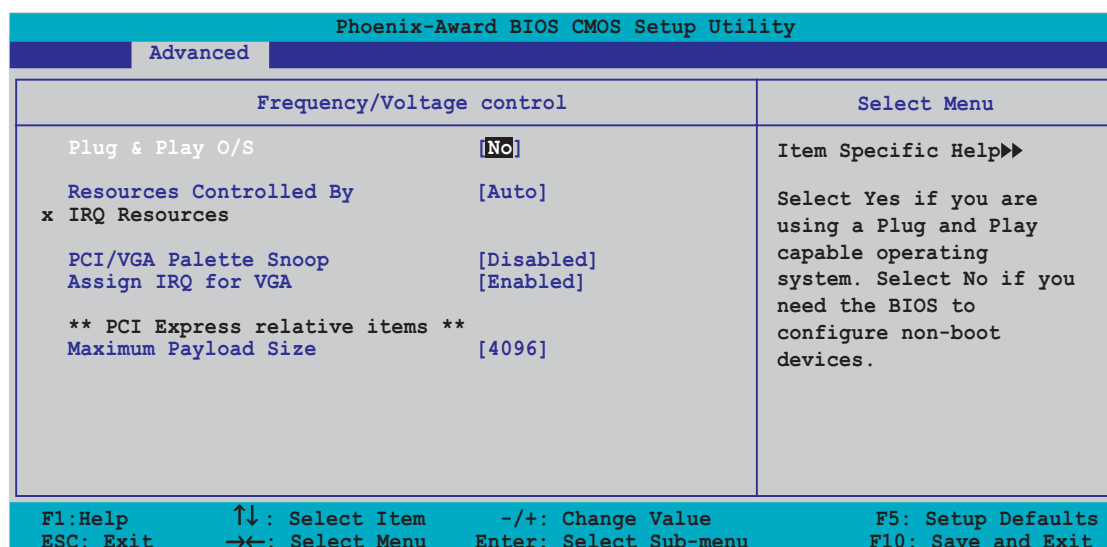
## Init Display First [PCI Slot]

プライマリブートデバイスとして使用するグラフィックスコントローラを選択します。構成オプション: [PCI Slot] [PCIEx]

## Chipset Vcore Adjustment [+1.5 V]

チップセットvcore調整電圧を設定します。構成オプション: [+1.5 V] [+1.6 V]

### 4.4.3 PCI PnP



## Plug & Play O/S [No]

[No]に設定されているとき、BIOS はシステムのすべてのデバイスを修正します。[Yes]に設定しているとき、プラグアンドプレイオペレーティングシステムをインストールしていれば、オペレーティングシステムは起動で必要とされないプラグアンドプレイデバイスを構成します。構成オプション: [No] [Yes]

## Resources Controlled By [Auto]

[Auto]に設定されているとき、BIOSはすべての起動およびプラグアンドプレイ互換デバイスを自動的に構成します。IRQ DMAとメモリベースのアドレスフィールド割り当てるには、[Manual]に設定します。構成オプション: [Auto] [Manual]



項目「リソースの制御方法」が[Auto]に設定されているとき、項目IRQ Resourcesは淡色表示され、ユーザー設定することはできません。この項目を有効にする方法の詳細は、セクション「IRQ Resources」を参照してください。

## IRQ Resources

このサブメニューは、リソースの制御方法 項目がManual（手動）に設定されているときのみアクティブになります。

Phoenix-Award BIOS CMOS Setup Utility	
Advanced	
IRQ Resources	Select Menu
IRQ-3 assigned to [PCI Device]	Item Specific Help▶▶▶
IRQ-4 assigned to [PCI Device]	
IRQ-5 assigned to [PCI Device]	Legacy ISA for devices compliant with the original PC AT bus specification, PCI/ISA
IRQ-7 assigned to [PCI Device]	PnP for devices compliant with the Plug and Play standard whether designed for PCI or ISA bus architecture
IRQ-9 assigned to [PCI Device]	
IRQ-10 assigned to [PCI Device]	
IRQ-11 assigned to [PCI Device]	
IRQ-12 assigned to [PCI Device]	
IRQ-14 assigned to [PCI Device]	
IRQ-15 assigned to [PCI Device]	

F1: Help      ↑↓: Select Item      -/+: Change Value      F5: Setup Defaults  
ESC: Exit      →←: Select Menu      Enter: Select Sub-menu      F10: Save and Exit

### IRQ-xx assigned to

[PCI Device]に設定しているとき、特定の IRQはPCI/PnP デバイスを自由に使用します。[Reserved]に設定しているとき、IRQ はレガシー ISA デバイス用に予約されます。構成オプション: [PCI Device] [Reserved]

### PCI/VGA Palette Snoop [Disabled]

[Enabled]に設定しているとき、パレットスヌープ機能は PCI デバイスに、ISA グラフィックスデバイスがシステムに取り付けられており、ISA グラフィックスデバイスが正常に作動していることを通知します。

構成オプション: [Disabled] [Enabled]

### Assign IRQ for VGA [Enabled]

[Enabled]に設定しているとき、カードがIRQを要求している場合、BIOSはPCI VGAカードにIRQを割り当てます。[Disabled]に設定しているとき、BIOSはたとえ要求されても、PCI VGAカードにIRQを割り当てません。

構成オプション: [Disabled] [Enabled]

### Maximum Payload Size [4096]

PCI Expressデバイス用の最大ペイロードサイズをバイトで設定します。

構成オプション: [128] [256] [512] [1024] [2048] [4096]



## 4.4.4 オンボードデバイス構成

Phoenix-Award BIOS CMOS Setup Utility		
Advanced		
Onboard Device Configuration	Select Menu	
Onboard 1394 Controller	<b>Enabled</b>	Item Specific Help▶▶
Onboard PCIE GbE LAN	[Enabled]	Enable/Disable Onboard
Onboard LAN Boot ROM	[Disabled]	1394 device support.
OnChip SATA	[Enabled]	
SATA Mode	[RAID]	
Onboard AC97 Audio	[Auto]	
Serial Port1 Address	[3F8/IRQ4]	
Parallel Port Address	[378/IRQ7]	
Parallel Port Mode	[ECP+EPP]	
EPP Mode Select	[EPP1.7]	
ECP Mode Use DMA	[3]	
Game Port Address	[201]	
Midi Port Address	[330]	
Midi Port IRQ	[10]	

F1:Help      ↑↓: Select Item      -/+ : Change Value      F5: Setup Defaults  
ESC: Exit      →←: Select Menu      Enter: Select Sub-menu      F10: Save and Exit

### Onboard 1394 Controller [Enabled]

オンボード 1394コントローラの有効/無効を切り替えます。  
構成オプション: [Enabled] [Disabled]

### OnBoard PCIEX GbE LAN [Enabled]

オンボード PCI Express Gigabit LAN コントローラの有効/無効を切り替えます。  
構成オプション: [Disabled] [Enabled]

### OnBoard LAN Boot ROM [Disabled]

オンボードLANブートROMの有効/無効を切り替えます。  
構成オプション: [Disabled] [Enabled]

### OnChip SATA [Enabled]

オンボード VIA シリアル ATA コントローラの有効/無効を切り替えます。  
構成オプション: [Disabled] [Enabled]

### SATA Mode [RAID]

オンボード VIA SATA RAID コントローラモードを設定します。  
構成オプション: [IDE] [RAID]

### Onboard AC97 Audio [Auto]

オンボードAC97オーディオコントローラの有効/無効を切り替えます。  
構成オプション: [Disabled] [Auto]

### Serial Port1 Address [3F8/IRQ4]

シリアル Port1 ベースアドレスを選択します。  
構成オプション: [Disabled] [3F8/IRQ4] [2F8/IRQ3] [3E8/IRQ4] [2E8/IRQ3]  
[Auto]

### Parallel Port Address [378/IRQ7]

パラレルポートベースアドレスを選択します。  
構成オプション: [Disabled] [378/IRQ7] [278/IRQ5] [3BC/IRQ7]

### Parallel Port Mode [ECP+EPP]

パラレルポートモードを選択します。  
構成オプション: [Normal] [SPP] [EPP] [ECP] [ECP+EPP] [Normal]

### EPP Mode Select [EPP1.7]

パラレル EPP バージョンを選択します。  
構成オプション: [EPP1.9] [EPP1.7]

### ECP Mode Use DMA [3]

ECPモードを選択します。構成オプション: [1] [3]

### Game Port Address [201]

ゲームポートアドレスを選択、またはポートを無効にします。  
構成オプション: [Disabled] [201] [209]

### Midi Port Address [330]

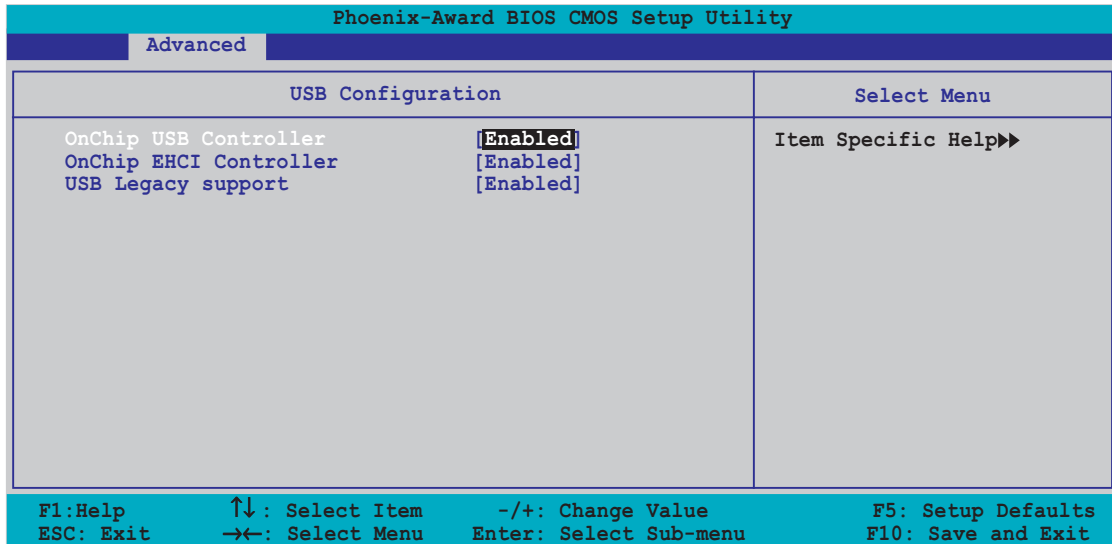
ゲームポートアドレスを選択、またはポートを無効にします。  
構成オプション: [Disabled] [330] [300] [290]

### Midi Port IRQ [10]

Midi ポート IRQ アドレスを設定します。構成オプション: [5] [10]

## 4.4.5 USB Configuration

このメニューの項目は、USB関連の機能を変更します。項目を選択し、<Enter>を押すと構成オプションが表示されます。



### OnChip USB Controller [Enabled]

オンチップ USB コントローラの有効/無効を切り替えます。  
構成オプション: [Disabled] [Enabled]

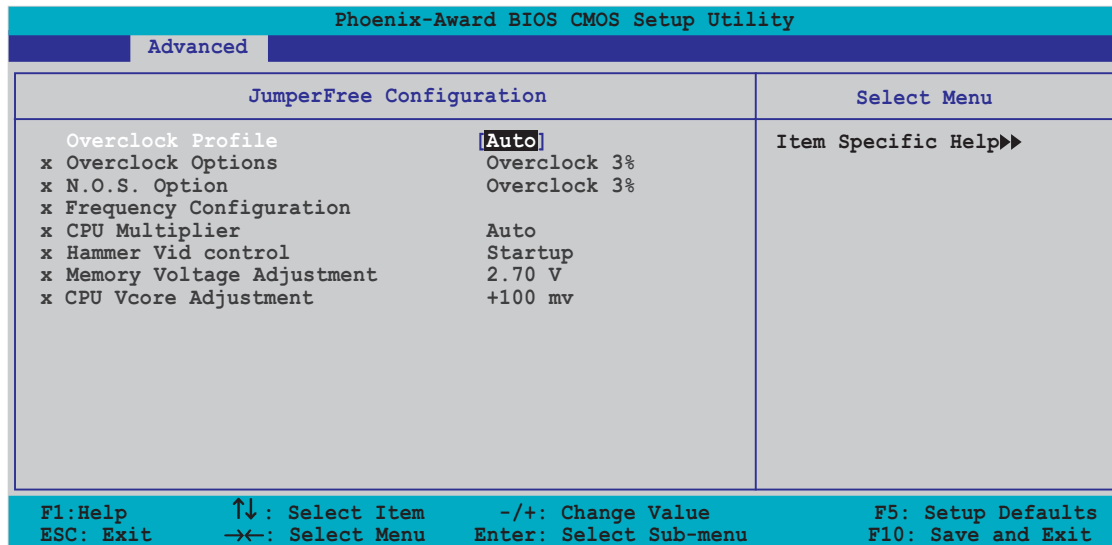
### OnChip EHCI Controller [Enabled]

オンチップ拡張ホストコントローラインターフェイス(EHCI)コントローラの有効/無効を切り替えます。構成オプション: [Disabled] [Enabled]

### USB Legacy Support [Enabled]

古いタイプのオペレーティングシステム(OS)のUSBデバイスに対するサポートの有効/無効を切り替えます。構成オプション: [Disabled] [Enabled]

## 4.4.6 JumperFree 構成



### Overclock Profile [Auto]

CPUオーバークロックオプションを選択して、希望するCPU内部周波数を獲得します。プリセットオーバークロッキング構成オプションの1つを選択してください。

Manual (手動)	オーバークロッキングパラメータを個別に設定します。
Auto (自動)	システムの最適な設定をロードします。
Standard (標準)	システムの標準設定をロードします。
Overclock Profile	オーバークロックしているとき、安定性にとって最適なパラメータでオーバークロッキングプロファイルをロードします。
AI N.O.S.	ASUS AI 非遅延オーバークロッキング機能はシステム負荷をインテリジェントに判断し、もっとも厳しいタスクに対してパフォーマンスを自動的に高めます。



次のアイテムはAIオーバークロッキングアイテムを [Manual] に設定しているときのみ表示されます。

Phoenix-Award BIOS CMOS Setup Utility			
Advanced			
JumperFree Configuration		Select Menu	
Overclock Profile	[Auto]	Item Specific Help▶▶	
x Overclock Options	Disabled		
x N.O.S. Option	Disabled		
▶ Frequency Configuration			
CPU Multiplier	[Auto]		
Hammer Vid control	[Startup]		
Memory Voltage Adjustment	[2.75 V]		
CPU Vcore Adjustment	[+100 mv]		
F1:Help           ↑↓: Select Item       -/+ : Change Value           F5: Setup Defaults			
ESC: Exit        →←: Select Menu     Enter: Select Sub-menu       F10: Save and Exit			

## 周波数構成

このサブメニューの項目は、BIOSで自動的に検出された周波数構成の情報を表示します。

Phoenix-Award BIOS CMOS Setup Utility		
Advanced		
Frequency Configuration		Select Menu
Spread Spectrum	[Auto]	Item Specific Help▶▶
PCIEx clock Sync. to CPU	[Enable]	
x PCIEx Clock	100MHz	
PCI clock Sync. to CPU	[Enabled]	
x PCI Clock	33.0 MHz	
CPU Clock	[200MHz]	
F1:Help           ↑↓: Select Item       -/+ : Change Value           F5: Setup Defaults		
ESC: Exit        →←: Select Menu     Enter: Select Sub-menu       F10: Save and Exit		

### Spread Spectrum [Auto]

クロックジェネレータスペクトラム拡散の有効/無効を切り替えます。構成オプション: [Disabled] [Enabled] [Auto]

### PCIEx clock Sync. to CPU [Enable]

CPU に PCI Express™ 同期クラックの有効/無効を切り替えます。  
構成オプション: [Disabled] [Enabled]

### PCIEx Clock [XXX] (value is auto-detected)

PCI Express クラック周波数を設定します。[PCIEx clock Sync. to CPU] アイテムを Disabled に設定している時のみ、このアイテムはユーザー構成できます。このアイテムのデフォルト値は BIOS により検出されます。<Enter> を押して範囲内に要求 PCI Express クラック周波数を入力します。

### PCI clock Sync. to CPU [Enable]

CPU に PCI クラック周波数の有効/無効を切り替えます。  
構成オプション: [Disabled] [Enabled]

### PCI Clock [XXX] (value is auto-detected)

PCI クラック周波数を設定します。[PCI clock Sync. to CPU] アイテムを Disabled に設定している時のみ、このアイテムはユーザー構成できません。このアイテムのデフォルト値は BIOS により検出されます。<Enter> を押して範囲内に要求 PCI クラック周波数を入力します。

### CPU Clock [XXX] (value is auto-detected)

クロック発振器によってシステムバスと PCI バスに送信された周波数を表示します。このアイテムの値は BIOS により自動検出されます。<+> と <-> キーを使用して CPU 周波数を調整してください。正しいフロントサイドバスと CPU 外部周波数設定については、下の表を参照してください。



きわめて高い CPU 周波数を選択すると、システムが不安定になる原因となります。この場合、デフォルト設定に戻してください。

## CPU Multiplier [Auto]

CPU 乗算器を設定します。構成オプション: [Auto] [x4] [x4.5] [x5] [x5.5] [x6] [x6.5] [x7] [x7.5] [x8] [x8.5] [x9] [x9.5] [x10] [x10.5] [x11] [x11.5] [x12] [x12.5] [x13] [x13.5] [x14] [x14.5] [x15] [x15.5] [x16] [x16.5] [x17] [x17.5] [x18] [x18.5] [x19] [x19.5] [x20]

## Hammer Vid control [Startup]

ハンマー 電圧 ID コントロールを設定します。構成オプション: [Startup]  
[1.5625v] [1.550 v] [1.5375v] [1.525 v] [1.5125v] [1.500 v] [1.4875v]  
[1.475 v] [1.4625v] [1.450 v] [1.4375v] [1.425 v] [1.4125v] [1.400 v]  
[1.3875v] [1.375 v] [1.3625v] [1.350 v] [1.3375v] [1.325 v] [1.3125v]  
[1.300 v] [1.2875v] [1.275 v] [1.2625v] [1.250 v] [1.2375v] [1.225 v]  
[1.2125v] [1.200 v] [1.1875v] [1.175 v] [1.1625v] [1.150 v] [1.1375v]  
[1.125 v] [1.1125v] [1.100 v] [1.0875v] [1.075 v] [1.0625v] [1.050 v]  
[1.0375v] [1.025 v] [1.0125v] [1.000 v] [0.9875v] [0.975 v] [0.9625v]  
[0.950 v] [0.9375v] [0.925 v] [0.9125v] [0.900 v] [0.8875v] [0.875 v]  
[0.8625v] [0.850 v] [0.8375v] [0.825 v] [0.8125v] [0.800 v]

## Memory Voltage Adjustment [2.75 V]

メモリ調整電圧を設定します。構成オプション: [2.60 V] [2.65 V] [2.70 V]  
[2.75 V] [2.80 V] [2.85 V] [2.90 V] [2.95 V] [3.00 V]

## CPU VCore Offset [+100 mv]

CPU Vcoreオフセット電圧を設定します。  
構成オプション: [+100 mv] [+200 mv]



---

次の項目は、AIオーバークロック項目が[AI Overclock]に設定されているときのみ、ユーザー構成可能です。

---

## Overclock Options [Overclock 3%]

オーバークロッキングオプションを設定します。  
構成オプション: [Overclock 3%] [Overclock 5%] [Overclock 8%] [Overclock 10%]



---

次の項目は、AIオーバークロック項目が[AI N.O.S.]に設定されているときのみ、ユーザー構成可能です。

---

## N.O.S. Option [Disable]

非遅延オーバークロッキングシステムモードを設定します。  
構成オプション: [Disable] [Overclock 3%] [Overclock 5%] [Overclock 8%]  
[Overclock 10%]

## 4.4.7 LAN ケーブルステータス

このメニューの項目は、構内通信網 (LAN) ケーブルのステータスを表示します。

Phoenix-Award BIOS CMOS Setup Utility			
Advanced			
JumperFree Configuration		Select Menu	
POST Check LAN Cable		[Disabled]	
Pair	Status	Length	Item Specific Help▶▶
1-2	Open	N/A	Enable/Disable Speech
3-6	Open	N/A	IC Controller
4-5	Open	N/A	
7-8	Open	N/A	

F1: Help      ↑↓: Select Item      -/+: Change Value      F5: Setup Defaults  
ESC: Exit      →←: Select Menu      Enter: Select Sub-menu      F10: Save and Exit

### POST Check LAN cable [Disabled]

POST中に、LANケーブルチェックの有効/無効を切り替えます。  
構成オプション: [Disabled] [Enabled]

## 4.4.8 PEG リンクモード

Phoenix-Award BIOS CMOS Setup Utility			
Advanced			
JumperFree Configuration		Select Menu	
PEG Link Mode		[Auto]	
		Item Specific Help▶▶	
		Enhance performance on Nvidia 6x00 PCIE serial graphic card.	

F1: Help      ↑↓: Select Item      -/+: Change Value      F5: Setup Defaults  
ESC: Exit      →←: Select Menu      Enter: Select Sub-menu      F10: Save and Exit

### PEG Link Mode [Auto]

PCI Expressグラフィックスカードのパフォーマンスを向上させます。構成オプション: [Auto] [Slow] [Normal] [Fast] [Faster]



## 4.4.9 スピーチ構成

Phoenix-Award BIOS CMOS Setup Utility	
Advanced	
JumperFree Configuration	Select Menu
Speech IC Reporter <b>Enabled</b>	Item Specific Help▶▶
Report IDE Error [Disabled]	Enable/Disable Speech IC Controller
Report System Booting [Disabled]	

F1: Help      ↑↓: Select Item      -/+ : Change Value      F5: Setup Defaults  
ESC: Exit      →←: Select Menu      Enter: Select Sub-menu      F10: Save and Exit

### Speech IC Reporter [Enabled]

ASUS Speech POST Reporter™ 機能の有効/無効を切り替えます。  
構成オプション: [Disabled] [Enabled]



次のアイテムは、Speech POST Reporter が Enabled に設定されているときのみ表示されます。

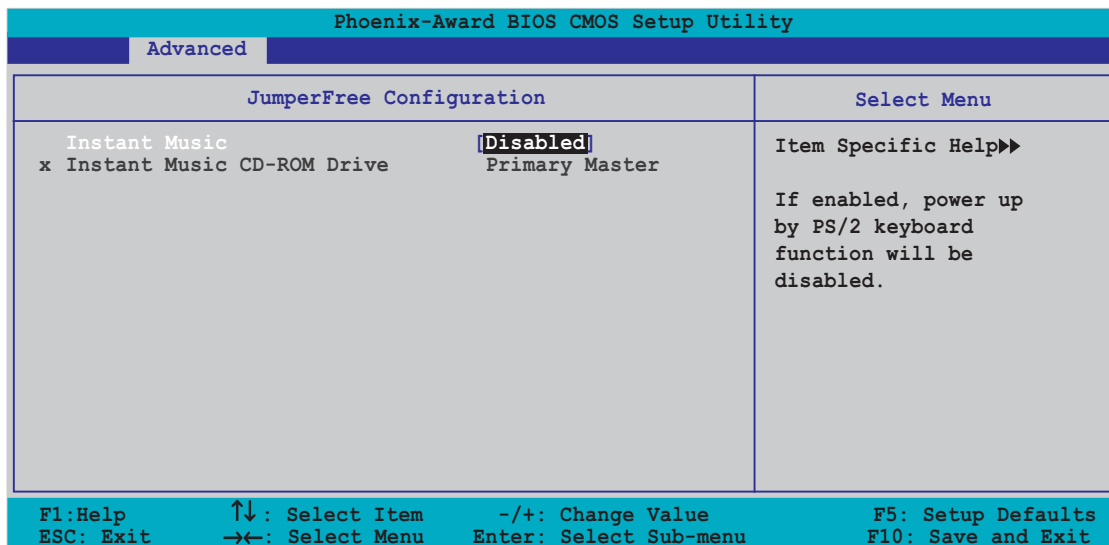
### Report IDE Error [Disabled]

IDEエラーが発生した場合、レポート機能の有効/無効を切り替えます。  
構成オプション: [Disabled] [Enabled]

### Report System Booting [Disabled]

システムを起動した後、レポートの有効/無効を切り替えます。  
構成オプション: [Disabled] [Enabled]

## 4.4.10 インスタントミュージック構成



### Instant Music [Disabled]

BIOSでインスタントミュージック機能の有効/無効を切り替えることができます。構成オプション: [Disabled] [Enabled]



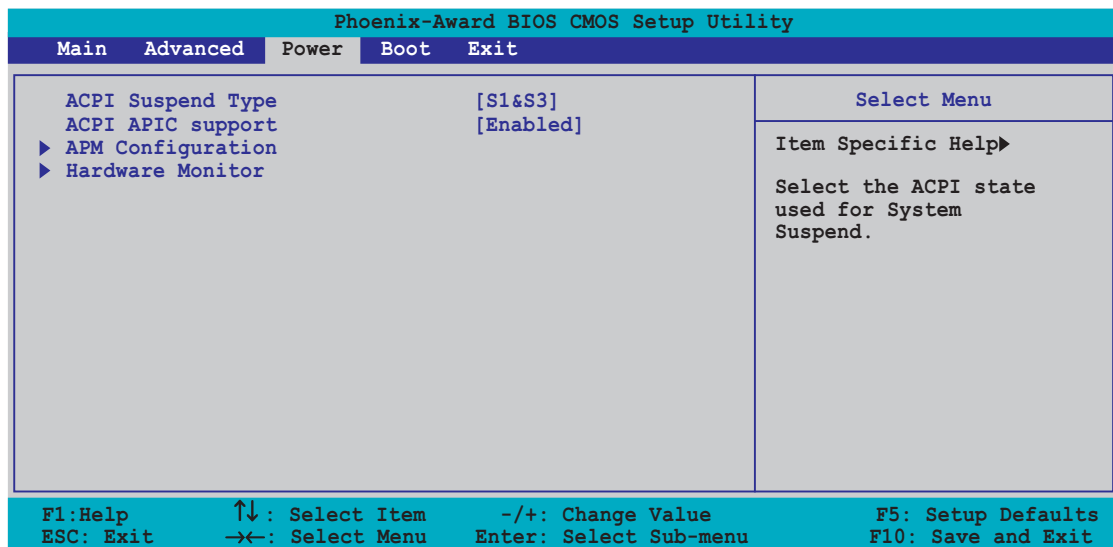
インスタントミュージックが有効になっていると、PS/2 キーボードの電源アップ機能は自動的に無効になります。

### Instant Music CD-ROM Drive [Primary Master]

インスタントミュージックCD再生に対して使用するCD-ROMドライブを選択できます。構成オプション: [Primary Master] [Primary Slave] [Secondary Master] [Secondary Slave]

## 4.5 電源メニュー

電源メニューアイテムは、拡張電源管理(APM)の設定を変更します。アイテムを選択し、<Enter> を押すと構成オプションが表示されます。



### 4.5.1 ACPI Suspend Type [S1&S3]

システムサスペンド用に使用される拡張構成電源インターフェイス(ACPI)状態を選択します。

構成オプション: [S1 (POS)] [S3(STR)] [S1&S3]

### 4.5.2 ACPI APIC Support [Enabled]

アプリケーション固有の集積回路(ASIC)で拡張構成電源インターフェイス(ACPI)サポートの有効/無効を切り替えます。Enabled に設定されているとき、ACPI APIC 表ポインタは RSDT ポインタリストに含まれています。

構成オプション: [Disabled] [Enabled]

## 4.5.3 APM 構成

Phoenix-Award BIOS CMOS Setup Utility		
Power		
APM Configuration		Select Menu
PS2KB Wakeup from S5	<b>Disabled</b>	Item Specific Help▶▶
PS2MS Wakeup from S5	[Disabled]	
USB Resume from S3	[Disabled]	
Power Up On PCI Devices	[Disabled]	When Select Password,
Modem Ring Resume	[Disabled]	Please press ENTER key
Power On By RTC Alarm	[Disabled]	to change Password
x Date (of Month)	0	Max 8 numbers.
x Resume Time (hh:mm:ss)	0 : 0 : 0	
Restore on AC Power Loss	[Power Off]	
PWR Button < 4 secs	[Instant Off]	

F1: Help      ↑↓: Select Item      -/+ : Change Value      F5: Setup Defaults  
ESC: Exit      →←: Select Menu      Enter: Select Sub-menu      F10: Save and Exit

### PS2KB Wakeup from S5 [Disabled]

PS/2キーボード機能による電源オンを無効に設定します。またはPS/2キーボードの特定のキーを設定してシステムの電源をオンにします。この機能は、+5VSBリード線で少なくとも1Aを提供するATX電源装置を必要とします。構成オプション: [Disabled] [Space Bar] [Ctrl+ESC] [Power Key]

### PS2MS Wakeup from S5 [Disabled]

[Enabled]に設定しているとき、このパラメータはPS/2マウスを使用してシステムの電源をオンにします。この機能は+5VSBリード線で少なくとも1Aを提供するATX電源装置を必要とします。構成オプション: [Disabled] [Enabled]

### Power On By PCI Devices [Disabled]

[Enabled]に設定しているとき、このパラメータはPCI LAN またはモデムカードを通してシステムの電源をオンにします。この機能は、+5VSB リード線で少なくとも1Aを提供する ATX 電源装置を必要とします。  
構成オプション: [Disabled] [Enabled]

### Modem Ring Resume [Disabled]

コンピュータがソフトオフモードになっている間、外部モデムがコールを受信するとき、コンピュータの電源をオンにするための有効/無効を設定します。  
構成オプション: [Disabled] [Enabled]

## Power On By RTC Alarm [Disabled]

ウェイクイベントを生成する RTC の有効/無効を切り替えます。この項目が Enabled (有効) に設定されているとき、項目日付アラームと時刻(hh:mm:ss)アラーム項目が設定値でユーザー構成できます。構成オプション: [Disabled] [Enabled]

## Date (of Month) [0]

アラームの日付を設定するには、この項目を強調表示し、<Enter>を押して日付アラームポップアップメニューを表示します。指定した範囲内に値を入力し<Enter>を押します。構成オプション: [Min=0] [Max=31]

## Resume Time (hh:mm:ss) 0 : 0 : 0

アラームの時間を設定するには、次の手順に従います。

1. この項目を強調表示し、<Enter>を押して時フィールドのポップアップメニューを表示します。
2. 値(最小=0、最大=23)を入力し、<Enter>を押します。
3. <TAB>を押して分のフィールドに移動し、<Enter>を押します。
4. 分の値(最小=0、最大=59)を入力し、<Enter>を押します。
5. <TAB>を押して秒のフィールドに移動し、<Enter>を押します。
6. 値(最小=0、最大=59)を入力し、<Enter>を押します。

## Restore on AC Power Loss [Power Off]

電源オフに設定しているとき、システムは AC 電力損失後オフ状態に入ります。電源オンに設定しているとき、システムは AC 電力損失後もオンの状態で続きます。最後の状態に設定しているとき、システムは AC 電力損失前の状態に関わらず、オンまたはオフの状態に入ります。

構成オプション: [Power Off] [Power On] [Last State]

## PWR Button < 4 secs [Instant-Off]

電源ボタンを4秒以上押すと、イベントが設定されます。

構成オプション: [Suspend] [Instant-Off]

## 4.5.4 ハードウェアモニタ

このサブメニューの項目は、BIOSで自動的に検出されたハードウェアモニターの値を表示します。CPU Q-Fan 機能に関連するパラメータも変更します。項目を選択し、<Enter>を押して構成オプションを表示します。

Phoenix-Award BIOS CMOS Setup Utility			
Power			
Hardware Monitor		Select Menu	
M/B Temperature	34°C / 93°F	Item Specific Help▶▶	
Current CPU1 Temperature	47°C/118°F		
Chassis Fan speed	0 RPM		
CPU Fan speed	4265 RPM		
Chipset Fan speed	7500 RPM		
Chassis Fan2 speed	6367 RPM		
VCORE Voltage	1.64V		
+12V Voltage	11.35V		
+3.3V Voltage	3.36V		
+5VCC Voltage	5.22V		
Q-FAN Function	[Disabled]		
x CPU Target Temperature	45°C/113°F		
x Temperature Tolerance	3°C		
x Minimum FAN Duty Cycle	11/16		
x FAN Step Time	0.1 sec		
F1:Help      ↑↓: Select Item      -/+ : Change Value      F5: Setup Defaults			
ESC: Exit      →←: Select Menu      Enter: Select Sub-menu      F10: Save and Exit			

### M/B Temperature

### Current CPU1 Temperature

オンボードハードウェアモニターは、マザーボードとCPU温度を自動的に検出して表示します。これらの項目はユーザー構成できません。

### Chassis Fan Speed

### CPU Fan Speed

### Chipset Fan Speed

### Chassis Fan2 Speed

オンボードハードウェアモニターはシャーシ、CPU、電源ファン速度を自動的に検出し表示します。ファンがマザーボードに接続されていない場合、フィールドには0が表示されます。これらの項目はユーザー構成できません。

### VCORE Voltage, +12V Voltage, 3.3V Voltage, 5VCC Voltage

オンボードハードウェアモニタはオンボード電圧調節器を通して電圧を自動的に検出します。これらの項目はユーザー構成できません。

### Q-FAN Function [Disabled]

ASUS Qファン機能の有効/無効を切り替えます。  
構成オプション: [Disabled] [Enabled]

## CPU Target Temperature [xxx°C/xxx°F]

CPU Q ファン速度が低い CPU 温度に対して上がるとき、CPU 温度の基準値を設定します。

構成オプション: [10°C/50°F] [15°C/59°F] [20°C/68°F] [25°C/77°F] [30°C/86°F] [35°C/95°F] [40°C/104°F] [45°C/113°F] [50°C/122°F] [55°C/131°F] [60°C/140°F] [65°C/149°F] [70°C/158°F] [75°C/167°F] [80°C/176°F] [85°C/185°F]

## Temperature Tolerance [3°C]

CPU温度許容誤差の値を設定します。

構成オプション: [0°C] [1°C] [2°C] [3°C] [4°C] [5°C] [6°C] [7°C]

## Minimum FAN Duty Cycle [11/16]

最小のファンデューティサイクルを設定します。

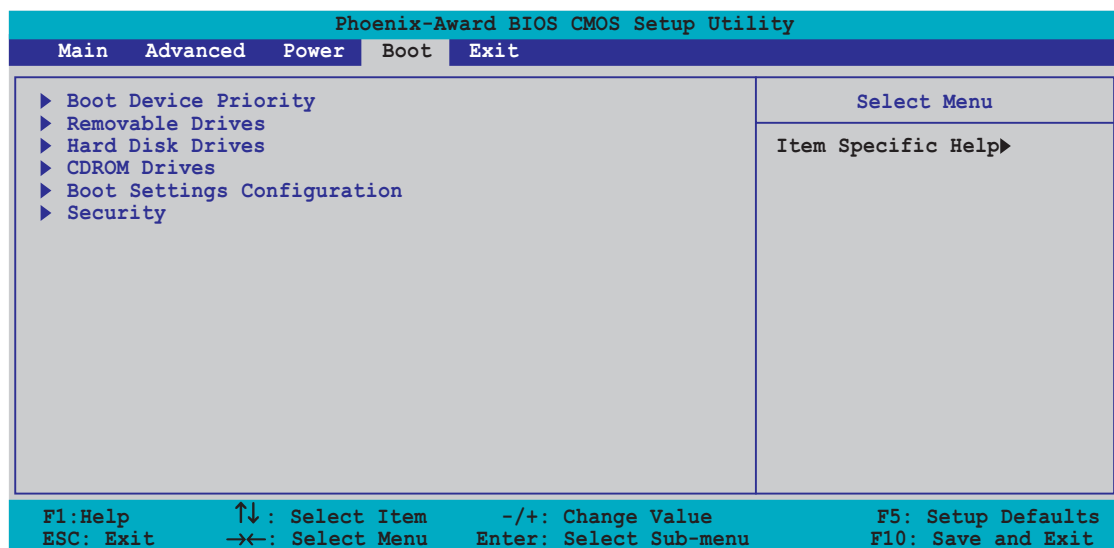
構成オプション: [11/16] [12/16] [13/16] [14/16] [15/16]

## FAN Step Time [0.1 sec]

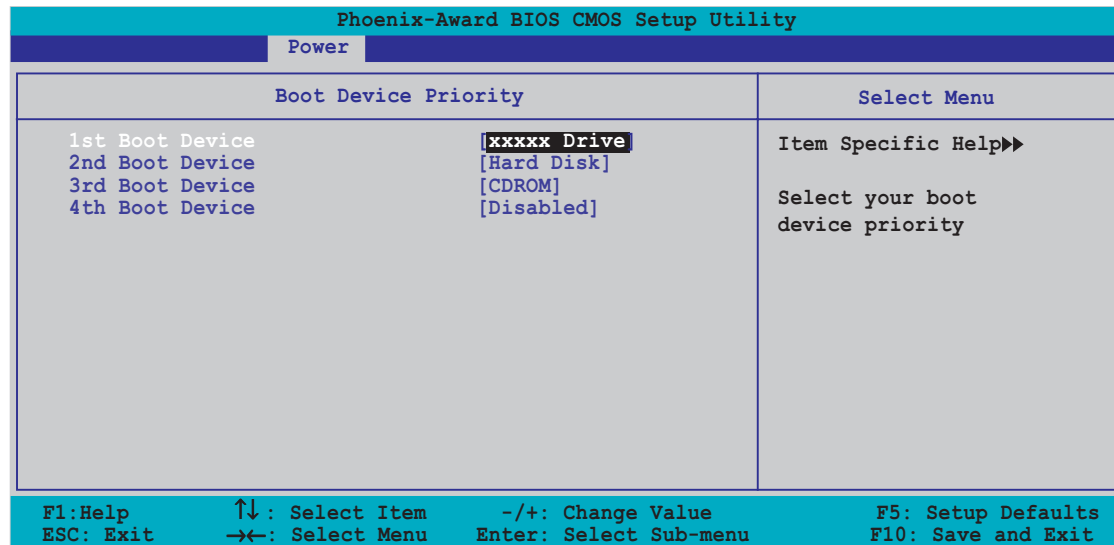
ファン速度の時間間隔を選択します。構成オプション: [0.1 sec] [0.2 sec] [0.3 sec] [0.4 sec] [0.5 sec] [0.6 sec] [0.7 sec] [0.8 sec] [0.9 sec] [1.0 sec] [1.1 sec] [1.2 sec] [1.3 sec] [1.4 sec] [1.5 sec] [1.6 sec]

## 4.6 起動メニュー

起動メニューは、システム起動オプションを変更します。アイテムを選択し、<Enter> を押してサブメニューを表示します。



## 4.6.1 起動デバイスの優先順位

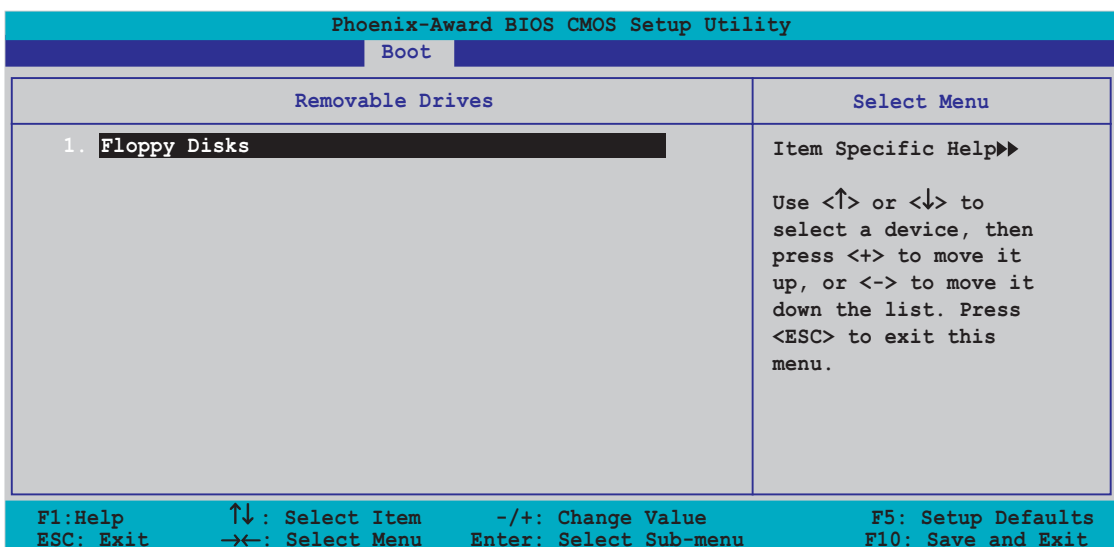


### 1st ~ xxth Boot Device [xxxxx Drive]

これらのアイテムは、使用できるデバイスから起動デバイスの優先順位を指定します。スクリーンに表示されるデバイスアイテムの数は、システムに取り付けたデバイスの数に依存します。

構成オプション: [xxxxx Drive] [Disabled]

## 4.6.2 リムーバブルドライブ

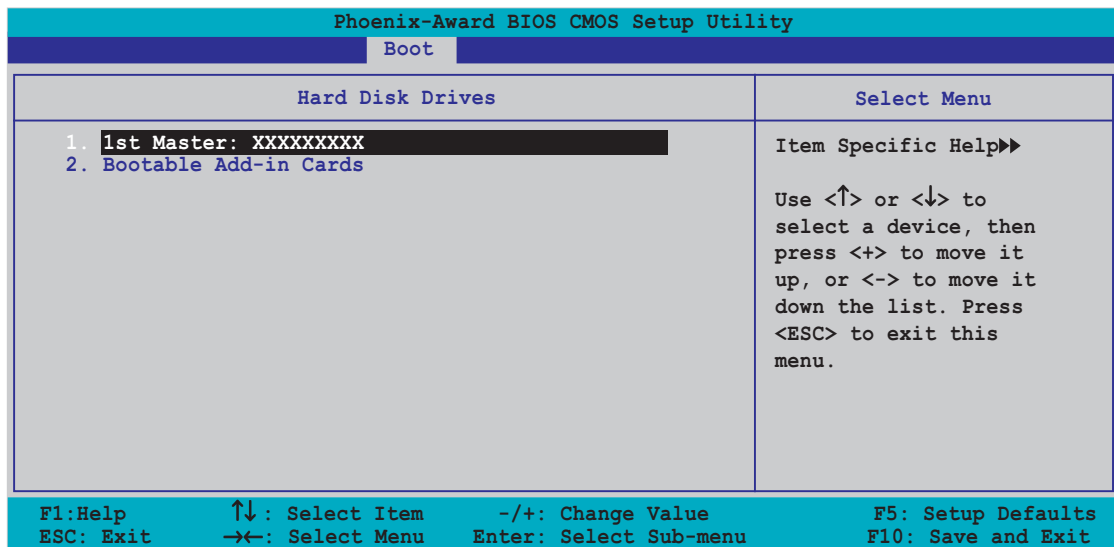


### 1. Floppy Disks

システムに取り付けられたリムーバブルドライブを割り当てます。



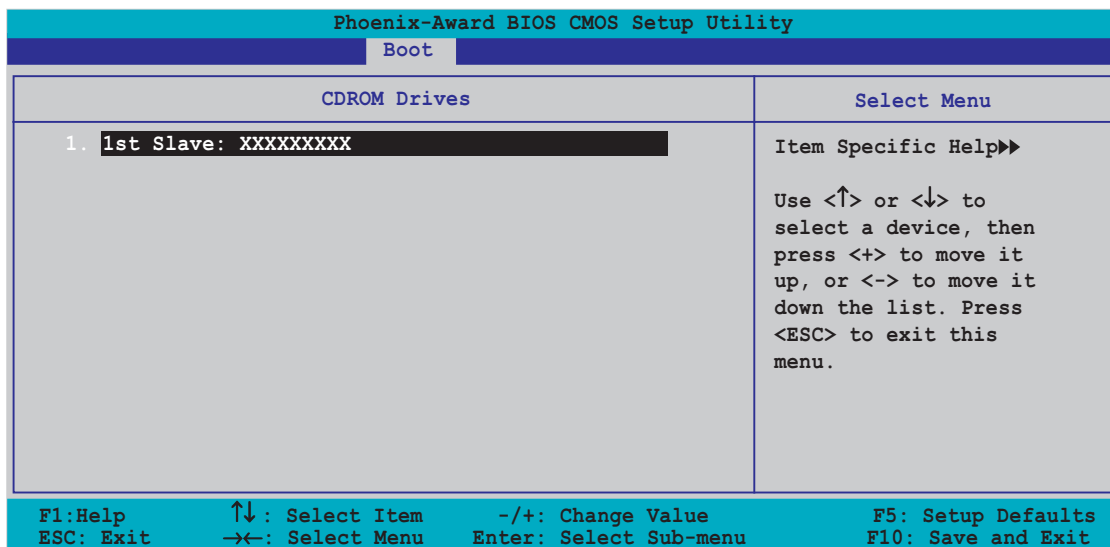
### 4.6.3 ハードディスクドライブ



#### 1. 1st Master: XXXXXXXXXX

システムに取り付けられたハードディスクドライブを割り当てます。

### 4.6.4 CDROM ドライブ



#### 1. 1st Slave: XXXXXXXXXX

システムに取り付けられた光学ドライブを割り当てます。

## 4.6.5 起動設定構成

Phoenix-Award BIOS CMOS Setup Utility			
Boot			
Boot Settings Configuration	Select Menu		
Case Open Warning	[Enabled]	Item Specific Help▶▶  Press [Enter] to enable or disable.	
Quick Boot	[Enabled]		
Boot Up Floppy Seek	[Enabled]		
Bootup Num-Lock	[On]		
Typematic Rate Setting	[Disabled]		
x Typematic Rate (Chars/Sec)	6		
x Typematic Delay (Msec)	250		
OS Select For DRAM > 64MB	[Non-OS2]		
Full Screen LOGO	[Enabled]		
Halt On	[All, But Keyboard]		
F1:Help	↑↓: Select Item	-/+ : Change Value	F5: Setup Defaults
ESC: Exit	→←: Select Menu	Enter: Select Sub-menu	F10: Save and Exit

### Case Open Warning [Enabled]

シャーシオープンステータス機能の有効/無効を切り替えます。有効に設定すると、シャーシのケースオープンステータスをクリアします。

構成オプション: [Disabled] [Enabled]

### Quick Boot [Enabled]

システムのクイックブート機能の有効/無効を切り替えます。有効に設定すると、起動中システムは特定のテストをスキップします。

構成オプション: [Disabled] [Enabled]

### Boot Up Floppy Seek [Enabled]

シャーシオープンステータス機能の有効/無効を切り替えます。有効に設定すると、シャーシオープンステータスをクリアします。

構成オプション: [Disabled] [Enabled]

### Bootup Num-Lock [On]

NumLock の電源オン状態を選択します。

構成オプション: [Off] [On]

### Typematic Rate Setting [Disabled]

キーストローク速度を設定します。この項目を有効にすると、タイプマチック速度(文字/秒)とタイプマチック遅延(ミリセカンド)を構成します。

構成オプション: [Disabled] [Enabled]



項目タイプマチック速度(文字/秒)とタイプマチック遅延(ミリセカンド)は、項目タイプマチック速度設定が有効になっているときのみユーザー構成できます。

### Typematic Rate (Chars/Sec) [6]

キーを押し続けたとき、文字をリピートする速度を選択します。  
構成オプション: [6] [8] [10] [12] [15] [20] [24] [30]

### Typematic Delay (Msec) [250]

キーストロークがリピートを開始するまでの時間を設定します。  
構成オプション: [250] [500] [750] [1000]

### OS Select for DRAM > 64MB [Non-OS2]

64 KB以上のRAMを取り付けたOS/2オペレーティングシステムを実行しているとき、この項目をOS2に設定します。  
構成オプション: [Non-OS2] [OS2]

### Full Screen LOGO [Enabled]

[Enabled] に設定すると起動時にマザーボード固有の画像を表示します。  
構成オプション: [Disabled] [Enabled]です。



---

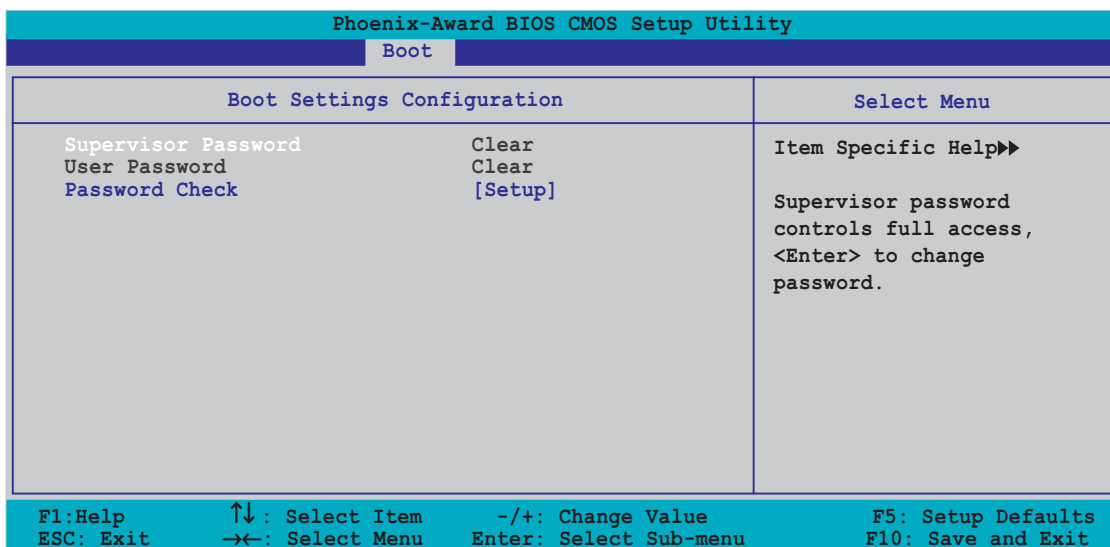
ASUS MyLogo2™ をお使いになる場合は、[Enabled] に設定してください。

---

### Halt On [All, But Keyboard]

エラーレポートをタイプします。構成オプション: [All Errors] [No Errors] [All, But Keyboard][All, But Diskette] [All, But Disk/Key]

## 4.6.6 セキュリティ



### Supervisor Password User Password

これらのフィールドは、パスワードを設定します。

パスワードを設定するには、次の手順に従います。

1. 項目を選択し、<Enter>を押します。
2. 8文字以内の英数字の組み合わせを使用してパスワードを入力し、<Enter>を押します。
3. 求められたら、正確な文字を再び入力してパスワードを確認し、<Enter>を押します。パスワードフィールド設定が設定に変わります。

パスワードをクリアするには、次の手順に従います。

1. パスワードフィールドを選択し、<Enter>を2度押します。次のメッセージが表示されます。



2. 任意のキーを押して続行します。パスワードフィールド設定はクリアに変わります。

## パスワードに関する注

管理者パスワードは、不正アクセスを防ぐ設定をされたBIOS設定プログラムに入るとき、要求されます。ユーザーパスワードは、不正使用を防ぐようにせられていた、システムを起動するときに要求されます。

## パスワードの照合

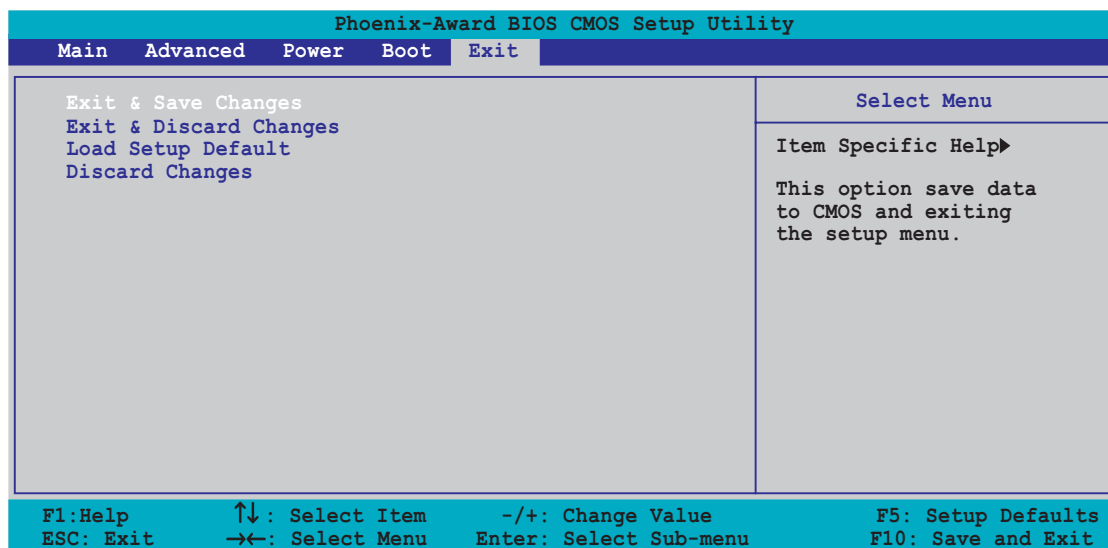
パスワードを忘れた場合、CMOSリアルタイムクロック(RTC) RAMを消去してそれをクリアすることができます。パスワード情報を含むRAMデータは、オンボードのボタンセルバッテリーで電力を供給されます。CMOS RAMを消去する必要がある場合、セクション「2.6 ジャンパ」を参照して消去する方法を探してください。

## Password Check

このフィールドは、BIOS設定またはシステムに入る前に、パスワードの入力を求めます。[Setup]を選択すると、BIOS設定に入る前に、パスワードが要求されます。[System]を選択すると、システムに入る前に、パスワードが要求されます。  
構成オプション: [Setup] [System]

## 4.7 終了メニュー

終了メニューは BIOS 設定の項目の変更の保存、破棄や最適値、もしくは安全設定のデフォルト値を読み込みを行います。



<Esc> を押してもこのメニューは直ちに終了しません。このメニューからどれか1つのオプションを、または凡例バーから <F10> を選択して終了します。

### Exit & Save Changes

変更を終了したら、終了メニューからこのオプションを選択し、選択した値が CMOS RAM に保存されていることを確認します。オンボードバックアップバッテリーは CMOS RAM を維持するため、コンピュータの電源がオフになっているときでも消えません。このオプションを選択すると、確認ウィンドウが表示されます。はいを選択すると、変更を保存して終了します。



変更を保存せずに設定プログラムを終了しようとする時、プログラムは終了する前に変更を保存しますかと尋ねるメッセージを表示します。終了処理中に <Enter> を押して変更を保存します。

### Exit & Discard Changes

このオプションは、設定プログラムに対して行った変更を保存したくないときのみ、選択してください。システムの日付、システム時間、パスワード以外のフィールドを変更した場合、セットアッププログラムは終了する前に確認を求めます。

## Load Setup Defaults

設定メニューのそれぞれのパラメータに対して、デフォルト値をロードします。このオプションを選択、または<F5>を押すと、確認ウィンドウが表示されます。はいを選択するとデフォルト値をロードします。変更を保存して終了を選択すると、不揮発性RAMに値を保存する前に他の変更を行います。

## Discard Changes

行った変更を破棄し、以前保存した値を復元します。このオプションを選択した後、確認が表示されます。はいを選択すると変更を破棄し、以前保存した値をロードします。

A series of 20 horizontal lines, evenly spaced, occupying the main body of the page. These lines are intended for taking notes or recording information during a BIOS setup or troubleshooting session.



本章では、マザーボードパッケージに付属するサポートCDの内容を説明いたします。

# 5 ソフトウェアの サポート

## 章のまとめ

5.1	オペレーティングシステムをインストールする .....	5-1
5.2	サポートCD 情報 .....	5-1
5.3	ソフトウェア情報 .....	5-9
5.4	RAID 構成 .....	5-18
5.5	RAIDドライバディスクの作成 .....	5-26
5.6	Cool 'n' Quiet!™テクノロジー .....	5-27

## 5.1 オペレーティングシステムをインストールする

このマザーボードはWindows® 2000/2003 Server/XP オペレーティングシステム(OS)をサポートします。常に最新のOSバージョンと対応する更新をインストールし、ハードウェアの機能を最大限に使用してください。



- マザーボード設定とハードウェアオプションは異なります。本章で説明したセットアップ手順は、参照の目的でのみ使用してください。詳細については、OSのマニュアルを参照してください。
- ドライバをインストールする前に、高い互換性とシステム安定性が得られるように、Windows® 2000 Service Pack 4 またはWindows® XP Service Pack 1 以降をインストールしていることを確認してください。

## 5.2 サポートCD情報

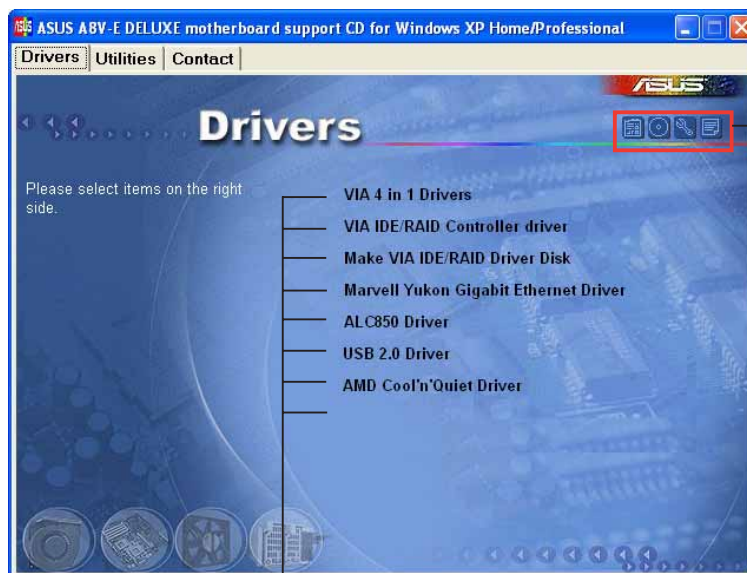
マザーボードパッケージに付属するサポートCDには、すべてのマザーボードを利用するためにインストールできるドライバ、ソフトウェアアプリケーション、ユーティリティが含まれています。



サポートCDの内容は、将来予告なしに変更することがあります。更新版はASUS webサイト ([www.asus.com](http://www.asus.com))でお求めください。

### 5.2.1 サポートCDを実行する

サポートCDを光学ドライブに入れます。コンピュータでAutorunが有効になっていれば、CDはドライバメニューを自動的に表示します。



アイコンをクリックすると、サポートCD/マザーボード情報が表示されます。

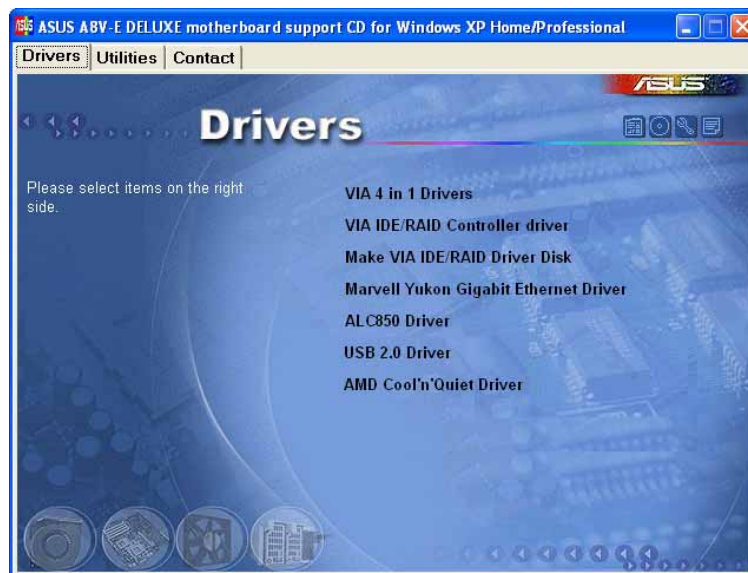
アイテムをクリックするとインストールします。



Autorun がコンピュータで有効になっていなければ、サポートCDの内容を検索しBINフォルダからASSETUP.EXEファイルを探してください。CDでASSETUP.EXEをダブルクリックします。

## 5.2.2 ドライバメニュー

システムが取り付けしたデバイスを検出すると、ドライバメニューは使用可能なデバイスドライバを表示します。必要なドライバをインストールしてデバイスをアクティブにしてください。



### VIA 4 in 1 drivers

以下のドライバをインストールします。

- VIA Registry (INF) ドライバ
- VIA ATAPI ベンダーサポートドライバ
- VIA PCI IRQ Miniport ドライバ

### VIA IDE RAID Controller driver

VIA 6420 RAID コントローラとアプリケーションをインストールします。

### Make VIA 6420 Driver Disk

VIA 6420 RAID 構成のために、RAID ドライバディスクを作成します。

### PCI Marvell Yukon Gigabit Ethernet Driver

Marvell® Yukon 88E8053 PCI Express™ Gigabit LANドライバをインストールして、最高の 1000 Mbps データ転送速度を提供します。

### ALC850 Audio Driver

Realtek® ALC850 オーディオコントローラとアプリケーションをインストールします。

## USB 2.0 Driver

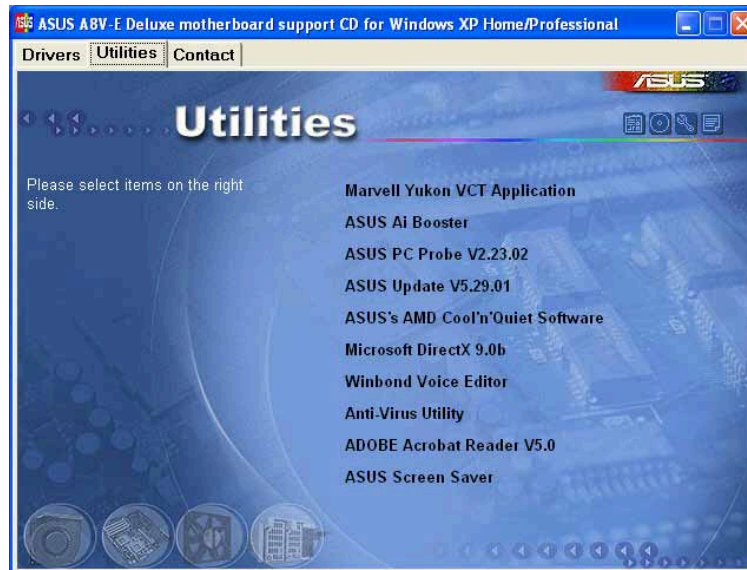
USB 2.0ドライバをインストールします。

## AMD Cool 'n' Quiet Driver

「AMD Cool 'n' Quiet!™」テクノロジドライバインストールウィザードを起動します。

## 5.2.3 ユーティリティメニュー

ユーティリティメニューは、マザーボードがサポートするソフトウェアアプリケーションとユーティリティを表示します。



### Marvell Yukon VCT Application

仮想ケーブルテスター (VCT)はケーブル診断アプリケーションで、LANケーブルの障害とショートを分析し報告します。詳細は、5-11 ページをご覧ください。

### AI Booster

ASUS AIブースターアプリケーションは、Windows®環境でCPU速度をオーバークロックします。

### ASUS PC Probe

このスマートなユーティリティはファン速度、CPU温度、システム電圧を監視し、すべての検出された問題を警告します。このユーティリティを使えば、コンピュータは正常な状態で作動できます。

### ASUS Update

最新バージョンのBIOSをwebサイトから自動でダウンロードするユーティリティです。



ASUS Update を使用するには、あらかじめインターネットに接続しておく必要があります。

## Microsoft DirectX

Microsoft® DirectX 9.0b ドライバをインストールします。Microsoft DirectX® 9.0bはマルチメディアテクノロジーで、コンピュータグラフィックスとサウンドの向上を図っています。DirectX® はコンピュータのマルチメディア機能を強化するため、コンピュータでテレビや映画を見たり、ビデオをキャプチャしたり、ゲームを再生することができます。更新については、Microsoft のウェブサイト ([www.microsoft.com](http://www.microsoft.com)) をアクセスしてください。

## Winbond Voice Editor

ASUS POST Reporter™ 用の WAVEファイルを記録・編集するユーティリティです。POST音声メッセージを編集する場合に使用します。詳細については、「3.3 ボーカルPOSTメッセージ」をご覧ください。

## Anti-virus Utility

アンチウイルスアプリケーションは、データを破壊するウイルスを検出しコンピュータを保護します。

## ADOBE Acrobat Reader

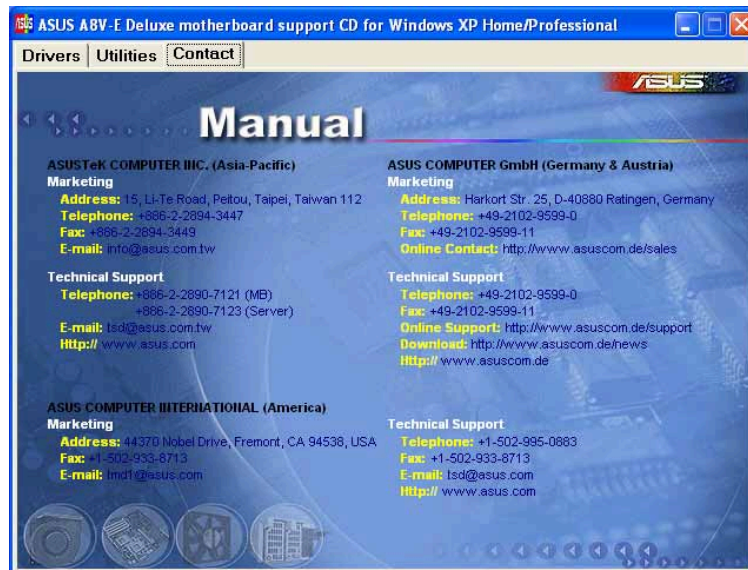
Adobe® Acrobat® Reader V5.0 は Portable Document Format (PDF)で文書を開いたり、表示したり、印刷するためのアプリケーションです。

## ASUS Screen Saver

ASUS スクリーンセーバーをインストールすることによって、休止しているスクリーンを再びアクティブにします。

## 5.2.4 ASUS 連絡先情報

連絡先タブをクリックすると、ASUS連絡先情報が表示されます。ユーザーガイドの裏表紙にもこの情報は表示されています。

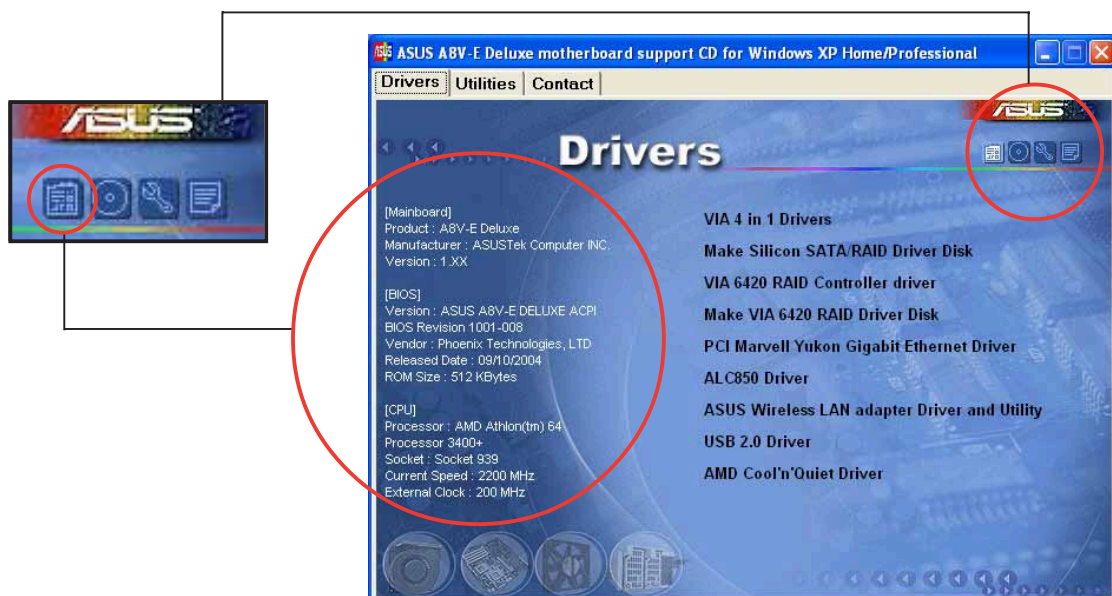


## 5.2.5 その他の情報

スクリーンの右上のアイコンは、マザーボードの追加情報とサポートCDの内容を提供します。アイコンをクリックすると、指定された情報を表示します。

### マザーボード情報

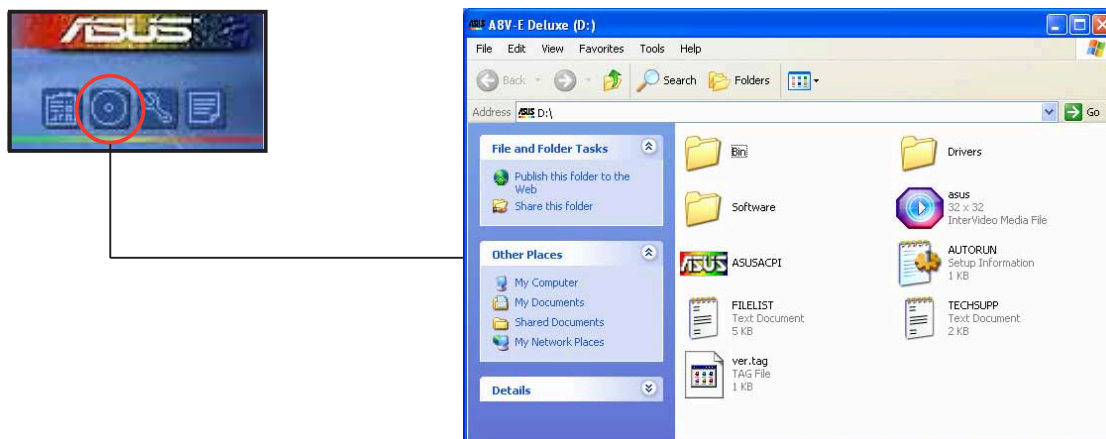
マザーボードの全般仕様を表示します。





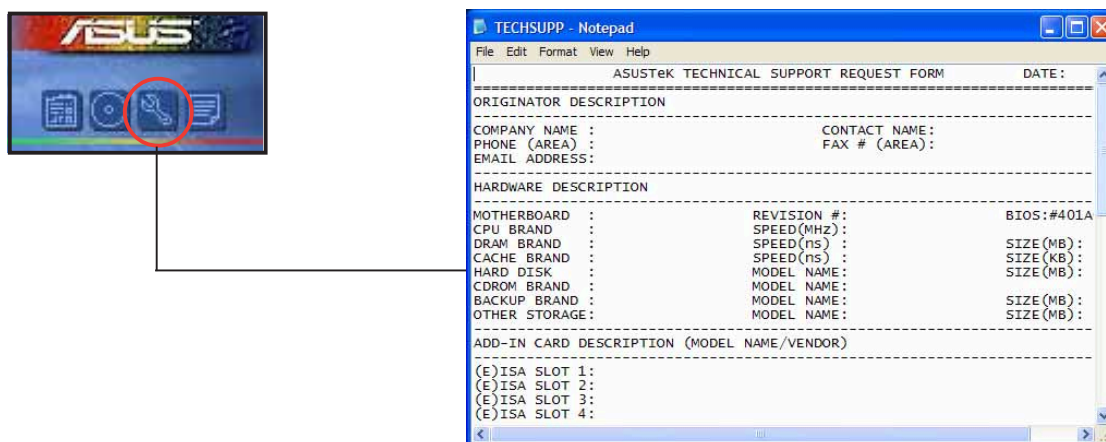
## このCDの検索

グラフィカル形式でサポートCDの内容を表示します。



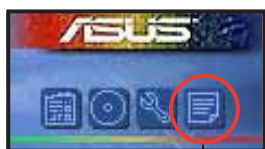
## 技術サポートフォーム

技術サポートを要求するときに、記入する必要がある技術サポート要求フォームを表示します。



## ファイルリスト

サポートCDの内容を、簡単な説明のテキスト形式で表示します。



```
FILELIST - Notepad
File Edit Format View Help
File list for the included support software for ASB-E Deluxe motherboard
-----
File Name      Description
-----
--Drivers
-AMD
-Cool'n'Quiet  -ASUS cool&quiet driver v1.0.1.7 for windows 98/ME/2000.
                -ASUS cool&quiet driver v1.1.0.14 for windows XP.
-Audio
-ALC850        -ALC850 Avance AC'97 driver and Applications A3.63 WHQL.C98/ME/2000/XP/
-LAN
-8053
-Windows      -Marvell Yukon Gigabit Ethernet v7.14.1.3 for windows 2000/XP/2003. (Wh
-VCT          -Marvell VCT package v2.0.1.3 for 2000/XP/2003.
-Linux        -Marvell Linux driver v7.04.
-UNDI         -Marvell UNDI driver for EFI32 v2.02.
-Client_32    -Marvell Yukon client 32 driver v7.03.
-ODI          -Marvell OOS ODI driver v7.04.
-Netware      -Marvell Yukon Netware 4.0 driver v7.03.
                -Marvell Yukon Netware 5.1/6 driver v7.03.
-Unix         -Marvell SCO Unixware 7.1.x driver and openunix 8.0.
```

## 5.3 ソフトウェア情報

サポートCDのほとんどのアプリケーションは、インストールを案内する便利なウィザードを組み込んでいます。詳細については、オンラインヘルプまたはソフトウェアアプリケーションのリードミーファイルをご覧ください。

### 5.3.1 ASUS MyLogo2™

ASUS MyLogo2™ ユーティリティの起動ロゴをカスタマイズします。起動ロゴは起動時の自己診断テスト (POST) の間、スクリーンに表示される画像です。サポートCDからASUS更新ユーティリティをインストールすると、ASUS MyLogo2™ が自動的にインストールされます。詳細は、「5.2.3 ユーティリティメニュー」をご覧ください。



- ASUS MyLogo2™ を使用する前に、AWDFLASH ユーティリティを使用してオリジナルBIOSファイルのコピーを作成するか、ASUS webサイトから最新のBIOSバージョンを入手してください。「4.1.2 BIOSを更新する」をご覧ください。
- ASUS MyLogo2™ を使用する場合、BIOS アイテム Full Screen Logo が [Enabled] に設定されていることを確認してください。「4.6.5 起動設定構成」をご覧ください。
- 独自の起動ロゴ画像は、GIF、JPG、BMPファイル形式で作成できます。

ASUS MyLogo2™ を起動するには、次の手順に従います:

- ASUS Updateユーティリティを起動します。詳細については、「4.1.5 ASUS Updateユーティリティ」を参照してください。
- ドロップダウンメニューからオプションを選択し、次へをクリックします。
- BIOSをフラッシュする前にMyLogoを起動してシステムブートに置き換えるオプションにチェックマークを入れ、次へをクリックします。
- ドロップダウンメニューからファイルからBIOSの更新を選択し、次へをクリックします。
- 求められたら、新しいBIOSファイルを検索し、次へをクリックします。ASUS MyLogo 2ウィンドウが表示されます。
- 左ウィンドウ枠から、起動ロゴとして使用する画像を含むフォルダを選択します。



7. ログ画像が右ウィンドウ枠に表示されたら、画像を選択してクリックし、拡大します。



8. 比率ボックスの値を選択することによって、起動画像を希望するサイズに調整します。



9. スクリーンがASUS更新ユーティリティに戻ったら、オリジナルのBIOSをフラッシュして新しい起動ロゴをロードします。
10. BIOSをフラッシュした後、コンピュータを再起動すると、POST中に新しい起動ロゴが表示されます。

## 5.3.2 AI NET 2

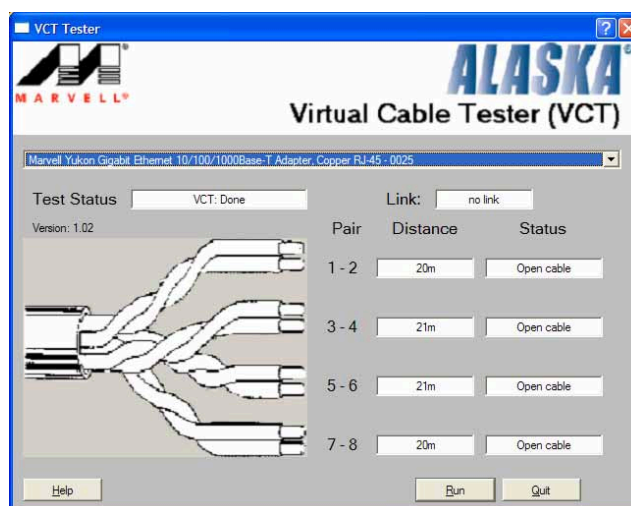
AI NET 2はMarvell® Virtual Cable Tester™ (VCT)を特徴としています。VCTはケーブル診断ユーティリティで、タイムドメインリフレクトメトリ(TDR)テクノロジーを使用して、LANケーブル障害とショートを報告します。VCTはむき出しになりショートしたケーブル、インピーダンス不一致、ペア交換、ペア極性問題、ペアスキュー問題を1メートルの精度で最大100メートルまで検出し報告します。

VCT機能は、きわめて管理が簡単で制御されたネットワークシステムを通して、ネットワークとサポートコストを抑えています。このユーティリティはネットワークシステムソフトウェアに組み込まれ、開発診断だけでなく理想的なフィールドサポートも実現しています。

### Virtual Cable Tester™ を使用する

Marvell® Virtual Cable Tester™ ユーティリティを使用するには、次の手順に従います。

1. スタート > すべてのプログラム > Marvell > Virtual Cable Testerをクリックして、Windows® デスクトップからVCTユーティリティを起動します。
2. メニューからVirtual Cable Testerをクリックして、以下のスクリーンを表示します。



3. ファイル名を指定して実行をクリックし、ケーブルテストを実施します。



- VCTは、Windows® XP or Windows® 2000オペレーティングシステムでのみ実行します。
- Virtual Cable Tester™ メインウィンドウのファイル名を指定して実行ボタンは、LANポートに接続されたLANケーブル上に何の問題も検出されなければ、無効になります。
- OSに入る前に、システムでLAN ケーブルをチェックしたい場合、セットアップでLAN ケーブルのPostチェックアイテムを有効にします。詳細は、「4.4.7 LAN ケーブルステータス」をご覧ください。

### 5.3.3 オーディオの構成

Realtek® ALC850 AC '97 オーディオ CODEC は 8 チャンネルオーディオ機能を提供して、PC 上で究極のオーディオ体験を実現します。ソフトウェアは Jack-Sensing 機能 (ラインイン、ラインアウト、マイクイン)、S/PDIF アウトサポート、割り込み機能を提供します。ALC850は3ポート(ラインイン、ラインアウト、マイクイン)用の Realtek® proprietary UAJ® (ユニバーサルオーディオジャック) テクノロジを組み込んで、ケーブル接続エラーを排除し、プラグアンドプレイ機能を提供します。

インストールウィザードに従い、マザーボードパッケージに付属する CD から Realtek ALC850 オーディオドライバとアプリケーションをインストールしてください。

Realtek オーディオソフトウェアが正しくインストールされていると、タスクバーに SoundEffect (サウンドエフェクト) アイコンが表示されます。

タスクバーから、SoundEffect (サウンドエフェクト) アイコンをダブルクリックして、Realtek Audio Control Panel:Realtek オーディオコントロールパネルを表示します。



Realtek SoundEffect アイコン



ジャックセンスとUAJ® テクノロジ機能は、ラインイン、ラインアウト、マイクジャックでのみサポートされます。

#### サウンドエフェクトオプション

Realtek® ALC850 Audio CODEC では、リスニング環境を設定し、イコライザを調整し、カラオケを設定し、事前プログラムされたイコライザ設定を選択して、リスニングの喜びを提供します。



サウンドエフェクトオプションを設定するには、次の手順に従います:

1. Realtek Audio Control Panel (Realtek オーディオコントロールパネル) から、Sound Effect (サウンド効果) ボタンをクリックします。
2. ショートカットボタンをクリックしてアコースティック環境を変更し、イコライザを調整し、カラオケを希望する設定にセットします。
3. ボタンをクリックすると、オーディオ設定が直ちに有効になります。
4. 画面の右上のボタン Exit:終了 (X) をクリックして、終了します。

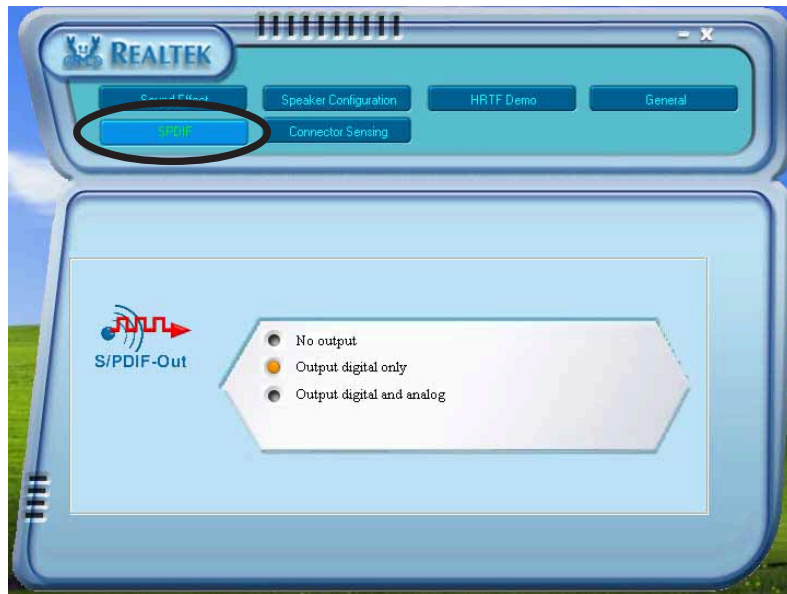


## S/PDIFオプション

Sony/Philips Digital Interface:Sony/Philips デジタルインターフェイス (S/PDIF) オプションは、S/PDIF 出力設定を変更します。

S/PDIFオプションを設定するには、次の手順に従います:

1. Realtek Audio Control Panel (Realtek オーディオコントロールパネル) から、SPDIF ボタンをクリックします。
2. オプションボタンをクリックして、S/PDIF アウト設定を変更します。
3. 画面の右上の Exit:終了(X)ボタンをクリックして、終了します。

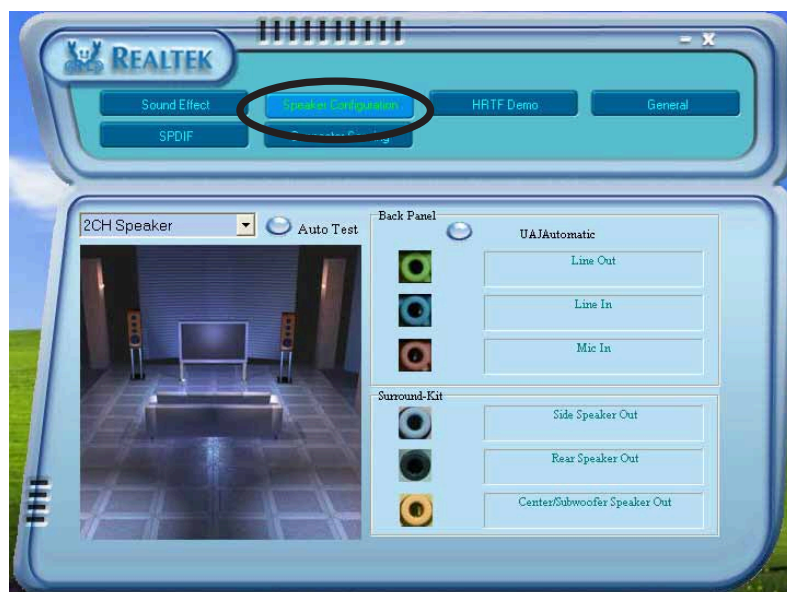


## スピーカー構成

このオプションは、スピーカー構成を設定します。

スピーカー構成を設定するには、次の手順に従います:

1. Realtek Audio Control Panel(Realtek オーディオコントロールパネル) から、Speaker Configuration (スピーカー構成) ボタンをクリックします。
2. コンボリストボックスから現在のスピーカーセットアップを選択し、Auto Test (自動テスト) をクリックして設定をテストします。
3. UAJ Automatic (UAJ 自動) ボタンをクリックして、ユニバーサルオーディオジャック(UAJ®)テクノロジー機能の有効/無効を切り替えます。
4. 画面の右上のExit:終了(X)ボタンをクリックして、終了します。





## AIオーディオ機能

AIオーディオ機能は、コネクタ検出オプションを通して作動し、オーディオデバイスが正しく接続されているかをチェックします。

コネクタの検出を開始するには、次の手順に従います:

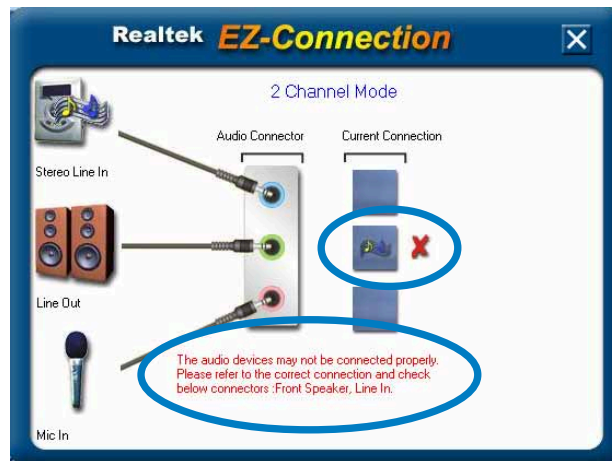
1. Realtek Audio Control Panel (Realtek オーディオコントロールパネル)から、Connector Sensing(コネクタ検出)ボタンをクリックします。
2. Bracket (ブラケット)ボタンをクリックして、接続されたオーディオデバイスを表示します。
3. Option (オプション)ボタンをクリックして、検出オプションを変更します。
4. Start (スタート)ボタンをクリックして、接続の検出を開始します。進捗バーが、現在のコネクタ検出ステータスを表示します。



この機能を開始する前に、すべてのオーディオアプリケーションが終了していることを確認してください。



5. 終了したら、ユーティリティが Realtek<sup>®</sup> EZ接続ダイアログボックスに、現在のオーディオ接続が表示されます。ボックス下部のテキストは、オーディオ接続ステータスを説明しています。X mark (X マーク) は接続が正しくないことを示しています。



6. 問題が検出された場合、オーディオケーブルが適切なオーディオジャックに接続されていることを確認して、コネクタ検出を繰り返してください。
7. X ボタンをクリックして、EZ 接続ダイアログボックスを終了します。
8. 画面の右上の Exit:終了(X)ボタンをクリックして、オーディオコントロールパネルを終了します。

### HRTF Demo (HRTFデモ)

このオプションは、Head-Related Transfer Functions:ヘッド関連転送機能 (HRTF)のデモを表示します。

HRTF demo(HRTFデモ)を開始するには、次の手順に従います:

1. Realtek Audio Control Panel (Realtek オーディオコントロールパネル)から、HRTF Demo (HRTF デモ)ボタンをクリックします。
2. オプションボタンをクリックしてサウンドを変更し、パスまたはEAX 設定を移動します。
3. Play (再生)ボタンをクリックして開始するか、Stop (停止)ボタンをクリックして停止します。
4. 画面の右上の Exit:終了(X)ボタンをクリックして、終了します。

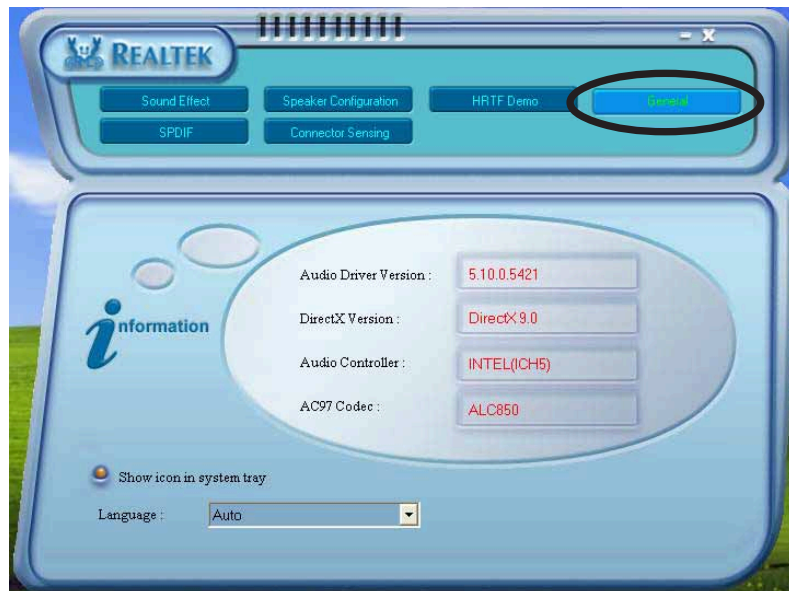


## 全般設定

このオプションはオーディオ設定を表示し、言語設定を変更したり、Windowsタスクバーで SoundEffect アイコンディスプレイを切り替えます。

全般設定を表示するには、次の手順に従います:

1. Realtek Audio Control Panel (Realtek オーディオコントロールパネル)から、General (全般)ボタンをクリックします。
2. オプションボタンをクリックして、Windows タスクバーアイコンディスプレイの有効/無効を切り替えます。
3. Language (言語)コンボリストボックスをクリックして、言語ディスプレイを変更します。
4. 画面の右上のExit:終了(X)ボタンをクリックして、終了します。



## 背面パネルオーディオポート機能のバリエーション

背面パネルのラインアウト(ライム)、ラインイン(青)、マイク(ピンク)、背面スピーカーアウト(黒)、側面スピーカーアウト(グレー)ポート、中央/サブウーファ(イエローオレンジ)は、4チャンネル、6チャンネル、8チャンネルオーディオ構成を選択するときに変更されます。2、4、6、8チャンネル構成については、2-21 ページのオーディオ構成表を参照してください。

## 5.4 RAID構成

マザーボードにはVIA VT8237R Southbridge RAID コントローラが付属しており、IDEおよびシリアルATAハードディスクドライブをRAIDセットとして構成します。マザーボードは次のRAID構成をサポートします。

RAID 0 (データストライピング)は、2台の同じハードディスクドライブを最適化し、パラレルの、インタリーブスタックにデータの読み込み/書き取りを行います。2台のハードディスクはシングルドライブと同じ機能を果たしますが、データ転送速度は維持し、シングルディスクのみの場合の2倍の速度を実現し、それによってデータアクセスと保管の向上を図っています。新しい2台のハードディスクドライブを使用するには、このセットアップが必要です。

RAID 1 (データミラリング)は、1つのドライブから2番目のドライブにデータの同じイメージをコピーして維持します。1台のドライブが障害を起こしても、ディスクアレイ管理ソフトウェアがすべてのアプリケーションを正常なドライブに移すことによって、他のドライブにデータの完全なコピーが保たれます。このRAID構成はデータ保護を提供して、システム全体の耐故障性を高めています。このセットアップには、2台の新しいドライブまたは1台の既存のドライブと1台の新しいドライブを使用します。新しいドライブは既存のドライブと同じサイズか大きい必要があります。



RAID セットに含まれるハードディスクドライブからシステムを起動したい場合、オペレーティングシステムを選択したハードディスクドライブにインストールする前に、まずサポート CD の RAID ドライバをフロッピーディスクにコピーしてください。詳細は、「5.5 RAID ドライバディスクの作成」を参照してください。

### 5.4.1 ハードディスクを取り付ける

マザーボードはシリアル ATA ハードディスクドライブをサポートします。最適の性能を得るには、ディスクアレイを作成しているとき、同じモデルと容量の同じドライブを取り付けます。

#### シリアル ATA (SATA)ハードディスクを取り付ける

RAID 構成用に SATA ハードディスクを取り付けるには、次の手順に従います。

1. SATA ハードディスクをドライブベイに取り付けます。
2. SATA 信号ケーブルを接続します。
3. SATA 電源ケーブルを各ドライブの電源コネクタに接続します。

## 5.4.2 VIA RAID 構成

マザーボードには、VIA VT8237R サウスボードチップセットに統合された高性能IDE RAIDコントローラが組み込まれています。2つの独立したシリアルATAチャンネルで、RAID 0 と RAID 1をサポートします。

### VIA® Tech RAID BIOS ユーティリティに入る

1. コンピュータを起動します。
2. POSTの間、<Tab>を押してVIA RAID構成ユーティリティに入ります。次のメニューオプションが表示されます。



表示されるセットアップ画面のRAID BIOS 情報は参照のためのものです。画面の表示はこれと異なっていることもあります。

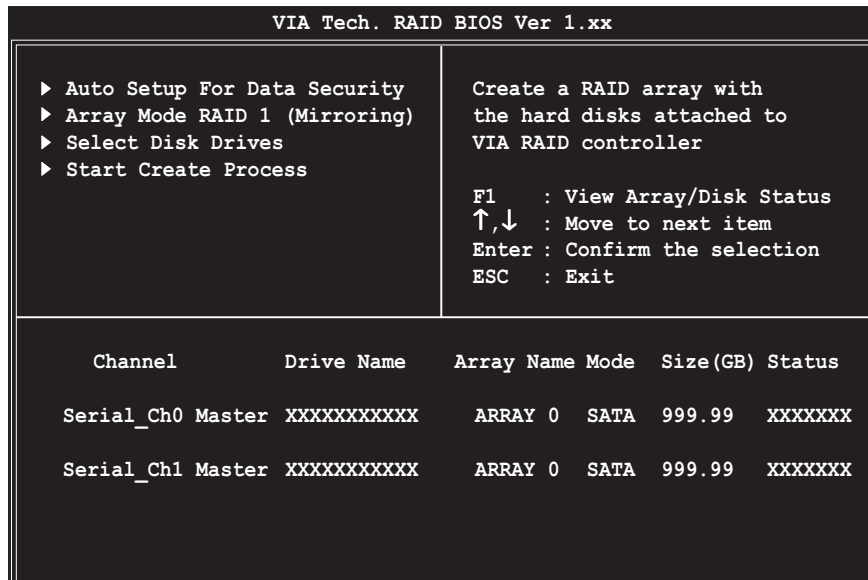
VIA Tech. RAID BIOS Ver 1.xx					
▶ Create Array ▶ Delete Array ▶ Create/Delete Spare ▶ Select Boot Array ▶ Serial Number View			Create a RAID array with the hard disks attached to VIA RAID controller  F1 : View Array/Disk Status ↑,↓ : Move to next item Enter : Confirm the selection ESC : Exit		
Channel	Drive Name	Array Name	Mode	Size(GB)	Status
Serial_Ch0	Master XXXXXXXXXXXX	ARRAY 0	SATA	999.99	XXXXXXX
Serial_Ch1	Master XXXXXXXXXXXX	ARRAY 0	SATA	999.99	XXXXXXX

画面の右上には、メッセージと凡例ボックスがあります。凡例ボックスのキーによって、セットアップメニューオプションを移動することができます。メッセージは各メニューアイテムの機能を説明しています。次は、判例ボックスに表示されるキーとそれぞれに対応する機能の一覧です。

<F1>	:	アレイ/ディスクステータスの表示
↑, ↓	:	次のアイテムに移動
<Enter>	:	選択の確認
<ESC>	:	終了

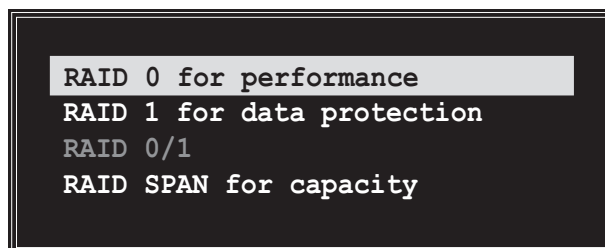
## アレイの作成

1. VIA RAID BIOユーティリティメインメニューで、アレイの作成を選択し、<Enter>キーを押します。画面の左上隅にあるメインメニューアイテムは、アレイの作成メニューオプションに代わります。



## パフォーマンス用RAID 0

1. アレイの作成メニューから、Array Mode(アレイモード)を選択し、<Enter>を押します。サポートされるRAID構成がポップアップメニューに表示されます。



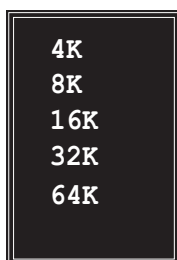
2. メインメニューから パフォーマンス用RAID 0を選択し、<Enter>を押します。

この点から、パフォーマンス用自動セットアップを選択してRAIDアレイの自動構成を選択するか、ストライプされたセットに対してRAIDアレイを手動で構成することができます。自動構成を希望する場合、次のステップに進むか、ステップ5にスキップしてください。

3. Auto Setup for Performance(パフォーマンスの自動セットアップ)を選択し、<Enter>を押します。次の構成メッセージが表示されます。

```
Auto create array will destroy all
data on disks, Continue? (Y/N)
```

4. <Y>を押して確認するか、<N>を押して構成オプションに戻ります。<Y>を選択したとき、ステップ9に進んでください。
5. ディスクドライブの選択を選択し、<Enter>を押します。矢印キーを使用してディスクドライブを選択し、<Enter>を押して選択したドライブをマークします。選択したドライブの前に、アスタリスクが置かれます。
6. ブロックサイズを選択し、<Enter>を押してアレイブロックサイズを設定します。有効なアレイブロックサイズの一覧が、ポップアップメニューに表示されます。



ヒント: サーバースステムの場合、下の方のアレイブロックサイズを使用するようにお勧めします。主にオーディオやビデオ設定で使用するマルチメディアコンピュータシステムの場合、最適の性能を発揮するためには、高い方のアレイブロックサイズをお勧めします。

矢印キーを使用してアイテムの選択バーを移動し、<Enter>を押して選択します。

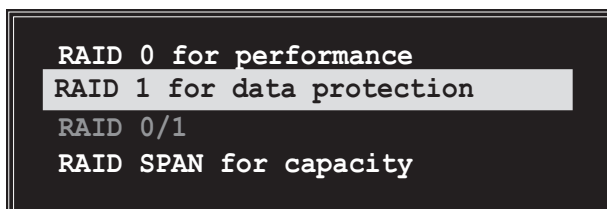
7. 作成プロセスの開始を選択し、<Enter>を押しRAIDシステム用にハードディスクをセットアップします。次の確認メッセージが表示されます。

The data on the selected disks will be destroyed. Continue? (Y/N)

8. <Y>を押して確認するか、<N>を押して構成オプションに戻ります。
9. <Esc>を押して、メインメニューに戻ります。

## データ保護用RAID 1

1. アレイの作成メニューから、Array Mode(アレイモード)を選択し、<Enter>を押します。サポートされるRAID構成がポップアップメニューに表示されます。



2. メニューからデータ保護用RAID 1を選択し、<Enter>を押します。



3. この点から、Auto Setup for Data Security (データセキュリティの自動セットアップ)を選択してRAIDを自動構成したり、ミラー化セットに対してRAIDアレイを手動で構成することができます。自動構成を希望する場合、次のステップに進むか、ステップ6にスキップしてください。
4. Auto Setup for Performance (パフォーマンスの自動セットアップ)を選択し、<Enter>を押します。次の構成メッセージが表示されます。

```
Auto create array will destroy all
data on disks, Continue? (Y/N)
```

5. <Y>を押して確認するか、<N>を押して構成オプションに戻ります。<Y>を選択したとき、ステップ11に進んでください。
6. ディスクドライブの選択を選択し、<Enter>を押します。矢印キーを使用してディスクドライブ/sを選択し、<Enter>を押します。選択したドライブの前には、アスタリスクが置かれます。
7. 作成プロセスのスタートを選択し、<Enter>を押してRAIDシステム用にハードディスクをセットアップします。次の確認メッセージが表示されず。次の照会が表示されます。

```
Save the data on source disk to
mirror after creation? (Y/N)
```

8. <Y>を選択すると、ユーティリティはデータを複製します。複製プロセスを終了したいときは、いつでも<Y>を押してください。

```
Duplicating...
Press Yes (Y) to Escape
```

9. <N>を押すと、次の確認メッセージが表示されます。

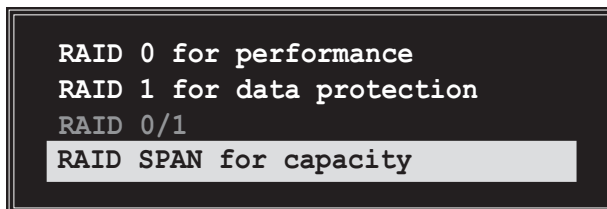
```
The data on the selected disks will
be destroyed. Continue? (Y/N)
```

10. <Y>を押して確認するか、<N>を押して構成オプションに戻ります。
11. <Esc>を押して、メインメニューに戻ります。



## 容量用 RAID SPAN

1. アレイの作成メニューから、Array Mode(アレイモード)を選択し、<Enter>を押します。サポートされるRAID構成がポップアップメニューに表示されます。



2. メニューから容量用RAID SPANを選択し、<Enter>を押します。
3. この点から、容量用の自動セットアップを選択してRAIDアレイの自動構成を選択したり、スパンされたセットに対してRAIDアレイを手動で構成することができます。RAIDアレイを手動で構成したい場合は次のステップを続行します。自動構成を希望する場合、次のステップに進むか、ステップ6に進んでください。
4. 容量用の自動セットを選択し、<Enter>を押します。次の構成メッセージが表示されます。

Auto create array will destroy all data on disks, Continue? (Y/N)

5. <Y>を押して確認するか、<N>を押して構成オプションに戻ります。<Y>を選択したとき、ステップ11に進んでください。
6. ディスクドライブの選択を選択し、<Enter>を押します。矢印キーを使用してディスクドライブ/sを選択し、<Enter>を押します。選択したドライブの前には、アスタリスクが置かれます。
7. 作成プロセスのスタートを選択し、を選択し、<Enter>を押して、RAIDシステムセットアップを起動します。次の照会が表示されます。

Save the data on Span 0 disk after creation? (Y/N)

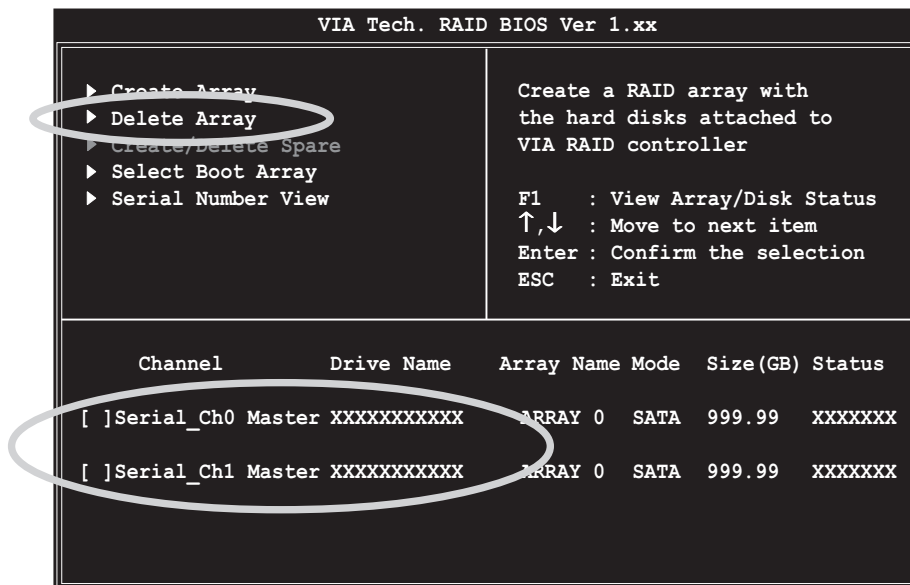
8. <Y>を選択すると、ユーティリティは Span 0 にディスクのデータを保存し、RAID セットを構成します。ステップ 11 に進んでください。
9. <N>を押すと、次の確認メッセージが表示されます。

The data on the selected disks will be destroyed. Continue? (Y/N)

10. <Y>を押して確認するか、<N>を押して構成オプションに戻ります。
11. <Esc>を押して、メインメニューに戻ります。

## アレイの削除

1. VIA RAID BIOSユーティリティメインメニューから、アレイの削除を選択し、<Enter>キーを押します。



2. IDE RAID アレイに対して使用されるチャンネルのリストから、<Enter>を押して RAID アレイを選択して削除してください。次の確認メッセージが表示されます。

```
The selected array will be destroyed.  
Are you sure? Continue? Press Y/N
```

3. <Y>を押して確認するか、<N>を押して構成オプションに戻ります。

## ブートアレイの選択

1. VIA RAID BIOSユーティリティメインメニューから、ブートアレイの選択を選択し、<Enter>キーを押します。
2. IDE RAID アレイに対して使用されているチャンネルのリストから、<Enter>を押して起動用の RAID アレイを選択します。選択後、選択されたアレイのステータスが Boot(起動)に変わります。
3. <ESC>キーを押すと、メニューアイテムに戻ります。同じ手順に従って、ブートアレイの選択を解除します。

## シリアル番号の表示

1. VIA RAID BIOSユーティリティメインメニューから、シリアル番号の表示を選択し、<Enter>キーを押します。
2. IDE RAID アレイで使用されるチャンネルのリストから、矢印キーを使用して各アイテムの上に選択バーを移動してください。選択されたデバイスのシリアル番号がスクリーン下部に表示されます。



このオプションは同じモデルのディスクを識別するために使用されます。

```
VIA Tech. RAID BIOS Ver 1.xx
```

<ul style="list-style-type: none"><li>▶ Create Array</li><li>▶ Delete Array</li><li>▶ Create/Delete Spare</li><li>▶ Select Boot Array</li><li>▶ <b>Serial Number View</b></li></ul>	<p>Create a RAID array with the hard disks attached to VIA RAID controller</p> <p>F1 : View Array/Disk Status ↑,↓ : Move to next item Enter : Confirm the selection ESC : Exit</p>
---	--

Channel	Drive Name	Array Name	Mode	Size (GB)	Status
<b>Serial_Ch0 Master</b>	XXXXXXXXXXXX	ARRAY 0	SATA	999.99	XXXXXXXX
Serial_Ch1 Master	XXXXXXXXXXXX	ARRAY 0	SATA	999.99	XXXXXXXX

**Serial Number:** XXXXXXXX

## 5.5 RAIDドライバディスクの作成

RAID セットに含まれるハードディスクドライブに Windows® 2000/XP オペレーティングシステムをインストールしているとき、RAIDドライバのあるフロッピーディスクが必要となります。

RAIDドライバディスクを作成する:

1. マザーボードサポート CD を CD-ROMドライブに入れます。
2. ドライバメニューが表示されたら、Make VIA 6420 RAID Driver Disk をクリックして、VIA RAIDドライバディスクを選択してください:  
または

サポート CD のコンテンツを閲覧して、ドライバディスクのユーティリティを見つけて、\Drivers\VIARAID\6420RAID にアクセスして、VIA RAIDドライバディスクユーティリティをインストールしてください。



---

詳細については、“5.2.2 ドライバメニュー”を参照してください。

---

3. フロッピーディスクをフロッピーディスクドライブに挿入します。
4. 続いて表示される画面の指示に従います。次の画面の指示に従って、プロセスを完了してください。
5. フロッピーディスクを書き込み保護し、コンピュータがウイルスに感染しないようにします。

RAID ドライバを使用するには、次の手順に従います:

1. OS インストールの間、システムは F6 キーを押して、サードパーティ製 SCSI または RAID ドライバをインストールするように求めます。
2. <F6> を押し、RAID ドライバを組み込んだフロッピーディスクをフロッピーディスクドライブに挿入します。
3. 続いて表示される画面の指示に従います。

## 5.6 Cool 'n' Quiet!™テクノロジー

本マザーボードはAMD Cool 'n' Quiet!™テクノロジーをサポートし、CPUが実行するタスクに応じてCPU速度、電圧、電力量をダイナミックかつ自動的に変更します。

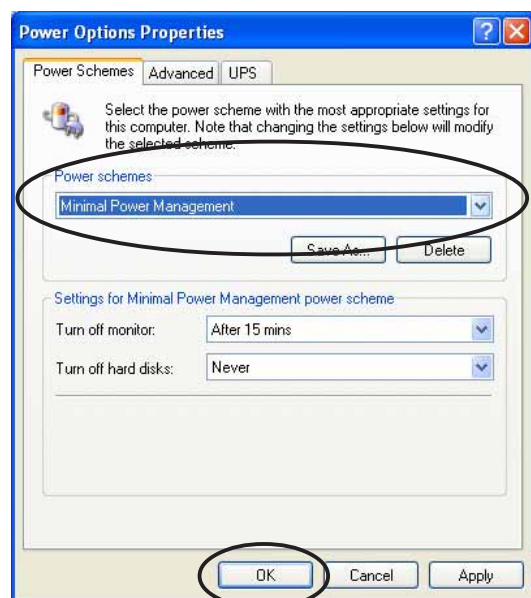
### 5.6.1 Cool 'n' Quiet!™テクノロジーを有効にする

Cool "n" Quiet!™テクノロジー:

1. システムの電源をオンにし、電源オンセルフテスト : Power On Self-Tests (POST)の間に<Del>キーを押して、BIOSに入ります。
2. Advanced (詳細) > CPU Configuration (CPU構成) > AMD CPU Cool & Quiet Configuration (AMD CPU CoolとQuiet構成) メニューで、Cool N:Quietアイテムを選択し、それをEnabled (有効) に設定します。詳細については、「4.4 詳細メニュー」をご覧ください。
3. Power (電源) メニューで、ACPI 2.0 Support (ACPI 2.0サポート) アイテムを選択しそれをYes (はい) に設定します。詳細については、「4.5 電源メニュー」をご覧ください。
4. 変更を保存し、BIOSセットアップを終了します。
5. コンピュータを再起動し、オペレーティングシステムに従ってPower Option Properties (電源オプションプロパティ) を設定します。

Windows® 2000/XP

1. Windows® 2000/XPオペレーティングシステムから、Start (スタート) ボタンをクリックします。Settings (設定)、次にControl Panel (コントロールパネル) を選択します。
2. コントロールパネルがクラシック表示に設定されていることを確認してください。
3. コントロールパネルでDisplay (画面) アイコンをダブルクリックし、Screen Saver (スクリーンセーバー) タブを選択します。
4. Power (電源) ボタンをクリックします。次のダイアログボックスが表示されます。
5. Power schemes (電源方式) コンボリストボックスから、Minimal Power Management (最適の電源管理) を選択します。
6. OKをクリックして、設定を有効にします。



この機能を使用しているとき、Cool "n" Quiet!™ドライバとアプリケーションをインストールしていることを確認してください。

## 5.6.2 Cool 'n' Quiet!™ ソフトウェアを起動する

マザーボードはCDに含まれる Cool 'n' Quiet!™ ソフトウェアをサポートして、システムのリアルタイムのCPU周波数と電圧を監視できるようにします。



マザーボードのサポートCDからCool 'n' Quiet!™ ソフトウェアをインストールしていることを確認してください。詳細は、"5.2.3 ユーティリティメニュー"を参照してください。

Cool 'n' Quiet!™ プログラムを起動するには、次の手順に従います。

1. Windows® 2000 を使用している場合、スタートボタンをクリックします。プログラム > ASUS > Cool & Quiet > Cool & Quietを選択します。
2. Windows® XPを使用している場合、スタートボタンをクリックします。すべてのプログラム > ASUS > Cool & Quiet > Cool & Quietを選択します。
3. Cool 'n' Quiet!™ テクノジ画面が表示され、現在の CPU 周波数と CPU 電圧を表示します。

